

背中に尖った部分が多い
ポケモンは高確率で
一番最強になるし殿堂
入りもする

黄雨

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

おれはオヤジに比べたらそこそこのニドラン使いだがある日見たことないポケモン使いに現実を突き付けられた

トキワの森でピカチュウ探検隊やっていると通りすがりのレッドキャップ野郎と目と目があったので対戦することとなったので

あしらってやろうと思ってたが結論からいうと俺の手持ちのニドラン族はそのポケモンにストレートに惨敗してしまい、折角のおこづかい90円を奪われる結末となった。

強者の証・ジムリーダーバッジ集めの旅に出ようと思った(憤慨)

オリ主の手持ちのポケモンが増えたり進化したらタグが変化するかも知れないでしよう（リアル話）

追記・ところでブロント語って何？↓試しに検索↓知識が充実↓心が豊かなので性格も良い↓高レベル↓経験豊富↓頼りにされる↓彼女が出来る↓ケンカが強い↓すごいなーあこがれちやうな↓確かに凄い男だが謙虚に謙遜して「それほどでもない」というらしい

目次

1. 言っておくけど俺は既に二ドラン2 ひき持ってる	1
2. まずは準備運動に軽くトキワジム挑 戦	9
3. ライバルがどんなヤツかはまあ分 かってた(予知夢)	16
4. ダイヤモンド・パワーの精神力(はが ねタイプ)	24
5. お月見山タイムン前編	32
6. お月見山タイムン後編	42
7. 遠慮は最強だと思った(リアル話)	49

8. 恥知らずな理科系の男とカイのカセ キ	58
9. 期待のルーキー水棲ナイト	67
10. 残念な事に強力な追加効果はミス してた	78
11. メガトンキックって攻撃技はとて もとても強い	91
12. 忍者は耐え忍ぶ者である。そして 耐え忍ぶ者は辛い(忍者のシヘイ話)	102
13. ポケモン大好きクラブの匿名希望 がポケモン自慢をしかけてきた!	115

14. ねつとうは流れる水の勢いに炎の熱が合わさるダブル属性といったところかな ————— 127
15. 対戦が強い上にオトコマエ（ジムリーダー） ————— 137
16. かなり人気だからさらに凄いことになる（リアル主義） ————— 150
17. レポートにしつかり書き残した（レア情報） ————— 161
18. ……なんでお前泣いてんの？（名無しのナイン話） ————— 171
19. どちらかというとかチバ・シティが良いという意見（リーダーシップ） ————— 252
20. 汚いな……これがポケモンジムでやることかよ…… ————— 185
21. ピツキーン！ 閃き発動（期待） ————— 196
22. イツシユ語で指示出すのはズルイ意味がわからない ————— 206
23. おめでとう！ オムナイトはゴルナイトに進化した！（勘違い） ————— 219
24. リアルに目撃したという意味があつた（有意） ————— 229
25. なんだ急に拗ねてきた〜ナツメ ————— 241

26.	前門のニドラン族前門のオムナイ ト族状態でなす術なし	263
27.	鎧が盾なら盾は劍の地位にあるだ ろ？	275
27.	トゲ甲羅の炎熱ブレスパ	287

1. 言っておくけど俺は既にニドラン2ひき持つてる

おれはトキワのもり最強って言われてる

地元ポケモンマスターなんだが

やはりというかこのへんの生態系の頂点に立つべき

最強のぼけもんといったらニドラン族だな

トキワの森といえはよくpopするのはキャタピー族。

こいつはムシタイプのせいかな貧弱に弱弱しいので

どくのはりでなんかいかつくと簡単に倒された

たまに少しウザイのは突き攻撃に耐性あるビードル族。

こっちはニドラン族といえども毒の針ではたくさんつかないと倒せない

逆にニドランの♂だけがもつ強じんな角でつつかくと簡単に倒せる。

これって俺だけが知ってるひみつのとくせいだべ？

その二種類のむしぼけもんが進化したのがコクーンとトランセルというのだがどっちもまゆに籠る引きこもりタイプなので攻撃するのをためらう（心が広大）

おれはこの森でポケモン育てたベテランなんだが

ピカチュウ族を狙うハンターのように

トキワの森をぐるぐる回る回る回っているが

残念がはつきりいって今日まで見たことは一度もない。

地元の学校で稀にだがよくウワサになったこともあるけど

そろそろ結論を出すピカチュウ出るのはガセだな・

認めよう俺はこどもの噂に踊らされたアワレな小学生

こんなに頑張って探してるのに出てこないということは

もうピカチュウはトキワのもりには全滅にせいそくしてないのでしょ

それが最強のポケモン連れ歩いてると

全身からかもし出すエネルギー量が

オーラとして見えそうになってるのが恐いのか？

結局ピカチュウを見つけてくることは出来なかったおれはいったん草むらからでて木陰

にしゃがみこむとモンスターボールから飛び出してはびよんぴよん頑張ってたニドラー

ン二匹をナゲナゲするとそろってすり寄ってくる

かわいい奴だと思つて油断するとどつかのトゲが刺さるのでご主人様といえども油

断できない。

もしもだがペットに毒くらったりしたのを公共の国家権力とかにばれたら保健所に

呼ばれて一環の終わり。

どくポケモンのどくを扱えないトレーナーにはどくタイプポケモンの育成は難しい。おれはトレーナーだからよ。そういうふ手際で相棒をなくさないつもり。

ニドラン(♂)のニツクネームはリアオス

ニドラン(♀)のニツクネームはリアメス

こいつらはねーちゃんに捕まえてもらった。

ねーちゃんもまたニドラン族の♂♀二匹を率いてピカチュウゲット目指してたが

社会の荒波にもまれてしまつてな。

今ではタマムシ大学の女子大生だべ。

いっぴくに休憩中なので今からおやつの時間

海外ではポケモン系フードというのがあるらしいが俺はにゆうしゅルートもつてないので手作りゴハンだべ？

リュックからお手製の調理きのみを差し出してやると美味そうに食ってくれるのがホンワカして良い。

ニドラン族はオスもメスもだが背中に尖った部分が多くあの部分でさらに敵に致命的な致命傷を与えられる

♀のほうがちよつと僅かにトゲの数少なめだが

どっちの色も紫っぽいのでパールヘイズっぽいのが宿ってそうで強い
ちなみにパールヘイズっぽいのはどくタイプが持つと

光と闇が両方そなわり最強に見える

どくタイプ以外が持つと逆に頭がおかしくなって死ぬ

ついでにいうとパールヘイズってのはエスパートレーナーマンガで架空の完全オ
リジナルポケモンばかりが登場するベストセラー『じよじよに奇妙な冒険』に出てくる
どくポケモンだべな。

しばらくリアオス&リアメスと戯れていると学校では見たことない同い年か年下く
らいのレッドキヤツプが通りすがろうとしていた

あの帽子は伝説の最年少チャンピオンうちの一人のパクリのニセモノだな赤い帽
子被っただけで強くなったと思う浅はかさは愚かしい。

なんかたまたま目が合ったのでおれはそいつに歩み寄って言ってやった。

「おいイ？」

このもりにやせいのピカチュウがいるらしいぞ？

おまえみかけたことあるかよ？」

問いかけつつおれはニドラン♂を繰り出す

トレーナーは目と目があつたらタイマンという暗黙の了解はあもりにも有名。

ここでいうタイマンは神聖な喧嘩の意味だ。

レッドキャップは無言に首を振り、ベルトからモンスターボールを取り出すとこの辺では見たことないポケモン繰り出してきた。見た目はどちかというとひよろつとして女々しい感じなのだがしっぽに炎が宿り強者のオーラが見えそうになってるヤツだった。

開幕から必殺のニドキック使うと読んでいたらしく足払いしてきたリアオスがバラン崩してダウンしたところにギロチンのひっかくがきゆうしよにヒットしたのかりアオスがあつという間にやられてしまった。

「なんだ今のは・・・」と言うがそいつは冷酷だったひんしのリアオス引っ込めてリアメスをくり出すと返事の代わりに空中で爪を振りまわさせてきたが上段ガードで防いだそのまま攻め込まれると思いきや全て防いでやると思い

リアメスにガードさせてると突然火柱を上げながら物凄い勢いで突進してきたこれはまずいと情景反射でひっかかせるると偶然にも前足が投げみたいに決まってダウンさせた。

次の瞬間レッドキャップの目つきが変わった「どうやら手加減の必要は無いようだな」と言うとその獲物を見据える目つきが俺を捉らえるただならぬ気配に思わず後退りするとリアメスにも動揺が伝わってしまったのかついでに立ち上がった炎のしつ

ぽポケモンはその隙を見逃さなかった一気に駆け寄ると突然宙に舞いしつぽのひのこを散らす

目元が熱いのかリアメスがきゆうんと鳴いたところに鋭いつまさきがヒット俺はもはや袋の中のコラツタ状態のリアメスから思わず目を反らす。リアメスは悲しい鳴き声をあげて倒れていた。

放心する俺にそいつは「相手が悪かった。しかし今まで闘ったトレーナーの中でもっとも強かった」と言い残し去っていった

ちよとSYレならんしょこれは・・・？

おれはこのシマでは結構有名で対戦でも負けることはまず無かったんだが生まれて始めてほんの少しビビった。

悔しかった。

おれのシマじゃ今のノーカンだからという余地すらない完膚なきまでの完封に完敗だった。

その後トキワ・シテイのポケモンセンターで回復してもらい夕方すぎに実家に戻った俺は両親に言った。

「明日から強者の証ジムリーダーバッチ集めの旅にでることにした」

「やっと行く気になったか息子よ」

「ピカチュウはもういいの?」

「ねーちゃんの代わりに捕まえてやろうと思ったが捕まえたという証拠を出せといわれなくても出せるわけがないと言う理屈で最初からピカチュウの捕獲率は0%だった」

おれが落ち込んでるように見えたのかテーブルの隣のニドラン専用りびんぐできのみ飯食つてたオヤジのニドキングが立ち上がっておれの頭を軽く撫でてくれた。

子供の頃から一緒だったやつだがおれはコイツの背中のトゲから男らしさとは何ぞや、闘争心とはなんぞやと教えてくれた最強のポケモンそれがニドキング。

あのレッドキャップはただのコスプレ野郎じゃなかったまさしく鬼の力を持ち主と言ったところかな

火炎をまもってジャンプにとぶポケモンはまさに強者の一文字につきる

しかし最強ポケモンじゃない最強ポケモンがニドキングなのは当然に決まっている。その証拠のログを確保するためにおれはあの男に勝たなくっちゃいけない。

「よって弟よ。トキワの森で伝説になつてるポケモン、ピカチュウ探検隊リーダーの地位はお前に譲ろうと思う頑張つて捕まえる?」

「にーちゃんでも無理なのに俺にできるわけがないよ」

「やはりお前は馬鹿だな、大切なのは捕まえようとする意思であつて結果は無関係。おれの探索では見つからなかったがお前のやり方なら見つかるかも知らない向かつてい

く限りいつかは捕まえられるだろ？ 捕まえようとしてるんだからな」

おれはジョジョに奇妙な冒険の名台詞をパクってそういうと弟は黙った。

例えばだが「兄より優れた弟など存在しねえ」と言った兄が弟に負けるシーンある胸に七つの傷をもつゴリーキーの旅を描いた格闘ポケモン漫画『北斗ばくれつ拳』に有名な名台詞だがおれはそうは思わないな。

その名台詞を言ったゴリーキーは弟に負けてる訳だし、こいつは俺よりポケモンレンジャー系の探索能力持つてるかもしれないしな対戦ゲームでは負けたことないけど

夕飯後、おれは弟を連れて夜の22番道路にでむきニドラン♂♀を捕まえてやった。

弟にニックネームを決めさせそのままくれてやると飛び上がるほど喜んだがこれで俺がいなくなっても寂しくないはず

これはもかしもかしのその昔、シンオウ地方から移住後に代々からニドラン族を愛好し子供の頃から親とか兄弟のニドランとともに育ってきたポケモン大好きくらぶの1級廃人、ブロンテ一家のニドラン継承法なのだよ

2. まずは準備運動に軽くトキワジム挑戦

まずは準備運動に軽くトキワジム挑戦。

トキワ・シティは都会だな

トレーナーの強さの力のレベルも高い

ジムリーダーは最年少チャンピオンの中の2りのうちの1人というだけあって

ポケモン番長の腕自慢が集うし結構エリートのエリートトレーナーが

ジムに挑戦に侵入するのも見かけたことがある

俺はリアオス・リアメス二匹とバッジ集めの旅に出ると決めた翌日、朝イチでそんな出入り激しいトキワジムに入ろうとしたら開いてなかったみたいで鍵かかった。

トキワジムはポケモンリーグ公認ジムリーダーが存在する八つのジムのうちのひとつ。

このバッジ持つてると発言権強くなり就職にも有利。

更に全部集めると最終的に口答えできるポケモンいなくなるという。

「ほう？ 俺に恐れをなして立てこもり作戦か？ 早く開けるべき死にたくないならそうすべき」

すると後ろから不意だまに「どうしたアイアン？ 見学か？」と声かけられたふりか

えるとジムリーダーがちょうどポツポ族の最終進化形態、ピジョットからおりるところみたいだった。

逆立った髪に小シヤレた着こなしはクール系でイケメンの大人の男。

こいつトキワジムリーダーのグリーンっていつて講習とかで稀にだが学校に子供に教えに来てたこともある人で顔見知り。オーキドっていう博士の有名な孫らしいが2りいる最年少チャンピオンのうちの1りというくらいのことしか詳しくない

ちなみにおれの名前はアイアントっていうポケモンのように頑丈で働き者になれという意味をこめてつけられた名前らしい学校の授業の名前のゆらいで親に聞いたから間違いない。

「バッジ貰いにきたぞ。はやくあけるべき」

「お前旅に出てなかったよな、いまバッチ何個持つてる？」

「0か8かで言えばゼロでノーでナッシング」

「ははっ。ならおまえにやまだ早い」

「どういふことかと聞くと」「このジムはバッチ7つ集めてから挑む場所なんだよ。今のところはな」と言われた。

たまにいつも行っていた学校でも先生が言っていた気がするな……

「悪いな『ジム戦に出せるような、よく躰けた低レベルのポケモン』はまだ揃ってねーん

だ。おじいちゃんの手伝いしてたころの名残りで数は揃ってるんだけどな」

ジムリーダーになるということは色んな人と戦うことになるということだから相手のレベルに合わせたチョイスができないとダメらしいグリーンはその辺がまだダメらしかった。

まあ誰にでもダメな時期はあるおれは広大な心で「許してやろう俺は優しいからな」というと何故か苦笑いされたがその後礼儀正しい大人の対応で「バツジ七つ集めたらまた来い。相手してやる」と闘争心に火をそそぐようなこと言われた

それが引く理由にはならないので「バツジ戦じゃなくてもいいぞ。おれはおれのポケモンたちと一緒に世界最高のレベルを体感したいだけなんだからな」というと怖いもの知らずの子供に恐れをなしたのか対戦してくれることとなった。

ジムの中は広くてがらんどう。

まるで今までであったものを鬼の破壊活動で取り除いたみたいな空間であった

グリーンが対戦場のタイムンに移動するのを待ってやると合図がでたので

「いけー リアメスー！」

自慢じゃないが課外授業でトキワの森行つてるとき「キャタピーキラーですな」と言われたこともあるうちの1匹をくりだすとグリーンはまったく俺が今までまったく見たことのないポケモンを繰り出した、

「カッケェー！」

ついつい俺は興奮して叫んでしまったハガネカラーのかたいいしにゴツゴツとして尖った部分が多そうに見える背中では圧倒的強者の風格なのだが一本角は雄雄しく尖っていたおなかのシマシマ模様を見せる直立の姿はまさに岩タイプを削岩機！ おれが感動してるスキにグリーンはなんか指示してみたいでそいつはリアメスに踏みつけ攻撃しようとしてた。

「避けるべきー！」

リアメスはバックステツポで距離をとりジャンプしたところがそれはただの踏みつけ攻撃じゃなかったグラグラと地面揺らすしんきやく攻撃で着地狩りの追加効果があるのか着地したと同時にシエイクされ揺れ方がやばいのかしぐダウンした。

直撃じゃないのにこのいりよくかよ……

「つよすぐる……」

「こいつはチャンピオンになった時に使ってる古株だよ。」

お前がバッジ戦じゃなくても良いってんで久々に出させてもらった。

ま、お前のポケモンがこいつに一発でも当てたらお前の勝ちで良いよ！

これが元カントーチャンピオンのポケモンって奴か……（遥か高み）

バッジ戦ではもうすこし大人しいヤツを使うらしい。

どっちにしてもかなりヤバい。

おれはリアメスを引つ込めてリアオスを繰り出すと

リアメスがやられたことが分かったのかかなり張り切っていた

やはり分かっていていたことだがあの炎のしっぽポケモンより断然強い。

だが相手が強ければ強いほど負けん気に反発精神が高まるのがリアオス

攻撃的な前傾姿勢でにらみつけているとグリーンのほけもんはやせいが刺激されるのかギロリとリアオスを睨み返していた。

「後ろに回りこむべき！」

指示出すとしゅんかんりアオスはカカツと前ダツシユしサイドステツポで向きを変えると小柄の体軀をいかしたかく乱戦法を始めた獲物を狙うグラエナのようにぐるぐるぐるぐる回ってた。

いっぽうグリーンは指示を出さない。敵はリアオスを見失わないように体の向きを変えろがだんだん追いつかなくなってる

そろそろかな……俺はせんきようを見極めて「ニドキック！」と指示を出すと果敢に飛び出し背後から襲い掛かった「しっぽをふれサイドン」ついにグリーンが指示を出したサイドンとか呼ばれた奴はバックアタックをしっぽで迎撃するとリアオスは簡単に打ち落とされた。

「おいイ!? しつぽふりふりは攻撃わざじゃねーっよ!」
「じならし」

再びサイドンは踏みつけ攻撃みたいに足を振り上げたりアオスは頑張つて立とうとしてるけど動けないみたいだった。

じならしのしんきやく震動を直撃したりアオスは完全に力尽きてダウンした。

「ま、こんなものだ。」

おまえのニドラン♂、結構良い動きしてたぜ。

あとアイアン。対戦相手のポケモンがどんな動きしても動揺すんな。

お前の動揺は必ずポケモンに伝わって動きが悪くなる。

バトル中にそいつは致命的だぜ?」

言いたいことを言うとそのままグリーンはよく懐いたサイドンの相手はじめたのでおれはニドラン2匹つれて今日もポケモンセンターに回復させてもらいに行くハメになった。

ヒールマツシンで元気になったリアオスはボールの中で悔しそうにガタガタ暴れる出してやるとかまってちゃんで俺がついうっかりカツケエと叫んでしまったサイドンに嫉妬してるのを見て取れるだった。

「よしよしお前が最終進化したらあいつよりカッコよくなれるから安心して良いぞ」

おれはリアオスを撫でてなぐさめてやりながらオヤジのニドキングを思い浮かべていた闘争心溢れるナイスファイターでクチバのポケモン大好きくらぶ本部では「スゴいぞーカッコいいぞー」とよくやってたな……回想しているとリアメスもボールから出たそうにしてたので出してやるときゅーきゅー鳴いてリアオスを慰め始めた……

二匹がいちゃいちゃし始めるとジム挑戦者っぽい通りすがりのエリートトレーナー（リア♀）が「リア獣が……」と挑発してきたが誰も聞いてなかった。

俺は二匹が満足するのを待つてから言った。

「いつかアレに勝つぞ。おまえらなら出来る手はず」

リアオス、リアメスは揃って元気良く鳴いたやはりこいつらは最高だな。オヤジのニドキングと同じくとうそうしん溢れるナイスファイターだと悟ったよ（核心）

3. ライバルがどんなヤツかはまあ分かってた(予知夢)

決意新たにそばやくバッチを集めるべく

俺は昼前には地元を出てニビシテイに急いだ

ところが勝手知ったるトキワの森に

見慣れないガキが調子に乗っていた。

ツレの虫取り少年が泣いてたんだが

俺が近くまで寄ると「あつ、アイアンくん」と言うので

手を挙げて答えると背中向けてたそいつも振り向いた。

この手の調子に乗ったバカが良くかぶる伝説の最年少チャンピオンの証レッド
キャップ

それはもうオキマリのありきたりだからどうでもいいんだが

それに追加してなんでだか口元に黒いマスクしてた。

額宛つぼいのを斜めにして片目わざわざ隠してる。

これってゲッコウガその他忍者つぼいポケモンとリアルニンジャが登場するフィク
ション漫画『虎の印ぐるぐる』の師匠系キャラクターかかしのコスプレだべ？

年齢は多分だが俺と同じくらい

「お前絶対コスプレ忍者だろ……」

「んだテメエ？」

なんだ急に喧嘩売ってきた〜チャンピオンと忍者のダブルのコスプレしたやつ

おれはモンスターボール片手に「そいつ俺のツレなんだわ……慰謝料払ってもらおうか」というと「へっ。つまり雑魚か」ときた。格下に見られてムカついたので「俺はトキワの森のポケモン番町なんだがおまえ、ニドキックでぼこるは・・」と言う。「オレは未来のニンジャマスター！ ニドキックだ何だかしらねーが、眠ってしまえば動けまい！」という返事。

ちよつと僅かにガン光を交差せる睨み合い。

俺達は同時にモンスターボールを投げた

「行け！ リアオス！ 不意だまニドキックだ！」

「なにっ！」

モンスターボールから吹き出るフラッシュも収まらぬうちにリアオスはそばやく着地し力カツつと前ダッシュするとジャンプして後ろ足のキックをダブルで入れた。

「テメエ卑怯だぞ！」

「何か問題でもあるのか？ オレは学校の先生から「出来もしないことを言うな」と言わ

れたことはあるが反則だともヒキヨウだとも言われたことはない」

一流のリアルモンクタイプのポケモントレーナーは独自のアタツチメント装備でモンスターボールから出現直後のポケモンの動きを補助するという逸話は噂に名高いだろ。

「だ、大丈夫だ、半減で受けれる！」

はたして忍者ごっこクンがくりだしたのはマダツボミの塔で有名なマダツボミ。

どうやら突然のニドキックに動揺してるらしく目がバツテンになってた畳かけるなら今だべ

「つついてダウンさせろ！」「かわせマダツボミ！」

どうやら雑魚なのは忍者ごっこクンだったようだなピツクリしてるときに急に命令されても動けるわけがないここは落ち着くまでじっとガードさせるべきだった。

動揺してるマダツボミはどっちにどうかかわせばいいかひよろひよろするばかりで俺のリアオスのつつつき攻撃には全く対応できてなくてアワレだった

すると顔面にクツティカル（三倍攻撃）が入ったのかマダツボミは鳴き声をあげてダウンした。

「くっそー！ 後でポケモンセンターに行かなきゃなんねーじゃねーか！ 頼むぞコンパン！」

マダツボミ引っ込めて次に忍者ごっこクンがくりだしたのは全く見たことも無いポケモン

目元がキャタピーに似てるから多分むしほけもん。

全体的にまるくてよく転がりそうなんだが額のアンテナっぽいのがびくびく動いた。

するとリアオスは後ろから見ても分かるくらい露骨にやる気でないポーズになったので俺はタイムアウトの選手交代のスキを窺っていると汚い忍者は「ちようおんぱの術！」とか言つて耳障りな音をリアオスに与えた

露骨に嫌そうな表情に近くなったので俺はリアオスを引っ込めるとリアメスを繰り出した。

不意だまニドキツクはタイマンの最初のバトルのあたまで最も有効なので二回も三回も使わない。

「あーっ！　まただよ反則！」

「は？　ちよつと待てよ。何も反則してないが言いがかりばかりつけるのはズルい。生意気なんだべ」

「オレがわざの指示出した後にポケモン入れ替えた！　ポケモン入れ替えはターンの最初にやんなきゃいけないんだからなーっ！」

「お前プロのトレーナー？ 俺とスタジアム会場で公式戦でもしてるつもりかよ？」

いるんだよー厳密に対戦ルール守らせようとして場を白けさせるヤツ

俺の学校のグループではそういう空気読めないヤツは完全にシヤッタアウトされていた

まあそういうルール厨にはタイマンで分かれれば良いだけ

ちらつとりアメスを見るとコンパンとか呼ばれたやつ見て闘争心をみなぎらせ、倒す気満満になってた

だが勝手に飛び出したりせず俺の指示を待つてるのは素直に好印象しつけが行き届いてる証拠

「よし、しつぽふりふり作戦で行くぞ！」

おれの命令を聞いたリアメスはコンパンに背を向けてしつぽふりふりしだした。

顔をくるんとコンパンとか忍者とか見てたが次の合図に備えてるのが見て取れるだった。

「つは！ 対戦バトルでしつぽをふるなんて雑魚い技を使うとはな！」

コンパン！ ねんりきで黙らせろ！」

やつぱりこいつ油断したな

しつぽを左右にかわいくふるといいうわざには相手の油断を誘う隠し効果がある。

ケモナー特効だとオヤジは言っていたがケモナーというのは意味が分からない。

おれはリアメスに「いけっ!」とだけ指示すると首向けてるほうにダツつとかけだし何か空気かもじもじしてる塊を回避した「なんだとっ!?!」と忍者が驚くヒマあらばリアメスはぴよんぴよん頑張つて回り込み、接近したコンパンにどくばり〜にどげり〜ひっかくと流れるような連続技たったきこんだ。

「あーっ! 指示出してないのに何回も攻撃してる! ずるいぞー!」

「見事なコンビネーションだど関心はするがどこもおかしくはない。

お前は頭が悪すぎるな、俺が行けといったのはここまでの連続攻撃しろという意味」
コンパンは足元ふらふらでいつ倒れてもおおかしくなかつたが最後は「どくばり」と指
示出してトドメ。

後にはプライドズタズタにされたコスプレ忍者の雑魚がいた。

俺はツレに「いくら取られた?」と聞いてその同額を差し出すように忍者にいうと
金だけだして「これで勝ったと思うなよ!」と泣きながら去っていった。

「コンパン持ってるんだ。いいなあ」

すると虫取り少年は憧憬の眼差しで去っていった忍者の背中見てたおれは

「おまえのトランセルのニックネーム、キャッピーだっけ? そろそろ羽化すつぞ。
うらやむ時間があるならちゃんとバタフリー用のエサ用意したほうが良い。

羨望の理由で自分のパートナーをないがしろにするな」と言っ
てさつき回収した金を渡すと俺もニビシティに急いだ。

さいわい忍者がダッシュしたのはトキワ・シティのほうだったので

ポケモンセンターで鉢合わせることはなかった

かかくパワー・ポイントを回復してもらってから

俺は待合室のいつかくの座れるとこで二匹をボールからだすと

朝から良く頑張ったご褒美のおやつを食べさせ

なでなでしてやる「よく頑張ったな」と声をかけると

もつと褒めても良いぞと言わんばかりにきゅいきゅい鳴いた。

俺も腹減ってきたので回復待ちなのか近くで暇そうなおっさんに「どつか飯くうとこある？」と聞くと「このへんのことなら外に案内好きのやつがいるぞ」と言っ
て自分では動きたくなさそうだったな・まあいいが

暫く二匹を好きにさせてからボールに戻すとポケモンセンターから出てしぐの
とこにいる大人に「どつか飯くうとこある？」と聞くと案内してくれた。

行き先は一目さんお断りっぽい店構えの建物『ニビラーメン』なるB級グル
メが出てきたが岩塩がガンガンに効いたそれは今まで食ってきた塩ラーメン
とは一線を画する味わいではふはふしながら食べてるとパワーが沸いてくる
みたいだった。

いっばい750円なり。

………

昨日親に旅立つ宣言して良かったな。

そのときおこづかい貰ってなかったら足りてなかったぞ。

おれは飯代はらうと今度からポケセンの中にある旅のこともトレーナーだったらタダで食える飯のヤツですごそうと思った(リアル事情)

4. ダイヤモンド・パワーの精神力（はがねタイプ）

夕暮れ前にニビジムの前についたので早速はいると

中はトキワジムと違ってかなりの岩石の改造が施されていた

「おーっす、未来のチャンピオン！」

景色に圧倒されると入り口脇に実況が得意そうな衣装のおっさんが声かけてきた
「おれは既にトキワの森のポケモンマスターだべ？」と返すと「お、おう、そうか」とか
言ったあとこっ所り「変な子だなあ」と呟いたのを俺の地獄耳は聞き届けているぞ？

ま聞かなかったことにしてやる俺は優しいからな。

その後このジムはいわポケモンメインのジムだという情報もたらされた
いわタイプというのはぼうぎよが基本的に強い種族が多いというのが一般的に常識。
最強にまで育ってないニドラン族では苦戦が予想されるのだが

さいわい必殺のニドキックが対抗手段になるので後は精神力の対戦ということになる。

決まりごとだからとトレーナー手帳見せてくれと言われたので見せると

小声で「バッジ0個です」と通信っぽいのしてた

これがグリーンが言つてたやつかも

たぶんだが相手のバツチの数でだいたい使うほけもん選んでるんだろな。

まあいいがおれは意気揚揚と正面で待機してるジムリーダーに近づこうとしたところ

ヒキヨウにも岩の陰に隠れてたやつが「まちな！　こどもがなんのようだ！　タケシさんにちようせんなんて10000こうねんはやいんだよ！」とバトルを挑んできた。

そういえばジムにはジムトレーナーがいるのが一般的だったなトキワジムにはいなかったけど

そいつが繰り出してきたのはデイグダの穴で有名なデイグダ

俺はリアメスを繰り出し応戦すると仁義なきひっかくファイトが始まった。

まあとうそうしんの差で勝つたのはリアメスだったがな

続いてイシツブテ合戦で有名なイシツブテが出てきたが

リアメスが興味なさそうな表情なのでリアオスに入れ替えると

イシツブテは左右から飛び出してるウデのパワーで器用にたいあたり攻撃していたがニドキツクで撃退。

自慢のガンじょうさもけりの威力には耐えられなかつたみたいで倒れた。

ヒキヨウ者はなんか時間とか距離とか言つてたが素直に負けを認めて賞金を支払つ

てよかった。

するとリアオス・リアメスの様子がおかしい

ボールから出してやるとなんか背中がもこもこ膨れ上がってる

すわヤバイ病気かと恐ろしい未来を想像してると二匹は

ニドリーノとニドリーナに進化していた。

「おー。でつかくなつたなーおまえら」

おれは二匹をなでると声帯も育ってるのか頼もしそうな鳴き声をあげていた。

ジムに挑戦しにきてることも忘れて戯れていると「そろそろジム閉めたいんだが……」と言われたのでわれに返ると申し訳なさそうなジムリーダーの姿。

「おっとと感動しすぎた感。おれはいつでも挑戦を受け付けてるぞ?」

「きみが挑戦しにきたんじゃないのかい?」

「そうともいう可能性もある」

ジムリーダーは糸目のまま苦笑いしたっぽいが気を取り直したのか
ポケモンリーグ公認ジムリーダーの威厳漂うエックスの構えでした

「おれは ニビ ポケモン ジム リーダーの タケシ!

おれの かたい いしは おれの ポケモンにも あらわれる!

かたくて がまん づよい!

そう！ つかうのは いわ タイプ ばっかりだ！」

「そうか俺はダイヤモンド・パワーの精神力なのでいわタイプの攻撃くらいでそう簡単にはくじけないだろうけど」

「……………ほん！」

ふはは！

まけると わかって たたかうか！

ポケモン トレーナーの さがだな

いいだろう！

かかって こい！」

なんか前もって決めてたセリフ言ってるみたいに関係ない

しかしそんなことはタイマンが始まったら関係ない

「いけっ！ イシツブテ！」 「頼むぞリアメス！」

タケシが繰り出したのはさっきのやつと同じくイシツブテ族だった俺の先発はニドリーナになったリアメス。あんまりやる気なさそうな様子から相手が弱だということがわかった

まあニドキツクで仕留められるでしょう

「リアメス！ にどげり！」 「イシツブテ！ まるくなれ！」

リアメスにやるきがないのでイシツブテが先にウデとか丸くして顔面ガードしたりリアメスのキックがダブルで決まるがやつつけるには足りてない

ま十分なダメージを与えたっばいっけきのニドキックで更にダメージは加速して倒れた。

「うむ。いわタイプはかくとうタイプに弱い！」

ちゃんと勉強してらみたいだね」

「それほどでもない」

タケシはイシツブテを引っ込めて次に繰り出したのは今までまったく見たこともない巨大なポケモンだった。岩と岩がつらなりゴツゴツしてる超重量級のヘビィ・ハブネーク！ 鋭い牙はみあたらないが雄雄しい一本角が強者の風格をかもし出していた。

たぶんシユミでポケモンやつてるやつはこの巨体だけみて「勝てるわけがない」と諦め表情になる

俺もその巨体の全長に圧倒されかけたがダイヤモンド・パワーの精神R Y く、つまり鋼のように硬い精神力でこらえる（はがねタイプはいわタイプにつよい）

リアメスは心配そうにこっち見てたがおれがメンタル持ち直すと安心したようにデカイのに向き直った。

「行くぞリアメス！ しっぽふりふり作戦だ！」

リアメスは育った体軀をしならせてしっぽを振り始めるとタケシは完全に視線がリアメスにしっぽに囚われていた。もし化してこれがケモナーってやつか？

しかしタケシは気を取り直して「イワーク！ がんせきふうじだ！」ときげぶとイワークと呼ばれたバカデカい奴はうなり声をあげてのしかかるみたいに岩のボディを落とそうとしてくる。「行けっ！」俺はとっさにダツシユさせたが時既に時間切れ。岩籠の鳥籠に捕まってしまいだっしゅつすることはできなかった

閉じ込められたリアメスが見えない！ 見えにくい！

だけど指示どおり頑張ってるのがガンガン岩蹴る音で聞こえていた「リアメス！ 良くやった！ 戻れ！」声を張り上げて引つ込める意思を示すとタケシはイワークを移動させたスキマを縫って俺はリアメスをモンスターボールに戻した。

「指示できない状態と悟るや手持ちに戻すか。」

うん。きみは筋が良いね」

「頼むぞリアオス！」

俺がリアオスを繰り出すとなんかいつも以上に張り切っていたイワークよりタケシに闘争心剥き出しでかなり頼もしく見えた。するとタケシは「たいあたりだ！」と指示するイワークはその巨体をいかしたフルパワーたいあたりを繰りだしてきたが何回かニドキツクしてるとイワークは倒された。

タケシは「良く頑張ったなイワーク」と労うとイワークをモンスターボールに戻していく。

「……ほん！

きみを みくびって いた ようだ

ぼくに かった あかしに

ポケモン リーグ こうにん グレー バッジを さずけよう！

グレー バッジを つけてると

それだけで きみの ポケモンは つよくなる！」

「マジで？」

バッジのあるなしでポケモン強くなるとかズルイ」

「あつ、すまない。その効果は一昨年から無くなってるんだ。

たまにうっかり間違えちゃってね。聞かなかったことにしてくれ」

なんか締まらないオチだったがともあれタケシからグレーバッジ貰った。

これでバッジ0個のやつより発言権強くなるな素晴らしいバッジだすばらしい。

「きみのポケモンはきみによく懐いているし、淀みなく指示を受け入れて行動していた。

ちゃんとポケモンと向き合って、パートナーとして尊重してる証拠だ。

きみにはこの『岩石封じの技マシン』をあげよう。

ニドキングやニドクインに進化すれば覚えられるようになるはずだ」

「ほう、おれの将来性を買ってるのか？ タケシはなかなか分かっていているな」

俺はジュースを奢る約束をしようとしたがワイロっぽくなるらしく断られた。

もう日が暮れたので今日はもうポケセンで泊まってくと良いとオススメされたおれはヒールマツシンで回復してもらうに行くついでにそうすることにした。

ちなみにポケセンの飯は食えたモンじゃないというレベルではないが幾らでも食べたいというレベルでは無かったタダ飯食って味に文句つけようなんておこがましいから黙って食ってシャワー浴びてクソして寝た。

5. お月見山タイマン前編

ニビ・シティといったら何かと言われたら

やはり一番にあげられうるのが博物館なんだが

社会化見学でいったことあるからスルーして三番道路。

つぎのひの朝、ヒールマツシンで良く休んだ二ひきと一緒にあさごはん食べてからトキワ側じゃない東の出入り口からしっぽつした。

ここはニビ・シティのポケモン自慢たちがたむろしてる三番どうろだという

朝からぼけもんと遊んでた奴らと対戦挑んだらそこそこ応じてくれたんだがポツポにコラツタ、キャタピー族にビードル族、あとたまにオニスズメとかイシツブテ使ってるやついたがどれも俺のニドラン族には敵わないようだな。

リアオスもリアメスもどっちもだが身長・体重変わって動きに感覚が違うから破壊力バツ牛ンの指示がてきかくに出せてるは言いがたいが、シユミでポケモンバトルしてるやつらなら誤魔化せるラベル差だった。

リアオスは男子から尊敬の眼差しを、リアメスは女子からは羨望の眼差しで引き寄せていたらしいカッコいいカワイイとの言葉に得意げだった。

ちよつと進んだ先になんか2り組が見たことのないポケモン使ってきて即ひん死に瞬殺されたがそいつらポケモンに人生捧げてそうなオトナだった

これは明らかに今の実力の範囲外なのでノーカンのノーコンテスト。

こんなとこで何してるか聞くと外来種のせいでタイプが変わったっぽい野性のプリン生態調査してるプロフェッショナル研究員なんだと。

いったんポケセンに戻ってからその先に進むとそのうちお月見山のふもとにつくんだがリアオスもリアメスも興味しんしんに歩きたそうにしてるのがボールガタガタさせて伝わってくる。

おれはテキトリーな草むらに入つて二匹ともボールから出してやった。

そしたら2ひきともくんくん匂いかいだりマーキングしたりしてるとそのうちやせいのぼけもんも近寄つて出てくるんだがそいつらは見慣れないニドラン族に警戒してるのか鳴き声とかで威嚇っぽくナワバリ主張してきた

「あんまイジメすぎるなよ」とだけ言つといて自主性に任せたトレーニングさせてると

リアオスは立派になった角を活かしたパワーファイトを、リアメスは鋭くなった爪を活かしたテクニカル技をよく使つて対戦のタイマンでもそういう風にしてほしそうなのをけなげにアツピルしてくるのが伝わってくる

そいえばポケモンは戦うのが好きみたいだぞ？

ぜいいんがそうというわけではないが好戦的で強くなりたがってる

そのこんげんはやはりというか、野生の掟だからだよなあ・

焼肉定食という名台詞を学校で教わったんだがこれはよわいままだとつよい炎ポケモンとかに

焼肉にされるのが嫌だから強くなりたいたいんだという意味の四字熟語だべ？

しばらく遊ばせてから褒めてやり、お手製ののみフード食べさせてやるとからだのガタイのサイズに比べて量が少なく見えた。

やはり進化すると食い気も増すみたいでもっと欲しそうな鳴き声をあげますが残念ながら配分的にここまで。

ぐっと我慢させてボールに戻した。

やれやれ、昨日ダチのきやつぴーがどうこう言ってたが俺のほうがダメみたいだな

いったんニビ・シテイに戻ってフレンドリのシヨップで良さそうなフード探すんだが残念がはつきり言ってどれもピントくるものはなかった

ボールの中の二匹に見せながらなんだがあんまり

良さそうなりアクションかえってこ無かったしな探してもムダ

そしたらニビジムリーダーのタケシが入ってきて俺に気付いたのか「やあ」と声かけてきた

「ジムはどうした？」と聞くと昼飯休憩なんだと。ニビラーメン食ってたらしい。

「きみはどうしたんだい？」

「昨日こいつら進化したからよ、今までの飯だと満足たらないみたいで

良さそうなの探してきたんだがタケシのオススメはありますか？」

すると2ひきが好きな味聞かれたのでリアオスは辛いのが好きでリアメスはしづいのが好きだと答えると「この辺がいいかもしれない」と意見もすっかりするブリーダーシツプを取つてた

慣れた手つきに四つくらい市の販ポケモンフード取り出すと「こつちがリアオスくん用。こつちがリアメスちゃん用。半々に分けて混ぜてあげるのさ」と言うさまはポケモン育てやさん顔負けの熟練っぷり。

おれはオススメされるがまま買う前に店員に味覚があうかポケモンに味見させて欲しいと言うと困った反応されたがそのうち店長でできて事務室につれてかれた

すると「ホントはダメなんだけど」と前置きしてから味見させてくれた二匹とも満足したみたいなのでおれはタケシのオススメポケモンフードを購入することにつけていした

やはりジムリーダーはやはり優秀だな……今回のことでそれがよく分かったよ〜タケシ感謝

値段は旅の子供のトレナー料金で四つ300円と傷薬程度の値段に安かった

かいもの後、店長とタケシに「ありがとうございました」とお礼すると

「今後ともフレンドリイシヨップを」鼻唄に！」「バッジ集め頑張れよー」とエールもらえたので今後ますますの健闘を期待するのだった。

いったんポケセンで回復したり飯食つたりしてからまた三番道路を歩くんだが

再びおつきみやまのふもとについた頃には夕暮れの時が近づいてきていた。

こんな時間から山越えるのは危険が危ない。

というのも何年か前に土砂崩れかなんか起こって

いちぢきは山の洞窟入り口にあったポケセンも閉鎖されてたらしい

今は復興してるがそんな危ないところ夜に踏み込むとか

間接的に言えば自殺と同等だろ……

とりあえずおつきみやま洞窟前の上り坂のぼって洞窟に入らないルートを探そうとしたがやはりというかなりのやせい専用のケモノミチしかみえなかった

まだ日は沈んでないけどどうくつの道のりがどれくらい長いかと思うと気がひゅん

ひゅんい

だが俺はちよつと思いついたことあってポケギアでかーちゃんに電話。

「あらアイアン。どうしたの？」

「いまお月見山の前まで来た。なあなあねーちゃんにピッピ捕まえたらよろこぶかよ？」

「あらいいじゃない。でも今はあなたの冒険中なんだから、あんまりお姉ちゃんのことばっかり気にしてたらダメよ？」

ぶつつ。とロクに会話しないうちにあっさり電話きられた淡白の反応にむむむとなったが見かけたら捕まえてばそこん通信に転送してやることはけつていしている。

お月見山のぴっぴといえはカントー地方ではけつこう有名で、もしもだがヤマブキ・シテイとかの大都会でファッシュョンのかわいさコンテスト会場あったらピカチュウ&ピッピで埋め尽くされそうなくらい！

そこにイーブイ派閥やらコアの人気をを誇るプリン派閥やらが参戦するとなるともはやかわいさ激戦区なのだがどのポケモンもどちかというところかなり希少種

中でもイーブイは規制される前に乱獲された結果いまではほとんどやせいにいないらしい。

そいえばテレビ番組でどここの地方だったかイーブイのたまごの繁殖頑張つてやせいに増やそうとしてるってニュースあったっけな。うろおぼえだからあんまり覚えてないけど。

ポケセン入るとちようど出ようとしてた山登り男っぽい大柄のオトナがあんのじよ

う「夜にお月見山に入るのは危ないよ?」と注意してきたそいつは洞窟の入り口にたむろしなんか調べてるんだが「ピッピゲットしたいんだけど」と話かけてみたところ怪訝なか鬼なつた山のことは山男に聞くというのは当たり前だろ?」

分からなかつたら人に聞けという名台詞はあもりにも有名。

すると山登り男は気分よくなったのか「ピッピは夜のほうが気持ち出やすいけど、周りが暗くてフラッシュユってわざがないと真つ暗でなにも見えないよ」「満月の夜にはピッピが山の広場で踊っているけど、無粋だからやめた方がいい」「今夜は新月だから人の足じや入れないくらい洞窟の奥の方にいるかもなあ」等等という有力な情報を提供してくれた。

おれはお礼してからそのへんの段差に腰掛けると、冒険の経験のレポートに今のピッピ情報とかジム戦の出来事、ポケモンフードのこととか、とにかく思いつくまま書き残している。「あつ、てめーは!」とはなしかけられたのでそっち見ると忍者がいた。

「おいイ? おまえストーカーかよなんでついてくる?」

「そりゃこっちの台詞だぜ。なんでここにいんだ」

これでは五十百歩だ俺はバッチ集めの旅だというと集めた数聞かれたのでトレーナ手帳見せつけると「なんだ一個か。やつぱり雑魚だな」とか言ってきた「じゃあそういうお前は一個以上もつてるのかよ?」と聞くと6個のバッジが輝くとれーな手帳見

せつけられた。

「前ので勘違いしてもらっちゃ困るぜ？」

俺が本気のPTだったらテメーなんか楽勝なんだからな」

「本気ポケモン連れ歩いてない時点で底の浅さが知れるな

おまえもし化して手持ちコロコロ変えますか？

ポケモン愛つてものがねーっのかよ」

「うるせー！ 愛だけでバトルに勝てるか！

ポケモンバトルは遊びじゃねーんだよ！

勝負しろ！

もう一回勝負したら今度は絶対に俺が勝つんだからな！

実力差つてやつを分からせてやる！」

なんかガーディの遠吠えみたいにきやんきやん鳴くので「うるさい気が散る。今レポート書いてるとこだから」というと忍者は「あくしろよ」とだけ言つて黙つた。

おれはレポート書きながらもなんでマダツボミとコンパンだけ連れて

こいつがトキワの森うろついてたかに想像の翼を羽ばたかせると

どうせピカチュウ目当てだなと踏んでいたんだがどうやらその通りみたいで

忍者の師匠に修行の一環で捕まえて来いといわれたらしい。

「くだらん煽りではなく論理的に反論してもらおうか

それが出来ないなら俺の勝ちだ」

「くやしい？ w w w なあなくやしい？ w w w ごめんーお前が二年かけたのにオレは

一日で捕まえちゃって w w w」

「どうせピカチュウ捕まえてないくせに適当こくなよ

ただの僻みなのは見抜いてるぞ

捕まえたなら出せと言ってるのに出せないのが証拠。

まあ出せるわけがないがな。実は捕まえてないんだから」

すると言いつ返せなくなつてゴマカしたいのか

とにかく対戦対戦とやどりぎのたねみたいに粘着がウザイので

俺はレポートを書き終えると「もう勝負ついでるから」とだけ行つて

ポケセン行つて部屋の確保しようとしたが「逃げるのかザコイキング？」と

しつような煽りに普段は確かに心優しく言葉使いも良いおれでも

あまりの粘着ぶりに完全な怒りとなつた

仏の顔を三度までという名セリフを知らないのかよ

「ボコボコにされたいらしいな」俺はモンスターボールを握りしめてそう言うと「ボコボコにされるのはテメーだよ」と返されたおれはボールを投げつけた

6. お月見山タイマン後編

「いけー！ かげぶんしんの術ー！」

いまだに名前も知らない忍者ごっこクンとのタイマン戦

忍者はヒキョウにもボールからポケモンくり出すと同時にかげぶんしんさせるとい
う

汚い反則技を使ってきた（不意だま行動させるのは良いが攻撃しないのはヒキョウ）
俺は正堂堂とリアメスを繰り出すとまずは誰が出てきたかみやぶった

そいつゴルバットっていう、ポケモン漫画でよくワル者の手持ちにやられ役で倒され
たあくつぽいタイプのやつ。

たぶんだが間違いなく俺の身長よりデカくてそのうえ空中をパタパタ忙しく飛んで
いるのが分身わざのせいでブレブレに見えた。

「ほう。ニドリーナに進化してるじゃねーか。月の石でも拾いにきたのか？」

だが関係ねーなア！ かげぶんしんの術ー！」

同じ技ばかり使って雑魚丸出しだな、まあいいが

リアメスは残像が見えるほどのゴルバットの動きについていけないみたいで必死に

きよろきよろしてた。逆に俺はどっしり構えて汚い戦法に対抗する作戦タイム中

しかしポケモンバトルはいっだってリアルタイム。こつちが動かないと見るや忍者は更にぶんしんさせていた。

常にぱたぱた飛んでるポケモンをちじょうポケモンが物理的に捕らえるのは難しい
空中圏は完全に支配されてしまい基本的に圧倒的不利

しかしパタパタするのにエネルギーのパワーつかって飛び続ける持久力ないのでそのうちスタミナつかれて羽根休めに降りてきたところをマウントとって押さえ込みみまコボコにすればよいというのがちじょうポケモンがひこうポケモンの主な攻略法。

しかしヒキョウにも分身してるとなるとスキだらけなのにスキだらけじゃない普通にこうげきやってもまず当たらないと言っていいでしょう

のんびり考えてる場合か？ 考える時間があったら攻撃！

とあわててけしかけるのはむしろ思うツボツボで

スタミナ失われる上にいくら攻撃しても当たらないフラストレーションに

ポケモンの怒りのボンテージあがって、いつもなら当てれる状態でも当てられなくなっちゃえしまふ……という逆効果の悪循環に陥ることになるやせいのバタフリーに痛い目にあつたから間違いない。

仕方ないので取っておきの切り札を出す

これ見たらこいつもブロンテ家の一子相伝の奥義に土下座で謝罪することになる（勝利）

「戻れリアメス！ 行けリアオス！ ガンガン行こうぜ！」

おれはリアメスをモンスターボールに戻さず手招きすると寄ってきた代わりにリアオスを繰り出し自主性に任せるとびよんびよん頑張ってた。

とことこ戻ってきたリアメス撫でながら俺は「おまえ電気びりびり覚えてるか？」とタイムマン中にあるまじき声かけにリアメスはきゆ？ と首をかしげてる

「ハッ！ 勝負を捨てたか！ まだまだかげぶんしんのじゅつ！」

ちらつと見るとリアオスはイライラしながらジャンプ攻撃してたぜんえん角攻撃当たらないのがムカついてるのは確定的に明らか。だがチャンスはぶんしんばかりやってる今しかないおれのリアメスへの声かけは続く「かーちゃんのセイブクインが使ってたべ？ 溜め池のニヨロモやつつけてたべ？」と言うと悩ましげに体ゆすったりぐずるがあんまり覚えてなさそう

ちなみにセイブクインというのはかーちゃん手持ちのニドクインのネームだべ。

俺はリアメスの腹のほうに手え伸ばすと内臓刺激してやった。

「もつとかげぶんしんのじゅつだ！」

お前一生かげぶんしんだけやってろ

しばらく刺激してるとリアメスからビリっとくるのですぐ離れるパリパリツツと目に見えるくらい電気がびりびりが全身に纏いだしはじめた

ニドラン族は普段は使わないが内臓のいろんなどこに特殊器官もってる

これは野生に生きてるとき環境にてきおうして一部だけ目覚める系のパワーなんだが

一生使わないワケじゃなく普段は別のことに使ってるらしい

これを技マシンとかで刺激すると目標の技しぐさま覚えられるワケ

おれはオヤジからニドラン族の特殊器官活かしたわざ教え訓練を受けてる

これはブロンテ家に代々受け継がれる秘伝技の門外不出だから詳細はひみつ。

カントーで博士といったらオーキド博士だけどニドラン族に関してなら絶対ブロンテ家の方が専門家で詳しい

「はははははは！ もーっとかげぶんしんのじゅつだ！」気分良くリアオス見て笑ってるムカつく奴がいたがもうこれ以上調子に乗らせないここから勢い根こそぎひっくり返す「良くやったリアオス戻れ！ 行くぞリアメス！ でんげきハア！」「はあ？」

リアメスのまと絞らない全方位電気タイプのビリビリ攻撃がゴルバットに当たった。

ぶんしんは範囲攻撃に弱いというのは忍者漫画では稀にだがよく書かれる「どれが本体か分からないならすべて攻撃すればいい」とかそんな台詞を言ったのはだれだったかな……とりあえず俺の勝ちは決定した。

「ウソだろおい！ ぐ、ゴルバット！ き、きゆうけつしるきゆうけつ！」

「ついできのでんげきハア！」

攻撃なんか当たるわけナイト思ってたんだろうな、ゴルバットはまともに飛んでられないくらい動揺してるところに更なる電気ビリビリがきて、今にもノックアウトしそうになっていた。

それでもおやの言うこと聞いてリアメスにちゅーちゅーしようとしたせいしんりよくは認めるが時既に時間切れ。前半のムダを取り戻すことは出来なかった「でんげきハア！」ゴルバットは飛べなくなって倒れた。

「デメエ汚えぞ！ インチキだ！」

「ポケモンバトルは遊びじゃねーとか言った口が何をほざくやらアワレで仕方がない。

もう一回勝負したら今度は絶対に俺が勝つ（苦笑）」

「ちっ。遊びは終わりだ。行けヤドラン」

堪忍袋の尾が切れたのか逆に口数が減った忍者はヤドンの井戸で有名なヤドン族っぽいけどヤドンじゃない別の何かを繰り出した「サイコキネシス」忍者はマジ切れした

声で言った俺は雷属性の衝撃波を再び撃たせたが

ヤドランとか呼ばれたやつ顔色一つ変えることはできなかつた直後ニドリーナは空間がぐによぐによしてワケワカランなんか捕らわれて苦しそうに倒れた。

リアルでサイコキネシス始めて見たこれが最強のエスパー技ってやつか・

「出せよニドリーノ。さっさと終わらせるぜ」

という忍者は容赦とか全くしそうになかつた俺はリアメス引つ込めてリアオスだと再びサイコキネシスのパワーがくる「かわせリアオス！」多分当たたら即ひん死っぽいので空間ぐによぐによ避けさせるがヤドランは顔色一つかえずサイコパワー操作してリアオスを捕らえる。

リアオスは必死にあばれて超パワーからのがれようとするがついには力尽きて倒れた。

「これがオレとお前の本当の実力差だ」

「……………」

おれはたつぷり沈黙してから「おれのシマじや、今のノーカンだから」と言つてやった。

成長差押し付けてパワープレイとかトレーナーの実力差じゃないからノーダメージだから

ただ一言いうと多分同レベル体だった最初の対戦ではおれが勝ちってるってことだな

「負け惜しみ言いやがって。とにかく、オレの勝ちだ！」

「おまえがそれでいいならそれでいいけど？」

それで勝ったことになるんならな」

おれは大人しく賞金くれてやってすぐそのポケセン行こうとすると忍者は立ちはだかった。

「なんだよジャマすんなよ俺は今からコイツラ回復させるだよ」

「お前、名前は？」

「アイアンだけど人に名前を聞く前に自分の名前って学校で教わらなかったか？」

「オレはセキチクのシハイだ。」

テメー、さっさとバッチ集めやがれ。

お互い八個集めたら決着つけんぞ」

シハイって名乗ったヤツは言いたいことだけ言うとお月見山洞窟に入っていた。

「……やれやれ。こうも敵視されてしまっただけなのはのんびり旅もできにくい（呆れ）」

俺はポケセンに入って2匹をヒールマッシンに預けるとレポートにさっきのタイムの反省点ガリガリと書き込んだ。

7. 遠慮は最強だと思った（リアル話）

その日の夜にムカつきで眠れないんだが
おれはポケセンのタコ部屋から起きると

そのまま外に出た。

2匹の入ったモンスターボールはヒールマツシンのとこだから無い。

ポケモン連れ歩かないでやせいの近くウロウロは危険なんだが

しぐそこにポケセンあるからまず大丈夫の手はず

空は月明かりが無いので星明かりなんだが

それでも暗く、段差も見えにくかった。

そろりと洞窟中覗くと暗くてなんにもみえにい

おれはそのへん寝そべって夜空みあげてシハイとのタイマン思い出してたあのヤド
ランというポケモンはたぶんヤドンの進化系だべ？

しつぽにトゲトゲと尖った部分が多くおそろくだがあの尻尾を振り回す戦法

得意に見えるけど実際はエスパーの超能力技攻撃でやつつけられた。

ということはあのしつぽはガード専門の盾の役割の可能性もある

尻尾切断耐性を備えてさらに最初からバックアタックに警戒するとは用心深いポケモンだな

正面ならばやしつぽでは防げないと突っ込んだところをトラップでサイキック発動に迎撃するのが隠された真の本当のタイマンスタイルとみた。

これ突破するとなるとステッパ能力の更なる向上が必要エスパー攻撃は連続ステッパで回避（超反応）

あいつらも進化したことだし内臓器官の覚醒進めてもいいかもしれない

だがオyajジは口をすっぱくして言ってたが『対戦中にポケモンに行わせる作戦や技は数を絞れ』という縛りを俺は忘れてないぞ。

そもももの大前提ポケモンバトルはトレーナーとポケモンのチームプレーだということ

トレーナーが戦況見る∨考える∨指示を出す∨ポケモンが指示を聞く∨指示を理解∨指示に合わせた行動

とこのように見て考えて決めてからじつさい動くまで時間がかかるんだが、有利になるかもとたくさんさんの作戦やわざを仕込むのは逆効果。

なぜならばやポケモンが指示を聞いてから実際に動くまでに「どうやるんだっけ？」と考えてしまうから。いちおうパソコン通信の機会判定でレベルとかステータス見れ

るのだがそこには何故かかしこさのステータスなので大した精度じゃなさそうアテナにならない。

実際にバトルしてるポケモンが考え込んで思考するのはどう考えても致命的にスキだらけ。

成長するに連れて感覚的に身につくヤツとか体動かす系はわりと本能的に出せるけど今回おれがやったみたたく人間側がポケモンに眠ってるポテツシャル覚醒させるやつは下手すつとすぐ忘れるらしいからな。

指示してからすぐ繰り返し出せるようになるまで仕込みの訓練期間も必要だし

そういう考える行為やるのがトレナーだべ？

そこで俺は考えるわけだが今のアイツらだったら『でんげきは』『みずのはどう』『ベノムシヨック』あたりならちやんと覚えられると予想

実際いちぶ予想通り、リアメスはちやんとできてた。

『れいとうビーム』『10まんボルト』『アイアンテール』『どくどく』とかそのへんはもし覚えさせるとしてだかもっと強く成長してからのほうが良い急に覚醒させると内臓がビツクリするから一気にやっつけてしまうとカラダが故障に痛める原因になる

なやましい問題だ悩ましいと頭を回転させていると洞窟内からゆらゆらほのおが近づいてきた。

ヤバイポケモンかと思いい俺はポケセンのほうに起き上がって走るんだが洞窟内から出てきたのは例のレッドキャップだった。その隣で出歩かせてる炎のしっぽポケモンは前見た時と見た目が違ってスタイリッシュになってた

「……………」

レッドキャップは俺をちらつと見るだけで無言で通り過ぎポケセンに入ろうとするんだがおれが「おいイ」と声かけると足が留まった。

「そいえば名前聞きたかったんだがおれはアイアン。お前は？」

「…………ああ、誰かと思えばトキワの森のニドラン使いか」

「思い出したようだな。で、お前の名前は？」

「ない」

「ナイン？」

「名無しだと言った」

「じゃナインで良いこの間は負けたが次は勝つから」

「…………、……………」
「そうか。頑張れよ。じゃあな」

なんか相手されてないみたいでムカついたがどちかというと社交系じゃない可能性もあるどっちにしても会話は終わられたナインはポケセンに入っていった。

おれも夜空みるセンチメータータルの気分がなくなっただけで借りた部屋戻って寝ること

にする。

つぎのひ。預けてたポケモン回収して飯食つてると

シハイとかナインとかも食堂にいるんだが

別におれら仲良し子良しじゃないので

同じテーブル囲んだりしなかったんだが

シハイがチラチラ見てくるのが目に付いていた。

ムシして飯を食い終わるとまずは腹ごなしに外で軽く運動。

せっかくの坂道なので2匹とも出して坂道ダツシユのかけっこさせるんだが

リアメスはたまに勝手にバチバチ

電気系の制御ができてないっぽいな。

するとリアオスがぐると恨めしそうに唸り声。

ストレス溜まってるかよ？

昨日のシハイとのタイムマンでいいトコなしだったからだな

坂道の下にある草むらで野性のポケモン相手させてストレス発散させてやった。

けどイライラ理由はそれだけじゃないみたいでどうやらリアメスのでんげきは

羨ましがってるのが態度から伝わってきた。

おれはリアオスなだめるべくナデナデするところんと腹見せて「おれにもやれー」と

態度から言葉が容易に伝わってくるくらい全力でアツピルしていた

昨日どうするか考えよといて良かった俺は『みずのはどう』のパワーに目覚めるポイントのツボをぐりぐりしてやった

したら何でだか角の先つちよから氷出してきた「おいイ？ 間違ったかよ？」どうや

ら俺はアミバのニツクネームをもつドクログだったらしい

アミバってよ？

北斗ばくれつ拳に出てくる敵キャラクターだべ？

これじゃ俺わるものの悪タイプだべ？

困るべ？

おれ不良じゃねーしよ。

これじゃ不良だべ

おすところ違ってたのか、れいとうビームの氷属性の内臓器官刺激してたらしい

一度ポチツとなと押しした以上もう元には戻せない！

その日はでんきビリビリさせてるリアメスと角の先つちよから氷出してるリアオスの属性慣らしに今日は山へのアツタクやめてにして慣らし運行することとなった

さいわいリアオスはビーム攻撃氣にいったみたいで飛んでるポツポツ狙ってはビーム撃って外してすぐパワー切れしてた。ぽそこんの機械的判定ではれいとうビームの命

中率100%らしいけどアレ偽情報だな

それから飛んでるぼけもんの回避率ってかげぶんしんどころじゃないくらい異常に高いのか？

するとリアオスは早くも息切れに呼吸が荒れていたやはりれいとうビームはまだ早かったか。ステータス画面には乗ってないスタミナ切れしてるのは火を煮るより明らか。

こういうのポケセンで回復させると息切れクセつくからよ、おれはそのまま坂道歩きさせて鍛錬させてやった。

ま昼と夕方の飯時間にはポケセンのヒールマツシンの力を借りたがな。

その日の夕飯の時の話。

なんか殊勝な態度でシハイが寄ってきたんだが「おまえ技教えできんの？」と

きたので「ニドラン族だけな」と答えると「なんだ使えねー」とか言つてすぐ席を離れた

ウザイなお前ケンカ売ってるのか？

ま勝てない勝負はしない墓穴を掘るシユミじゃないからな。

どうやらそのままポケセン出たっておつきみやま洞窟にアタックするみたいなんだ

ちよつと前にナインもポケセンから出て行つてた
なんだあいつらピツピ狙いか？ まあいいが。

次の日も同じ予定で過ごした普段使わない属性にうごきに馴染ませながらわざの訓練で一日使う。

そんな訓練中の昼すぎに偶然にも草むらでプリンとエンカウントいたんだが俺は調査員のこと思い出して、毒針でしつようにつついて弱らせゲットしてやった。

そのままニビ・シテイのほうに三番道路歩くと調査員の研究員がいたのでプリン入ったボール差し出すと喜ばれ、お礼に『エコーボイスの技マシン』くれた

ちなみにねーちゃんはプリン派閥じゃないのでねーちゃんに送ろうとは思わなかったぞ？

このエコーボイスというのは連続攻撃させると威力があがる鳴き声タイプの音属性わざらしい

音属性というのは優秀そうだな音波耐性があるとないとかじゃ攻略難易度変わるくらいムツカシイRPGゲームもあることだし貰ったものは使いたいというのが人のサガ。

しかしここはグツと我慢したなんでもかんでも教えるのはよくない
というのとはあらかじめ思つてたしな。

色々教えさせたある日突然なにをポカンと忘れるかわかつたもんじやない

俺は「せっかくだですが遠慮します」と『エコーボイスの技マシン』をつき返すと「それではこちらの気がすまない」と金一封（10000円）くれた。
遠慮は最強だと思った（リアル話）

8. 恥知らずな理科系の男とカイのカセキ

何日かしてるとシヘイもナインも

ポケセンに見かけなくなつてた

たぶんハナダ・シテイのほうとかその他に進んだんだらうな

こつちもリアオス、リアメスどつちもかなり準備万端に近いし

そろそろ行くか。

しかし洞窟というのはその響きだけで好奇心への刺激が強い（大胆不敵）

おれのふいんきが伝わるのか？ひきどつちもが興奮するのが分かった。

しゅっぱつに決めた日の朝、飯食つてポケセンから出たところ

「カセキヤッター！」とか言つてダツシユする白衣メガネくんが洞窟から出てきた。

まともに探検しようとしたところに水が差された感。

そいつあわててダツシユしてくんだがなんか途中で白衣のポケケからおとしものし

てた

「おいイ」と声かけたときには坂道の下だった。

・たぶんだがニビかがくはくぶつかんまで行つたのかも。

おつきみやまでカセキといったらはくぶつかん持つてくのがカントー流らしいべ？
社会科学見学で言つてた。

何回も三番どうろ往復するのしんどいんだが仕方がない俺もカカツつとダツシユして再びニビ・シテイに戻り博物館のほう行くとあんのじよう「ない！ ない！ ナンデ!？」とアワレにも泣き叫んでいるたぶんさっきのメガネくんの声がした

俺は通りに歩み寄り「おとしものだぞ」と差し出すと「アーツ！ 泥棒！」と言いがかりつけてきた騒ぎを聞きつけた警察が話しかけてくる

おれは客観的な第三者的立場からの事実を言ったがそれとは別に詳しく聞きたいらしくニビ署につれていかれた。

ま無罪なので冤罪になるわけがない

おれが冷静に話してたのと冤罪なすりつけ犯がパニックつてたのが幸い

誤解は解けたんだがムカついたので返せ返せとくるメガネくんに俺は言った
「せつかくおとしもの届けてやったのにお前はわめてばかり

そのうえ無罪のつみで人を陥れようとするやつに

親切にいられるほどおれはオトナじやない見ての通りコドモ

ムカついたので返してやらないんだからな

どうしても返して欲しかったら『拾つてくれてありがとう』くらい言うべき」

するとメガネくんはブチ切れ言葉にならない叫び、警察も困ってしまい警察官ポケモンのガーディもわんわん鳴くんだが一言いえばいいだけなのに、このメガネこつちがガキだと思つてナメてるのかわるくちばつかりいつてくるかなりの悪印象。

なんかもうコイツは話にならないな俺は警察官に「そいえばこういうところではカツドン奢つてくれると俺は聞いた」というと「いいけど、出前取るから自腹になるよ?」と現実を突きつけられたじゃあいいです。

ポケモンポリスはまだ話を通じると思つたのか俺をなだめにきたが

「謝れ! 謝れ! はやくあやまつて!!」

とこつちも向こうのネガ発言に負けず

対抗しているといい加減にしてほしいんだらうな、

提案でカセキ所有権はポケモンバトルで決めたら良いというと

なぜかメガネのほうが俄然やる気になった

別におれはカセキ欲しいわけじゃないんだが・・・まメガネが謝罪する気なさそうだし、なんの進展性もないままメガネがされると俺の怒りも溜まってしまふ

おれらはニビ署前で向かい合い距離をとり、警察官立会いのもとタイムマンすることになった

「頼むぞリアオス!」「いけ! コイル!」

メガネが繰り出したのは名状しがたい空とぶ磁石アンドネジだった。その中心に位置する本体っぽい丸いのについた1つだけ目玉がジツとリアオスを見つめる。リアオスはやる気があるんだかないんだかの反応。どうやら♂でも♀でもないみたいだな。

だがそれよりもコイルとか呼ばれたそいつがどうやって浮いてるのか全く正体が掴めない！ 掴みにくい！

「コイル！ でんじは！」するとメガネは先に指示出したこちらも「リアオス！ れいとうビーム！」と対抗。

狙いをつける訓練は十分だったみたいでビームはしっかりコイルにあたった……けどあんまり怯んでない。

機会系統っぽいだけあってビーム耐性持ちかよ。

交差攻撃になったのかお返ししの電気エネルギーのビリビリがリアオスを襲う

みたかんじ痛くないっぽいが目に見えて動きが鈍った

むむむ。

実際に見るのは始めてだがこれは……マヒ状態だべ？

むかし学校の授業でちゃんと習った。

動きが遅くなって、たまに痺れて動けなくなるべな？

開幕からこっちの戦闘力奪ってくるとはいやらしいやつ「リアオス！ ガンガン行く

ぞ！」おれは細かく指示するとかえって動きづらいと判断してある程度任せた「ヒヒツ！ コイル！ ソニックブーム！」コイルはメガネの指示で波動拳で有名なカラテ王対戦格闘ゲームに出てくる外人カラテ王の必殺技使ってきた。

ソニックブームは目に見える衝撃波エネルギーだからリアオスは左右にステップして避けてる。するとコイルは連続して何回もソニックブーム撃ってきた。たまに体が痺れて動きにくいのか当たってしまっただがリアオスは下がらずにちかずき間合いを詰めていく。

かなりのインファイト距離まで近づいたのでおれは「今だひっさつニドキック！」と指示するとリアオスは何日か前の対ひこうタイプとの雪辱を晴らすようにして飛び上がり必殺キックをたったきこんで大ダメージ与えた

コイルの目がバツテンマークになってるケドけつとばしたから距離は離れてしまったんだがリアオスはガンガン攻めるため、その場で狙いつけて角のさきつちよから氷出してドドメ。

「クソ！ 行け！ ヤドン！」

するとメガネは忍者のシヘイ使ってたヤドランの進化前、ヤドンをくりだした

ヤドンにはヤドランと違って尻尾のトゲトゲの盾はないのでぼうぎよも低いはず「リアオス！ 角攻撃だ！」「ねんりきィ！」先に指示したのは俺なんだがリアオスは体が痺

れて動けないっばいところを超。パワーが襲ったソニックで削られすぎてたのかりアオスは倒れた。

「よく頑張ったなりアオス。行くぞリアメス！」

おれはリアメスを繰り出すと「でんげきハア！」と雷属性中心に攻撃、ヤドンはねんりきうつてくるが「かわせ！」とサイドステップで回避させると「なにイ！」とメガネは驚いていた「反則！」と警察官にリアルいちやもんつけだしたがどこが反則なんだ？ どうせネット上のマイナーな縛り多数のローカルルールしかやってこなかったんだろうなアワレでしかたがない。

俺は避け指示とでんげきハア！ の繰り返しで現実でリアルに痛い目みせてやると何回かうつてるとヤドンは倒された。

「よくやったリアメス！」おれはリアメスを褒めて撫でてやると笑顔でyろこびの鳴き声をあげたかわいいやつめ。リアオスもポケセンで回復したらうんと褒めてやるべきだな。

そしたらメガネくんは「アイエエエ！ 負けた！ 負けたナンデ！」と叫んでどっかに帰っていった警察くんは「きみポケモン強いねえ」と褒めてくれた。

その後ポケモンポリスから、カセキはくぶつかんに持つてくと復元させてくれるという有力な情報をもたらされたので何年かぶりに博物館に行き、拾ってからロット勝ち

したカセキ渡すとわけわからんマッシーンに突っ込まれるその後色々動かしだすのが、しばらくすると殻に籠るタイプ（巻貝）のポケモンが出てきた。

「このこはオムナイトっていつてね。起源は遡る事——なんか歴史の授業にできそうな眠い長話——なんだ。そんなポケモンが手に入るなんてやったね！ さあ、受け取ってくれ」

職員のセリフは話半分に聞いてたがとりあえず古代からいるナイトだということは分かった。

しようじき言っておれは化石ポケモン欲しいからカセキもってきたわけでも何でもなく、

ただポケモンポリスにオススメされたからもってきただけなんだが

もし博物職員がほしがるならそのままあげても良いとすら思ってたが気が変わった。

古代からいるナイトというのは多分だけとおそらく絶対に強い。

甲殻率で一番最強になる。

もちろんニドラン族の次点に最強って意味だけど。

みたかんじ背中は殻に隠れて見えないんだがその神秘のベールに隠されたカーテンの幕を開けるまでもない絶対尖った部分がおおいはず少なくともしよくしゆはたくさんある。

このままおれの手持ちチームに入れてやっても良い。

そのためにも重要なニックネームつける必要性を感じるな。

オムレツ……は俺がいま食べたいメシ。

ナイト……なかなか良い響きだべな。

オムナ……サポナ……ホイミン……ツムリン……まきがい……しよくしゅ……よし、
決めたぞ。

「今日からお前はナイトと呼ばれることとなった覚えておくと良い」

おれはナイトを抱き上げて軽くゆすつてやり、何度もナイトナイトと声かけしながら
おやの主張するとナイトは目ん玉ぱちくりするのだがそのうち鳴き声あげると笑った
のでモンスターボールに入れてやった。

そこでおれは遅れながら気付いた

オムナイト族の育て方がまったく分からない！

分からなかったら人に聞くとという名台詞に従い職員に聞いたがちやんとした育て方
までは知らないらしいが

なんでもタケシも復元して育てた実績があるというのでカカツとジムにタケシに
聞きに行く

何匹か育てたことがあるらしく親身に教えてくれた。

タケシは賢い（核心）

どこの地方もだがトレーナーはみんな知っとけ？

シユミで飼ってるやつもホンキでポケモンリーグ目指してる奴にもおやくだち情報
なんだが

ポケモンの育て方で困ったときは地元のリムリーダーに頼ると良い

飼い方から一般論の生息までなにかと教えてくれるし、もし知らなかったとしたらその道のエキスパートのれんらくも使って聞いてくれるという。

おれはタケシから話された情報をレポートにバツチリ記録してるともう夜に近いのでニビ・シテイのポケセンで寝泊りするのだった。

明日こそおつきみやま洞窟越えるぞ（決意表明）

9. 期待のルーキー水棲ナイト

「お前ら新入り入ったぞ。愛想よくしろよ」

このやりとりは、ハナダ・シテイ前のみずべでやった

おつきみやま洞窟は短く、しぐ四番道路に出られて大した冒険にならなかった（残念）
こんな狭い洞窟でピツピ見つけるとか実在するなら見つけたりそうなるものを

通りすがるときにはぜんぜん見えなかつたからすぐ諦めといた

ところでなんで仲間を紹介よりハナダ・シテイに急いだかというところ

新入りの古代からいるナイトは水性の存在だからそっちのが良いと思っただけ。

俺はもんですたーボールから3匹ともだして初顔合わせの顔見せやったところ

隠していたが2ひきも気付いてたか、

ぎやうぎやう鳴きながら興味しんしんだっただが

ナイトはド迫力のニドラン族にビビったのか殻に籠っていった。

顔の位置じめんに近いからなー下から見上げて恐いのも分かるがこれからはずっと

一緒だべ？

するとリアオスは態度悪いナイトの不良っぷりに憤慨なのか

前足でまきがいペしペしする「脅したらビビるべ？」俺はナイトを抱き上げるとそろりと顔出して目ン玉ばちくりしていた。

しばらく慣れさせる必要性を感じるな。

当たり前の話だが今まで1りと2匹でやってきたところに新しく1匹入ったらバラスが崩れる。

言っておくけどタイプ相性のことじゃないぞ仲間の生態系の序列とかのことだぞ。

トレーナーが新しい仲間なったヤツに厚遇していると古参メンバーは面白くないし、かといって古参優先していると新入りは自分の居場所無いみたいに感じる。

だからちやんとポケモン同士で馴染ませないといけないワケ

たまにそれ見よがしにタイプバラバラのテンプレばーちーってヘンな紹介文書いてるネット文章あるけど実際に飼ったことない架空の理論だろ嫉妬に狂ってるすがたが想像できないらしいちよっと見ただけでもむつどもえの牽制合戦始まってもおかしくなさそうなチームだから世話とか簡単じゃないに決まってるリアルだったらマトモに育てられるわけがない。

それこそ先駆者のグリーンとか、選ばれたポケモンマスタークラスじゃないと簡単じゃない

俺は実際に飼ってる側からの意見からして

実際にポケモンの世話して面倒見る大変さ知ってれば

気軽にトレーナー制度の最大ポケモン携帯数六匹編成とか簡単に出来ないとわかるはずだが……

おっとと脱線しすぎたかな

おれは抱えてたナイトをリアメスの顔の上あたりに差し出すと

リアメスはクンクンするんだが、しばらくすると匂いだけじゃ足りないのか

後ろ足と尻尾で立ちおれのマネして前足でナイト抱えた

流石はリアメスといったところか、本能的に母性タイプの堂に入った抱え方だった。

その姿をリアオスは面白くなさそうに見てる

「シットする時間があるならお前も触れ」おれはリアメスからナイト受け取ると今度はリアオスの顔の上あたりにナイト差し出す。

そしたらリアオス不安が鬼なつて

リアメスのマネしてしっぽと後ろ足で立ったは良いんだが

抱えるポーズが不慣れなのが分かりやすく手渡してやったあと

ナイトの触手がちよろちよろ動くたびにビクツとしてビビってたべ？

その後ナイトをまた回収してやり三匹つれて散歩にかわぞい歩いてると

なにを思ったのかナイトは水に入る気分良さそうに泳いでいた。

そのうちリアオスもリアメスも浅いところではしゃばしゃ水遊びに興じるんだが

ここは自然の川であって安全地帯じゃないナワバリ荒らされたやせいのポケモンが襲い掛かってきた

水の中は地上戦とは違ってが違うのでやりずらそうにしてると

ナイトが背後から敵に忍び寄りからみつくとおもむろに牙むいてかみついでやつけた。

……ほう。

期待の水棲ナイトの面目躍如といったところかな。

おれがナイトの活躍に関心が鬼なってる

「コラーッ！」

とモノすごい怒鳴り声が聞こえたそっち見ると

何故かビキニ装備（リア♀）がすごい剣幕で近づいてきた

「ちよつと！ どくタイプポケモンをハナダ川に入れないで！」

いま、野性にかえしたゼニガメの養殖をやってるのよ！」

とか言った俺はニドラン族2りをボールに戻した。

ビキニ装備（リア♀）はぶんぶん怒りのパワーで俺を引っ張る

あわててナイトもボールに戻すおれだった

そのままハナダ・シテイまで引つ張られポケセン通り過ぎてジム内まで連れていかれた。

「ちよつとーカスミさーん！ この子どくタイプのポケモンハナダ川で泳がせてたんですけどー！」

ジム内は室内プールだった夕暮れ時がげんいんなのか一人だけ泳いでた。

……いや、泳いでるんじゃない泳がせてるのがトレーナー。

そいつ俺が全く見たこともないポケモンに乗ってたみたいで水の上立ってるみたい
に立ち上がった。

「ふーん？ 種族は？ どくタイプの技は使ってた？」

「ニドラン族。どくわざは使ってない」俺は先回りしてすばやく答えた

「ニドランなら大丈夫だわ。一応言っておくけどね、みずタイプのポケモンは水質の變化に敏感なの。水中でどくどくだとか、毒撒き散らすようなマネはよしなさいよ。

ハナダ川でメノクラゲ大量発生なんてニュースになったら、とっちめてやるんだから」

「わかった気をつける」

言いたいこと言ったっぽいカスミって呼ばれたやつはプールサイドに出るとタオル使っていたビキニ装備（リア♀）から「そんな軽くすませないでくださいよー」と言わ

れたが「神経質になりすぎよユカリ」と一蹴してた。

「あんた見ない顔ね。バツジ集め？」

「そうだぞ。ここのジムリーダーにも勝つ。」

おれは既にバツチひとつ持つてるから戦ったら俺が勝つ」

「あつそ。いつやるの？ 今から？」

「今は新入りのナイト……オムナイト族とニドラン族たちの仲良し作戦なので後回し。」

それ終わったら倒してやるから顔を洗って待っていろつて伝えとけ」

「顔を洗って、つて……ふふつ。ええ、待ってるわ」

カスミはにこりと笑って手を振った俺はジムから出ていった

今日の冒険はこれでおしまい。

隣のポケモンセンターで夕飯食ってシャワー浴びて糞して寝ることとなった。

それから何日か3匹仲良くなつかせるべく、バトルより散歩メインで歩いてると

地元の連中だるう者にバトル挑まれることもあつた水系のシティだけあつて水棲ポケ

モン使いそれなりにいた。

おれの手持ちでマトモに水中戦できるのつてナイトだけだからよ

それどころか陸地でも戦えるから水陸両用ポケモンとも言えるぞ

残念ながらナイトは地上ではかなりスピード下がってしまうんだが

トサキントとか、完全に水中専門ポケモンより活動の自由度高かった。

「ナイト！ からみつけ！」「ぴちぴち！ つのでついて！」

ミニスカート女子とのタイマン戦、ハナダ川にポケモン出しているバトルなんだが

正直行つて戦況がどうなってるかわかりにくい

水面ユラユラするだけで何がどうなってるかわかんねえんだよ

しかしあつちは何が見えるのか「かわして！」と言うので戦況わかつてるみたいだった。

どうやらトレーナーの俺側に水中戦の適正ないらしいかなり不可能に近い。

よつて100%中の100%わかりやすい戦法つかつた。

まずはからみつく攻撃でナイトと敵を状態をミツチャコの完全ゼロ距離に確保だろ？

ちよつと僅かにでもからみつけたの見えたら「かみつき攻撃だべ！」ナイトが普段は

謙虚に謙遜して隠している牙剥いてかみつかせる作戦

しばらくすると水面上にナイト浮いてくる

触手には弱つたトサキントがいた。

「俺の勝ちだな」

「アタシのぴちぴち、負けちゃったあ。」

キミのポケモン、強いね！ はい。120円」

ほらこんなもんだから定番戦法として繰り返しやらして熟練度確保。

そればっかりだと新参臍頂になっちえしまうのもちろん地上戦もする。

話によると24、5番道路とかそつちのほうこうはハナダのトレーナーの溜まり場なんだがシユミレベルのトレーナーには楽勝

しかし四、五人くらいの地元民のオトナが進化ポケモン使いでこいつらが結構つよく、勝ったり負けたりだったな少なくとも三連戦以上では勝てなかった「僕も昔はカントーチャンプを目指していたが、自尊心をへし折られてしまっただけ……」というそのうちの一人の台詞がやけに印象だった

草むらには地元のトキワじゃないだけあって見慣れないポケモン多いんだがニドラン族のパワーファイトには敵わないようだな。

中には一目さんに逃げるヤツさえいた。

このことから見てもやはりニドラン族こそ最強ほけもんなのが分かる。

ナイトも地上戦ではみずでっぼうブレス吐いて頑張ってたがくさのタイプにはとても弱いという意外な弱点が判明した完全にナゾノクサの養分になってた。

俺はその日までナゾノクサというポケモンを名前を全く知らなかったが

二撃確殺なみの高火力でナイトをダウンさせたポケモンとして注目

地元のヤツにあの黒っぽいフサフサ雑草ヘアーが何者か聞いて教えてもらった
「やせいのポケモンが一撃使うなよ・・」と思ったが逆にニドラン族だと楽勝だし
特にリアオスのれいとうビームだと逆にこっちが一撃なので

なんでだかと記憶を遡ったところ、一つの仮説が思い浮かんだ
「みずタイプはくさタイプに弱いだら、
で、いわタイプもくさタイプに弱い。」

ということとはナイトは始めからくさタイプにととても弱かったのか」
タケシのオムナイト族講座と合わせて照合すると驚くべき新事実が浮かび上がった
忘れないうちにレポートにしつかり書き残したが多分致命的な致命傷になってる。

だが硬い貝殻の盾でおおわれた防御力はニドラン族たちも一目置くほどで最初のう
ちは「俺の方が強い！ すごい！」というアツピルを怠らなかつたりアオスも少しずつ
だがその防御力をみる機会のたび後輩とか格下とかじゃない対等の仲間として認めは
じめているのがいままで飼ってきた経験でわかる・・これはかなり悪くない状況。

そいえば俺がハナダ来てから散歩コースにしてるとこは
その昔ゴールデンブリッチと呼ばれたらしい

ゴールデンブリッチの死闘といえはハナダでは結構有名イベントで

挑戦者はなんと五人のトレーナーと連続でタイマンしないといけなかつたらしい

ん？ ゴールドボールだったかよ？ まあいいべ（余裕）

そのイベント成功したら結構賞金貰えたって話だから

俺は散歩してる人の1りにもうやってないのかと聞いてみたところ

いちぢきロケット団っていう悪い組織のスカウト目的に悪用されたらしく

自主規制してもうやってないんだと

ちなみにロケット団というのは俺が小学生低学年のころには 完全崩壊した組織

詳しくは知らないし興味もないおれの人生で知る必要もないと思う

だってもう実在しないんだし

それから飯の話なんだがどうしてもポケセンのタダ飯以外のが食いたくなって

ハナダで美味いモンのオススメ何人かに聞いてみたところ

女子の言うハナダデラックスパフェと男子が言うスタミナにんにくラーメンとで見が分かれた

別に俺はラーメン大好きラーメンマンというわけではないが

スタミナにんにくという響きにつられてしまい

ラーメン屋の方に入ったがその正体はこってり系のミソラーメン。かなりのボリュームで味も濃くむせるくらいだったがそこでお冷で流し込むことになるのだがこ

の水が滅茶苦茶美味い！スタミナにんにくラーメンの味は引き立て役で

水のまちのおいしいみずが実は一番美味かった

一杯600円なり。

……頭が完全にフレンドリのシヨップに支配されてたらラーメン一杯〓スーパーボールになるんだらうなと思ったよ。

10. 残念な事に強力な追加効果はミスしてた

四番道路の草むらでの出来事

リアオスとリアメスが後ろ足としっぽで立って

サッカーみたくボールつぼいのをパスに蹴りあっていた。

ナイトはそのボールつぼいのにみずでっぼうブレス当てようとしてるが

転がるボールにはうまく当てられないみたいだった。

どうしてこうなったんですかねえ・・

たぶんいつもより寝坊した時間に起きたのが原因

おそい朝飯食つてるとき食堂のテレビについてた『雷速サッカー列伝ーマルマインイレブナー』見たのが原因なのは確定的に明らか。

まさかあのタイミングでマルマインが 大 爆 発 するところでヒキとはな……次
回が気になって仕方がないケドいまはバッチ集めに集中なのでアニメは引退中。

「おしいー そのへんにしとくべきー」

2 ひきが蹴ってたのは実はただのボールじゃなく

丸くなるタイプのポケモンであった

ちなみにマルメインじゃないぞ

そうだったらとつくに引つ込めてる。

その証拠に俺の声かけに蹴りあうのやめるとそいつ

丸くなるのやめて草むらに逃げていった。

リアメスは名残惜しそうにボールだったの見送って、そしたら急にリアメスのヤツしっぽふりふりしながら鳴き声あげて哀れみを誘うんだがオネダリしても何も出ないぞモンスターボールは有料なので（苦笑）

トレーナーのタシナミとして1D確保してるけどそんなポンポン投げるモンじゃなishina捕まえたのに世話できないからと野生にかえずどころか個人のパソコンボックスで永久保存殺しとかどう考えてもかわいそうとしか思えないんだが……

放置美

あそび切り上げて今度はおさんぽコース歩きにいくオムナイト族の地上での遅さには2ひきは慣れたのかリラックスしてるな

こいつらもだいぶ馴染んできたと思うそろそろジム戦に行くか？

考えながら歩いてるとハナダミサキにある一軒家から「やつてもたー!?!」と叫びに助けを求めてるっぽいのがきこえたここ何度も通り過ぎてるけどこんなの初めてなので玄関前から「どうすたー!」と声かけすると「なんでもないわ!」「なんでもあらへん!」

という返事。

「ジョウト弁なのは気になるが何でもないって言ってるのに

関わるのは無粋にすぐるのでそのまま通り過ぎといた。

昼過ぎの時間、おれはジムに挑むべく扉を開けたところが今日は週に一度の市民プールに開放してる日とのことでスイミング連中が多数対戦できる状況じゃないかった。

すると場違いのおれを見かねたのかカスミが寄ってきて言う

「あんた、準備はできたってワケ？」

「俺の準備できたがジムの準備はできなかったみたいだな」

「あのねえ、情報掲示板に書いてあることなんだから旅のトレーナーならちゃんと読んどきなさいよ」

「この曜日しか対戦しに來れないヤツもしいたらとしたりどうすんだよ俺は違うけど」
「事前に連絡があつたら別館開放してるわよ。」

「けど当日に急に言われてもねえ……ま、夜ならみんな帰つてると思うから対戦できるわ」

なるほど全く対戦が不可能というわけでもないらしい

おれはカスミに夜に対戦しに來る予約をいれると受け入れられた。

事前予約でタイムマン予定確保

あとは夜まで待つてるだけ

時間つぶしに町中ぶらついてると自転車屋さんという

トキワのオウフロードだとあまり縁にない店あったバイクの見た目がスタイリッシュなので

みせ入って見ると「乗せたり売ったりしないけど好きただけ見てつてよ」という

店長っぽいオッサンの声に俺は遠慮なくバイク見てた。

懐かせるため、背中のリュックから肩にかけて抱きつかせてたナイトが

しよくしゅ伸ばしてバイク触ろうとしてたがそれはダメ

ぺしつとはたくと縮こまったがズブとい性格なのかしばらくするとまたしよくしゅ

伸ばしてた

全国展開してるフレンドリのショップにも寄りひじょうのようなキズくすりとか、

ポケモンフード関連とか補充のついでに遊び用の蹴れるボールも買うことにする。

ナイトは色々食わせた結果すっぱいのが好きすっぱいのが味の好みが分かってきて、

こないだマヒさせらえrたし状態異常回復系アイテモも各種こずつだけ買ってやった。

するとフトコロ寂しくなるので金策必須なんだが

タイマンの格付けすんだのでタイマン相手してくれるヤツだれもいなくなつてた

自分のポケモンの実力が恐い（畏怖）

ま、なんだかんだでそのうち良い時間になったのでポケセンで飯食ってからのジム戦しに行った。

扉の先にはこないだのビキニ装備（リア♀）とカイパン野郎、それにカスミがプルサイドに待機

ジムは室内プールに丸太縛った船っぽい橋モドキとかで足場ができていた

水専門ポケモンじゃなくても戦える準備してあるらしい

タイムンはあの橋モドキの上にトレーナーも立ってやるんだと。

「よお少年。ハナダジムにようこそ、ってな。

まずは俺と戦って実力見せてもらおうか！」

とカイパン野郎は結構攻撃的でさっそくタイムンしたがってたそこに「待て待て、順番守れよ」と割り込みに実況が得意そうな衣装のおっさん

そいつ「おーっす、未来のチャンピオン！」という台詞からこのジムが水系のジムだという見たら分かる当たり前のこと言ってきた。

でトレーナー手帳見せろって言うから見せてやったら

他の3りも覗きこむ「12歳でバツジーつか……ハズレかな」と

カスミは無礼な態度だったが実際に戦ったらハズレかどうか分かると思うが？

少なくともジムトレーナーっていう前座で戦うこととなった2りはリアメスのでんげきでは余裕の楽勝勝利(対戦シーンはオールカット)

残りはカスミなんだが手早く片付けてジムリーダーに挑もうと思ってたら

カスミが実はジムリーダーだという衝撃の事実が開かされた。

こほんと咳払いしてから

「あのね きみ！

ポケモン そだてる にも なにを するにも

ポリシーがある やつ だけが プロに なるの！

あなたは ポケモン つかまえて そだてる とき

なにを かんがえてる？」

「もちろん死ぬまで面倒見ること考えてるに決まってるしそう考えないヤツにポケモン捕まえる資格ナイト思うけど？」

「へえ。小生意気にも良いこと言うじゃない。

だったら証明しなさいよ！」

ハナダジムリーダー、カスミが勝負を挑んできた！

「行きなさいスターミー！」「行くべ！ リアメス！」

おれは開幕「でんげきハア！」とさつきまでの二戦と同じように何か背中が回転して

る星型にライデインクラスの雷攻撃うちこむと「弾きなさいな」と言うど高速回転スピンのパリイで逸らされてしまった

流石ジムリーダーといったところか無差別電撃いなせるポケモンとは中々やる「サイコネシス！」するとカスミが指示で強力なサイキックこうげき出させた「かわせ！」俺はぐによぐによ空間ステップ回避させるとそのスキにスターミーとかよばれたやつはプールに潜ってしまった。

「その動き！ 遠征で使ってるスターミーじゃないですか！」

「バッチーつもち相手につかうポケモンじゃないですよ！」

「うっさいわね！ 私ジムリーダーとして、コイツのトレーナーの資質を見極めるのに適切なポケモン選んでるわ！」

外野がうるさいので「うるさい気が散る！ 一瞬の油断が命取り」というと2りのギャラリーは黙った。

カスミは言った「一匹よ。このスターミーを倒したらあなたの勝ち」と宣言スツと腕動かしたら水面に水しぶきが浮き足場のまわりぐるぐるまわった。洗濯物の気分を味わわされてるのかりアメスは水しぶき反応して頭も体もむけてるがそれより足場がグラグラでそつちに気が散ってるみたい

おれは指揮官の立場でうしろの引いた位置からリアメス代わりに戦況見極めない

といけない。

いま水の中テキトーにでんげきハア！ と撃つたらそのスキ狙われてると予想するのは簡単

出てきたところを狙うかそれとも……と頭を回転させると「サイコキネシス！」ときたマジかよ「飛べっ！」おれがさけぶとリアメスは前ジャンプして遠隔攻撃を逃れた「下がれリアメス！ いくぞナイト！」

水タイプリーダー相手に水中戦は圧倒的不利それでもおれはナイトをプールに繰り出すと潜水状態バトルが始まる……と、思ったか？ 思ってくれたらいい俺はそう願う。

「スターミー！ あがつて！ 10万ボルトよ！」

どうやらスターミーはそうとうのスピードアタッカーらしくしかも水陸両用なのかカスミに従い一気に空中にとんだんだけどその直後電気ビリビリ攻撃プールにたったきこんだ「ナイト！ 戻れ！」俺は電導の前にナイトをプールに戻した次に繰り出すポケモン？ もう場に出ているが？

「今だリアメス！ でんげきハア！」

実はボールに戻していないリアメスは準備万端に待機していたのだよ

渾身のでんき攻撃がスターミーにちよくげきした「いまだ！ どくづき！」追い討ち

の追加攻撃ってヤツだ

リアメスはフィールドに戻ってきたスターミーにコンボ決めれると思ったのか、みだれひつかきどくづきという連続攻撃でスターミーを襲った毒突き教えたことはないんだが旅前の進化前のころから『ホウエンわざわい浪漫るろうにアブソル』のカントー地方放送に出てくる敵キャラの突き技見てこつそり練習してたのをおれは知っているぞ？

「サイコキネシスー」俺は完全に決まったと思ってたんだがカスミは違ったスターミーはまだ生きてて三度目を正直とばかりに放たれたサイコ攻撃はリアメスを一撃でノックアウトにもっていくほどの超能力！「最強コンボが完全に入ったのに……」思わず口から漏れた勝てるわけがないという諦めが鬼……いや、まだだ！

「よくやったリアメス！ もうちよつとだ！ 頑張れナイトー！」
「くさむすび」

リアメス引つ込めてナイトくりだしたらズベツとくさにしよくしゆ絡みつかれて倒れた。

「お、おお、おいいいいいいいいいいいい！！！」

ちよとこれSYレならんしょ・・・

ごくりと息を飲みナイトをひっこめた最後のーびき「お前がエースだぞ！ 決めろり

アオス！」「スターミー！　じこさいせい！」リアメスが与えた最強コンボのダメージが
みるみる治っていく

……

……

……

……

いや、まだだ。

頭ンなか真っ白になりかけた危ないあぶない
だがまだだ！　まだ終わってないんだが！

「リアオス！　れいとうビーム！」

「はい、合格！」

はあ？

スターミーは避けもせず、リアオスのれいとうビーム受けていた
見た感じ大したダメージじゃなさそうだったし

残念な事に強力な追加効果はミスしてたみたいだが

それなのに合格？

わけわからんね。

笑う坪どこ？

するとカスミは語った

「そこそこジムリーダーやって分ってきたんだけどね。」

十歳から冒険の旅に出たとして、二年かけてバツジ一つのヤツってたいてい惰性でやってるのよ。

そういうヤツは『勝てない』って思ったら即降参するわけ。

『このジムじゃ勝てない、まだ行ってない、勝てるジムを探しに行こう』みたいな？

だから私はアンタの根性を試してみたの。

途中で諦めるかどうか試してみた。

私の見立てだと、スターミーがじこさいせいしたときアンタ諦めた顔してたわ。

でもそこで踏ん張って持ちなおした。

最後まで諦めなかった。

それどころかちゃんと勝ち筋も残してたもの。

惰性でやってるわけじゃないって分ったから合格」

カスミはスターミーに乗ってこつちまでくると理解不能状態へ理解のためにせいりせ

いとん中のおれに「はい、私が認めたとて証拠にブルーバツジあげる」と手渡してくる。思わず受け取ってしまったがだんだん意味が追いついてきたので俺は

「は？　ちよつと待てよ。」

そういう理由なら受け取れない返す。

おれがバツチ集め始めたの今月からだしな

カスミの独自理論には当てはまらないと思う」

おれはカスミの手にバツチ返した。

なのにそのまま舞えればいいものを改めて俺の手に押し付けてきた。

「はー？　それだと私がトレーナーの見る目無いジムリーダーになっちゃうじゃない。

あげるって言うてるんだから素直に受け取りなさいよ」

「自分のミス棚上げして足を出したな。」

根性認めたのは受け取るがバツチは受け取らないこれで良いか以後揚げ足取り禁止」

うぎぎぎぎぎ

グラグラ足場で押し合いへしあいなんだが

これ以上付き合ってらんないなのでしょうがなく受け取ってやった

「さいしよつから黙って受け取ればいいのよ頑固モノ！」と言われたが俺はこう返した

「明日このジムバツチの返却をかけて勝負しろよ

今度は正堂堂戦うべきだろうな・・・悪評が広まるのが怖いのか？」

というとなが面白いか笑いながら「じゃあもうそれで良いわよ」という返事。

その日の夜は不完全燃焼の感覚で終わった

俺は忘れないうちにスターミーの動き思い出してレポートに対策練るのだった。

次やったら絶対俺が勝つ。

翌日の再戦はヒトデマンっていう

スターミーの進化前とスターミーの二匹編成だったが

昨日のタイマンがウソみたいにあっさり勝った。

「わざと負けるのは反則行為に近いと思う」

「実はこれが適正レベルなのよねえ……」

その対戦ではナイトが汚名献上とばかりにかみつき攻撃で活躍したんだがカスミはナイトみて「あのオムナイトに使ってあげて」といって『ねつとうの技マシン』をくれた。

水のエキスパートから水ポケモンに向かってオススメされたので今晚寝る前にも使ってみようと思った

11. メガトンキックって攻撃技はとてとても強い

ゴールデンブリッジの先の広場、

おれはサッカーでできるボール渡したんだが

リアメスはこのやわらかいふにやふにやのじや

満足できないみたいだった

すると四番道路のほう指差して愛くるしく鳴くので

「今日が最後だぞ」といつてそっちに行つてやった

クールダウンに遊ばせたらハナダのバッチ手に入れたので隣の大都市ヤマブキ・シ

ティ行く手はず

そこで草むらで丸くなるポケモンしぐ見つけたのか

リアオスとリアメスでパス出しに蹴りあうんだが

蹴り心地が良いのか俺が買ってやったボールのときより楽しそうイキイキしてた

「ナイトこれいる？」おれは悲しみを背負ったやわらかいボール

ナイトに転がしてやると、しよくしゅでぶにぶに遊んでた。

するとかみついたがボールはびによくんと伸びるばかりで壊れることはなかった

その後ちよつとしてから上に乗ろうとして失敗

いきおい転がつていくボールをトコトコ追いかけるんだが

俺にも少しづつオムナイト族のかわいさがわかってきた。

そのうちボール諦めたのか殻に籠りだす「どうした？」と思つたら

転がつてボールのとこまで行つてた「ほう？」鈍い地上の機動力を

ごろごろで補う方法を思いついたようだなナイトは賢い。INT200はあるぞ。

そんなステータスはパソコンに読み込ませても出てこないがな。

さてそろそろか「もう行くぞー」と3びきをボールに戻そうとしたが

リアメスはモンスタールボール出戻りビームをサイドステツポでかわした

「おいイ？」リアメスはまるくなるポケモン抱え、

後ろ足で頑張つてこつちに歩いてぎゆるるる鳴く

このポケモンの蹴り味が忘れられないみたいだった（未練）

「だめだ。野生にかえしてくるべき」俺は正論言うのだが

目がうるるのリアメスの初めてのワガママに対応に困つてしまい

そのうちまるくなるポケモンはボール状態やめて

バタバタ逃げ出そうとしたが姿勢が悪いのかりアメスからのげられない

「おまえ分つてんのか？」

ソイツつれてくつてことは仲間になるんだぞ？

もしお前が仲間笑顔でキックしたがるようなヤツなら

想像を絶する悲しみがおれを襲うことになる」

というとりアメスはハツと気がついたみたいで

抱きかかえるパワー緩んだのか

丸くなるポケモンはリアメスのフトコロから一目さんに逃げ出した

俺はというともうあのポケモンがリアメスの餌食にならなければよいのだが、

と平和を願っていた

よほど思い入れがない限りいつかポカンと忘れるでしょうねそれがお互いのため

リアメスは最後に草むらに目を向けると別れの鳴き声っぽいのであげていた俺はリア

メスをボールに戻した。

なんかしんみりしてしまったが気を取り直して次の町

俺のポケナビに入ってるカントー地方情報によると

ハナダ・シテイを南に行けばカントーナンバーワンの大都市ヤマブキ・シテイ

ニビからハナダに行くときみたいだにダンジョンは無いから今から行っても余裕でつ

く

おれはいつたんハナダ・シテイに戻り

自転車屋さんのあたりから南に行くところ番道路

こっちはあんまり人いないが

トレーナーと社会人の棲み分けでしょう

朝と夕方に都会に行く人の出入りがあるからだろうな

バトル中「ちよつと失礼」とかりーマン通りすがられたら困るし

おれが気にしてもしょうがないそのまま南に歩くと

草むら隅つこのほうにしか無いちゃんを整備されたアスフォルト道が続く

とちゆうとてもカツコイイ自転車に乗った1りが物凄い速度で爆走していた

マツスグの道に枝分かれ道あったので行ってみると

その先にポケモン育て屋という看板ある建物

「僕はポケモン育て屋さん

もしきみが僕にポケモンを預けてくれるなら、

きみの代わりに育ててあげよう。

2ひきまで預かることができるよ」

「せっかくですが遠慮します」

奥に牧場っぽいスペースあったがほかには気になるもの何も無かった。

もとの道に戻るとかなりイカしてる自転車に乗った1りが物凄い速度で爆走してい

た

たぶんこいつらプロのロードレンサーかカントー版ポケスロン参加者だろうな
そうとでも考えない限りこのみち自転車で رفتたり来たりするのは意味がわからな
い

おれは自転車乗りの邪魔にならないように道の隅っこ歩いてやった。

そのうちゲートの建物までたどり着いたので中に入ると警備員

「お、旅のトレーナーくんかな？」

ヤマブキに入るのかい？

トレーナー手帳を見せてくれるかな？」

という俺は手帳を見せると

「うん。ありがとう。行つていいよ」

と言われたのでそのまま通った。

ゲートの先は想像を遙かに大都会でビル見上げて圧倒されていた

あれがシルフカンパニーってやつかー

凄いなーあこがれちゃな

右を見ればリニア乗り場、左を見ればポケモンジム。

まずは挨拶代わりに外からジム見ようとしたところ、なんでだかジム2つあった

「なんだこれは？」

「お、きみ、バッジ集めのトレーナーかい」

ゲートに近いジム前に胴着キャラのおにいさんがいるので聞いてみると

ヤマブキシティはジムの激戦区で2つのジムが

毎年公認ジム決めの対決が繰り広げられているらしい

「こつちが今年のカントーリーグ公認ポケモンジム。

そつちは今年、ヤマブキエスパ―道場なのさ」

「ほう？」

「おれたちは、かくとうタイプが エスパ―タイプに かつために

しんの カラテの ちからに めぎめたのさ！」

胴着キャラのおにいさんは誇らしげに胸をはった

一筋縄のジムじゃなさそうっぼいのが

このひとのふいんきから伝わってくる

俺は今日には行かないがそのうち挑戦することを伝えると

「いつでもかかってくるささい！」と言うのだった。

隣のエスパ―道場だって聞いた建物前にはヤドランと並んでポケつと座ってる、ヘン

なかつこしたおにいさんがいた

「どうした？」悲しい顔をしたそのおにいさんが「ぼくは三ヶ月前、エスパークタイプ対かとうタイプでカントーリーグ公認ジムの権利を巡って団体戦に参加した中堅なんです」「ほう？」

「全部裏目でした自信なくなっちゃいましたよ。はは」「そうか」俺はなに言っているかわからなかった彼は空元気で笑ってるのが一目瞭然で

「残念だったな」と言ったら「残念じゃないんです」とヤドランを見ながら言う「見えている手札に読み合いで負けたのが悔しいんです」

ヤドランはぼやんとしていたしつぽの巻貝がうごうごと動いていた「悔しい？ほう？」「僕らサイキッカーが絶対負けないはずの領域で負けたんです」なぜだと聞く前にかれは続けて言う「あつちのカラテ王たちは、そのポケモンも含めてどんなに不利であろうと絶対に勝つ、という気迫で通じ合っていた。気圧されたぼくの動揺がヤドランに伝わったんだと思います」

おれはグリーンの話を思い出したトレーナの気持ちはポケモンに通じているのだ結構のんきにマイペースっぽい見た目のヤドランでも影響があるというのは貴重な体験談

楽勝とかタカくくつてこの結果だよメンタルズタズタなのは間違いないでしょう

なんということだこのひとポケモンバトルに心がへし折れてる公認ジム決定バトル

は敗北に終わったエスパー道場にはかなしみとかだけが残ってたちなみにこの話は実際にあった内容で英語でいうとノンフィクション

おれは忘れちゃいけない大事な話だと思ってレポートにしっかり書き残した

記録美

おれの記憶によるとリアルモンクのかくとうタイプはエスパータイプによわい、という事になっている。

これはどくタイプも同じ。

おれは対策の回答にエスパー攻撃の指示受けたポケモンのこうげき当たる前に「かわせ！」で避ければ良いと結論づけたが今年のヤマブキジムだつていうかくとう系ジムも同じか？

それはまだ分からない

俺はまだみぬ強敵の悪寒にうちふるえているとシハイが歩いてた「あつ」「あつ」
どうやら目当てはヤマブキジムのようで

こいつはこのジムバッジ持ってないみたいだった

「ヤマブキにいるってこたあ、ハナダジムバッジは貰ったつてどこか？

ここは止めとけ。おれが勝てねーのにおまえが勝てるわけねーだろ」

という俺はこいつがやられるところ見たくなったので今からヤマブキジム見学希望

さっきの胴着キャラのおにいさんにそういうと自動ドア入り口とは別口から案内された

中はシンプルに畳部屋でけっこう広かったんだが

シハイはジムトレーナー戦とかなくジムリーダーのおっさんと

タイマンすることとなっていた

「行け！ ゴルバット！」「行くぞサワムラー！」

二人は同時に畳フィールドにポケモン出す「かげぶんしん！」と先手とつたのはシハイで汚い戦法で勝とうとしているのだが「サワムラー。メガトンキック」とジムリーダーがいうと膝から先伸びるケリ・キックが当たり前みたいにゴルバットに当たったゴルバットは倒れた

「は？ うそだろ？」

「エスパークタイプのおかげ、テレポートは全く別の場所に転移する。」

その場で多少ブレる影分身など動いていないも同然！

シハイにはぼやきにジムリーダーは答えた（律儀）

なんて強いキックなんだ、とそう思っている間にもタイマンは続く

シハイはゴルバットひっこめてヤドラン出した「ヤドラン！ てっぺき！」シハイがそう言うのとヤドラン前にサイキックな壁がぼうぎよに展開された「サワムラー。感覚を

とぎすませ」その指示の意味は俺には分からなかったがシヘイは焦ったのか「くっ、サイコネシス！」と攻撃させる「メガトンキック！」指示は2りほぼ同時だったが圧倒的にサワムラーのキックが速かったその蹴りはてつべきに当たらないで曲がるとヤドランのきゆうしよに突き刺さっていたヤドランは倒れた

「くっそ……行け、ゴースト！」

どうやらシヘイには俺がまだ見ぬ手持ちがいたらしい何かトゲトゲした黒っぽいもやもや何だがゲンガーというポケモンと似ているな。進化関係あるのか？

「サワムラー。こころのめ」「なんでそんなクソ技覚えさせてんだ！ ゴースト！ さいみんじゅつだ！」シヘイが指示したのはポケモンを問答無用のねむり状態異常にする強力なヒキョウわざであった果たしてサワムラーは……目を、瞑っている！ さいみんじゅつなんてアウトオブ眼中の外側だ！

「メガトンキック！」

眠らなかつたサワムラーのメガトンキックがゴーストって呼ばれたポケモンに当たったゴーストは倒れた

シヘイはガクツと膝ついて悔しがった

「対策、したのに、クソ、なんで、こんな」

「オヌシの対策は間違っておらん。ただ、対策の対策を打ち破る策がなかっただけのこと

とよ。対策の対策の対策を考えるか、我がエビワラー、サワムラーを正面から打ち破ったときこそ、このゴールドバッジを授ける。少年よ、精進せよ！」

途中ワケワカラン指示もあつたが確かに分かつたことはひとつ。

メガトンキックって攻撃はとてとても強いってことだ。

12. 忍者は耐え忍ぶ者である。そして耐え忍ぶ者は辛い（忍者のシヘイ話）

シヘイはそうとうくやしかったのか

賞金払うと泣きながらジム出て帰っていった

しようにじき言っておれ（調子に乗ってるからそうやって痛い目にあう）とか、

そういう系の上から目線にスカツと爽快な気分なると思ってたのにシヘイの様子に

むしろ真逆に胸糞悪くなった「きぶんわるいので帰ります」おれは案内人に

そういうと心配されたが構わず出ていった。

オモテの通りに出るとシヘイはジムの出入り口横で体育座りしてうずくまっていた

横に並んで体育ずわりしてやったが無反応たぶん本気で泣いてる

「惜しかったな」というとガバツと顔おこした「3タテのどこに惜しいところがあるんだよ……」と怒りをこめて言い放ち、続けて「笑えよコノヤロウ！ どーせオレは大口叩いてもあの程度だよ！」と怒鳴ったネガネガして怒れるならまだマシ本気で落ち込んでる人なら挑発されても無反応だからな

おれは客観的な立場からの第三者的な意見を言った。

「俺が惜しかったと言っているのはヤドランが鉄壁のバリアー張ったところ。

てつべきという技はパソコン表示のぼうぎよ力で換算するとおよそ二倍近くまで跳ね上がるというポケモンわざ研究博士の結果発表もある超強力なブロックわざ。

このわざ使ったとき戦況は完全にオマエ有利だった。

だがお前は焦って攻撃したのでせつかくのぼうぎよが水の泡になった」

俺が理論的にまつとうな意見言つてやるとシヘイはポカンとした

それからクソデカいため息ついて、ちよつとは落ち着いたのか喋り始める。

「あのなあ。バカなお前は知らねーんだろが、

あのとときサワムラーは『とぎすます』つっー準備技使つてたんだよ。

こいつは『次の攻撃をきゆうしよに狙つて当てる』つっーモンだ。

あんなパワーファイターの大技が急所に当たつちまえば防御力なんて関係ねーんだよ馬鹿」

「人をバカにしたほうがバカなんだぞこのバカが。

だがなるほど研ぎ澄ましはそういう効果なのか・・

だつたらなおさらあの場面はガードするべきではないのか？

そしたらきゆうしよに大ダメージ防いで鉄壁のバリアーが残る公算大のでやっぱりお前有利だった」

「ガード？ 『まもる』か？ んなもんその場のぎだろ」
「お前あたま悪いな。」

サワムラーは研ぎ澄ましとかいう一撃準備してからの強力なメガトンキック狙い。

おまえは逆転の防御体勢整えて、メガトンキックはガード狙い。

戦況はどんどんお前有利になっていくだろうが」

「あつ」

その発想はなかったのかシヘイは呆けたか鬼なった

気付いてなかったのかアワレでしかたがない。

ガードつまり『まもる』というわざは大抵のポケモンが本能的に使える最強技のひとつなんだがな

トレーナーにもポケモンにも集中力いるしタイミングもギリギリ要求する上級者向けわざそれが『まもる』なんだが攻撃の未練かなぐり捨てて防御に十割意識配分することで被ダメ99%以上カットしてるかもしれないという研究成果もあるという

疲れるから安易な多様は厳禁なんだがあの時みたくどっしり構える立ち合いで攻撃待ちだったらそこまで難しくはないはずだがな

「で、でも、守ってるだけじゃ勝てねーだろ。それに、また別のわざ使ってきたらどーすんだよ」

「てっぺきのまもり整えたらあの強力なキックの魔獣といえどもこわくない

あとは落ち着いて強力なサイキック攻撃したらサワムラーは倒せてた。

おれはリアルでエビワラーというポケモンを見たことがないから北斗ばくれつ拳の情報だけだから

リアルで何すつかわかんねーのでそっちはアドバイス知らん。じゃあな」

おれは言いたいことだけいつて立ち上がり、さてポケモンセンターはどこかなと歩きだすと元気になったのかシヘイは回り込んで立ちはだかつてきた俺は「どけよ俺はポケセン探して部屋を取るだよ」というと「なんで、お前、オレにアドバイスなんかしてんだよ」ときた

おれは言った「あのジムリーダーがけちで何もやらなかったからこういう結果をもたらした」というが「あ？」とボケた呟きにピントきてないのは明瞭に明白「ジムリーダーの義務はジムリーダーのプレッシャーとなつて襲いかかってくる。公認ジムは挑戦者のトレーナーの資質見るのが役割のはずなのにリーダーのアイツ勝つか負けるかしか見てなさそうだったから勝手に口が動いてしまったというだけ」と続けた

最後のアドバイスつぽいのは対策の対策の対策とかだが

実質なにも言っていないも同然だしな

裏の裏はオモテということも知らないのかよ、と聞いた瞬間思ったが黙っていた。

ま、大のオトナがこの理屈くらい知らないはずないから擁護してやるとひさびさの公認ジムでこいのぼりに舞い上がってる可能性もある

ちなみにこいのぼりに舞い上がるといいうのは滝登りコイキングの竜の舞ともいうな突然変異の出来事に調子コイてるっていう名台詞だべ？

するとシヘイは「ポケモンセンターは南ゲートまで進んでから西の大通り歩けばすぐ見つかる。これで貸し借り無しだ」といつて走り去っていった。

忍者はムシしてたまに話かけると勝手におれのライバルになる。

お前を倒すのは俺なんだから

ジムリーダー戦負けたくらいで心折れるのはやめるべき

あとから知ったんだがこのときエスパー道場の屋上からおれのことを三回連続で見つめていた存在がいたらしいもちろん気付かなかった。

◆◆ここから忍者のシヘイ側の視点◆◆

(注目) 〃〃〃から下はライバル忍者の裏話なので

アイアン・ブロンテというオリキャラの視点ではないが

神の視点の描写でもブロント語なのははや決定している(神域)

(八卦用意) だが神の視点と言ってしまった事で微妙な誤字も許されない緊張感が生ま

れた

これは対等な誓いなので守られなければならない（ミステリー）

◆◆◆いまから忍者のシヘイ系の視点◆◆◆

（岡目八目ってコトワザもあるが……悔しいがポケモントレーナーとしてのセンスは完全にアイツのほうが上！）

シヘイはわざわざ隣町のタママシシティにあるポケモンセンターまでダツシユすると

そこで回復マシンのパワーでひんし状態の手持ちを回復してもらい、

すぐさまゴルバットに乗り地元のセキチクまで飛んでいった。

ひんしのポケモンでもそらをとぶできる？

寝ぼけんなよ？

じゃあそういうお前は瀕死の時10キロマラソンできるのかよ？

みる。見事なカウンターで返した。

（認めなきやなんねえ……オツキミヤマで俺がアイツに勝てたのは、ヤドランのレベルがアイツのポケモンより圧倒的に上回っていたから。それだけにすぎねえ。このままじゃ、対等な条件じゃ勝てねえ……っ！）

空は夕方アカネ色なんだがゴルバットには余裕で飛べる空の環境だった。

シヘイはゴルバットが運悪く一撃でキックの餌食になった瞬間を思い出す。

（あのときだ！ オレはサワムラーの気迫に完全に呑まれていた！

いや、それどころか、初めて敗北したときから、対策してる時から呑まれたままだっただんだ！

ヤドランがやられた時も、最初は用意してた対策ができたのに、きゆうしよ狙いされて無駄になったと思ったとたん、早く楽になりたくて安易な弱点攻撃をしなくなっただだ！

自分ってモノを貫けなかった！ あの対策の中に、オレに貫くべきポリシーが無かった！）

ネガネガしてるとゴルバットの飛び方がフラフラなんだが

それは珍しくないことなのでシヘイは気にしなかった。

だがそれは大いなる見落として今のフラフラ飛行は

ゴルバットがおやのシヘイを心配して慰めたくてやったと見るべき

その後も反省してるんだか自責の自傷に酔ってるのかしらないがシヘイなりに色々考えてたがそのやりかたは出口のない袋小路で

ほとんど意味が無い考えばかり

その後日が完全に沈んで夜になってからゴルバットはセキチクのポケセン近くにたどりついたシヘイは近くのセキチクジムの

『関係者以外立ち入り禁止』の裏口に入っていく。

危険な忍者トラップをひゅんひゅん避けて進むと

とある部屋のフスマの前でやおらドゲザした。

「師匠！　どうか俺に更なるインスタラクションを与えてください！

もう、自分では何も分からないんです！

対戦相手の対策すればするほど、底の無い沼に沈んでいくようで……

自分なりにもがいてみても、良いも悪いも分からないんです！」

「あたいはなんべんも言ったはずだよシヘイクン。

忍者は耐え忍ぶ者。そして耐え忍ぶ者は辛い、つて」

フスマの先にいるやつ……一体何者なんだ？

という次回へのヒキをするほど隠す必要は無いのでバラすとセキチクジムリーダーのアンズ。

忍者の彼女は地元の特レーナーとか忍者に憧れる外国人とかからすると

四天王のキョウと併せて羨望の的らしい

最初はじめてシヘイから師匠呼ばわりされて困惑していたが

門前払いとかしても粘着してくるさまに

いまだき本気で忍者を目指す骨のある若者だと思い

今では修行させながらアドバイスしてるらしい

「そうそう。ピカチュウとピッピありがとね。」

友達が可愛い可愛いって言うから見てみたくて、

修行の一環で捕まえてもらったんだけど。

人から隠れようとするポケモンの気配の探り方はわかったか？」

「ハイ。勉強になりました。」

二匹とも、気に入りましたか？」

「ゼー……んぜん。」

クロちゃん達みたいな魅力感じないのよねー。

もうやせいに返しちやった。別に飼いたかったわけじゃないしねー。

トキワの森とおつきみやまであってるよね？」

「アツハイ」

「んー、しっかしなー。この口伝で伝わらないとなると……うーん。」

自分で考えさせずに教えすぎると忍者じゃなくて指示待ち人間になっちゃうしなー。

ポケモンに指示する側のトレーナーが指示待ち人間って、それどうなのさ」

「出来が悪くてすみません」

アズは二年以上このシヘイというポケモントレーナーの面倒見てるが

忍者としては才能があっても（勿論あたひよりも下だがねという自負はあるがね）

トレーナーとしての資質は悪そうだな、と判断していた。

ポケモンを目的達成の……忍者になるための……道具として見ているフシがあり

悪しき心に墜ちるか大成しないかのどちらかだろうと見ていたのである。

もちろんジムリーダーとして矯正しようとしたが筋金入りであった（頑固）

しかたがなく闇系の方向にいかないよう、見栄えや響きの良い、見た感じがいかにも忍者っぽい、いわゆる忍者ごっこ系のうわつつらの忍者テクは教えてたが本当の忍者の秘伝とかは絶対教えなかったんだが今日は一味違った。

（なーんか今までのシヘイクんの雰囲気と違うんだよねー）

忍者の真似事希望じゃなくて、一本芯が入ろうとしてる。今まさに。

いまなら、あの修行しても大丈夫なのかも）

「しようがないなあ、いいよ。弟分の頼みだし。

今までよりもう一步踏み込んだ、ポケモンバトルに関する修行方法を教えてあげ

よ」

と言われるとシヘイは喜びをかみしめた

(ずっと前からそういうのが欲しかったんだ！)

と今までの苦勞が報われる気持ちになったんだが

今までの苦勞なんか天国だと言わんばかりの地獄が待ちうけている修行のことがシハイはわかってなかった。

「一回だけじゃ意味わかんないかもしれないけど、よく聞いてね！」

「ハイ！」

そこでアンズはワザと長いタメを作り、

こうすると威厳があるっぽいかなー、と内心ふふつと笑った後

おもむろにフスマをドンツツと両開きすると声色を変えてキツめに言つといた。

「これより一ヶ月。ポケモンバトルにおいて一切の攻撃技の指示を禁ずる」

シハイは予告されたにも関わらずどんな修行にも耐えてみせる！と思つてたにも関わらず、完全に理解不能だった。その言葉は予想外にもほどがある。

(一切の攻撃技禁止？)

それで、どうやって戦えばいいんだ？)

「忍者は耐え忍ぶ者である。」

そして耐え忍ぶ者は辛い。

ポケモンバトルにおいて一切の攻撃技の指示を禁ずる。

あとは……分かるよね？」

「いやわからねえよ」

シヘイは師弟間の言葉遣いも忘れてツツコミ入れたが「それでも教えすぎてるくらいだよ。」

あたいは11歳の頃に一度やってるし。いま12歳のシヘイくんはできないの？」と言われると「うっ！」と言葉に詰まった必死に頭を回転させたがこれ以上言い返す言葉は出なかった。

だがシヘイは覚悟を決めていた「やってみせます！」と啖呵きると

すばやく実家に帰り、飯食ったり飼ってる連中にフード食わせたりと

やることやってから改めて一切の攻撃技を行わずにポケモンバトルに勝つ方法

について考えをまとめていくのだった。

でもすぐ音を上げてた

「わからない！ わからない！ アーッ！」

タタミとふとんのあいだごろごろ転がるシヘイを机の上の鉢植えの寝床でみてたマ

ダツボミは

たぶんだが（がんばれがんばれ）と声ならぬ鳴き声で応援するのだった。

13. ポケモン大好きクラブの匿名希望がポケモン自慢をしかけてきた!

ヤマブキのポケモンセンターは

都会のセンターだけあってたてもレベル高い。

他のとこのポケセンに上乘せしてエレベーターで

上の方いくとバトルしない派閥の

ふれあい広場かんせいしているらしい

オシャレ装備に着飾ったポケモンがいるんだと

いっぽうお洒落のコンテスト会場は無いので

ヤマブキは早く流行の最先端ステージ作成を急いだほうが良いと思う(推薦)

忍者のシヘイが場所教えてくれたから

ポケセンつけたら迷子ならないで良かった

でふれあい広場いってみると

そこはコンクリートじゃない人工公園で

いろんなオシャレ装備ポケモンが思い思いのエリアで戯れていた

おやの持ち主はどいつも上流階級属性のオーラが見えそうになってる。俺はそのうちのうんどうエリアに三匹とも出すと

ふれあい広場にちよつとした緊張だった

勝手に警戒されてしまい困ったんだが

気にせずみんな順番にナデナデしたり

やわらかボール遊びして戯れてるとホツとしだした

「いんにちはー。」

おつきいポケモンですわねー」

すると手提げかばん持ち主婦が着飾ったイーブイひきつれて世間話にくる

すかさずコーディネートみるとミニサイズのむぎわら帽子装備だけか。

甘いな。

帽子の選択は大きいので、そこに耳用の穴あけ目ぶかに被らせて上目遣いが通だぞ？

去年会ったポケモン大好きクラブのイーブイマニアが言ってたから間違いない

そこからおやに向かつて『あまえる』『ほしがる』とくりださせるのが去年の最新流行

これが通の嗜み方。

しかしこれ通報されるとポケモン保健所からマークされるといいう危険も伴う諸刃の

刀。

素人にはお薦め出来ない。

まあ公共の場では、普通に帽子かぶせてなさいってこった。

もつともイーブイ初心者にイーブイマニア道が分かるはずもないがな。

俺もイーブイマニアじゃないからイマイチわからなかった。

おつとと脱線しすぎた感、

この人おれが旅のトレーナー定番のリュック装備が気になるんだろうな、

おれとかリアオスのこと三回連続まばたきで見つめていた

「見たことのないやつこのポケモンだから気になるのは分かるケド羨は行き届いているの
で」と言ったが笑顔のまま「あらあらおほほ」というあんまり信用してない

ドレスコードがあるなら着飾ってやるが?

おれはリアオスには向かってお座り、ぐるぐるおまわり、ジャンプ、ちんちんと次々
としつけの言葉を出すと当然のようにやってのけた。

ここまではただの低レベルアピール

すかさずアクセサリ入れのこものいれ取り出し、ポケモン大好きクラブ限定アクセサ
リでコーディネートすると主婦の顔色がかわった。

これだけでも十分なのだが更におれの羨はつづく

今度はリュックから三ひきのごはんのフード取りだし

マイお皿×3に注いでいく「待て」というと

食べたそうにするまま我慢するのだが

俺が「リアオス、よし！」って言ったら

ちゃんとリアオスだけ食べて残りは待っていた（優秀）

じゅんぼんにリアメス、ナイトと待て解除してよしすると

みんなちゃんと言うこと聞いて行動、少しだけ待ってやり

「ゼいんがまんー」と言ったら

食べるの止めてお座りになったので

コソコソ様子見てきたギャラリーは拍手しだした。

「ごめんなさいね、きみ。」

ジムバッチ集めしてる、戦うトレーナーさんに見えたから、

野蛮な方にここは場違いよ、って言おうと思ってたの」

どうやら主婦はこの広場のボス格らしく

ポケモン大好きクラブの会員だという。

「実はおれもクラブ会員」すかさずリュックのだいじなものいれから

トレーナー手帳じゃないポケモン大好きクラブ会員証見せると

「やっぱり！」という声とともにもう遠慮する必要ないとばかりに

イーブイラヴのかわいさトーク始まったがこっちは園児の頃からクラブ会員だった俺に隙はなかった。

さいしよは泳がせて大人しくあいづちとかだが息継ぎの呼吸読んで反撃逆におれがニドリーナかわいいたーク繰り出してやると想像して圧倒されたのか固まって動いてなかったのリアルにリアメスにお尻向けしつぽふりふりさせてトドメ。

ポケモン大好きクラブ会員は顔真つ赤にして帰っていった

このポケモン自慢はおれの勝ちのようだな。

ポケモン自慢はトレーナーが喋ると同時にリアルでもポケモン動いてもらってアツピールしないとトークに引き込めないぞ？

行動美

その後「おまえら残り食っていいぞ! よし!」といって三匹に残りのごはん食べさせる。「やつと許しが出たか!」「封印が解けられた!」という思いが聞こえそうな勢いで根こそぎごはん食べてた片付けて帰ったがヤマブキポケモンセンターふれあい広場では伝説になつてる。

そんなに自慢したつもりはなかったのだが思いのほか時間たつたらしく、いつの間にやら都会探検の時間は失われていた。おそとは夜なつたので寝る前に技マシン使うことにした。

ポケセン内には誰でもいつでも使えるこうきょうのばそこんがある。

手始めに液晶画面さわるとピーピーとアクセス音。トレーナー手帳読み込ませたりパスワード入力したりして個人画面呼び出すと色々あるがボツスにポケモン預けるを選ぶ、すると画面下のモンスターボール置くとこが開いた

ポケモンはパソコンの中にはいれる生物というのはせいかつとかどうとくの授業の一般教養で誰もが知る事実だが

残念ながら人間は入れないようだがどういうリクツかは大学のポケモン学クラスで簡単じゃないという姉情報があるので理解不要。

開いたとこにナイト入ったボールおくとガシャン閉まったばそこんの中に入ったナイトは無機質にも『オムナイト・♂・タイプ1いわ・タイプ2みずく以下どこまで信用できたか分かったもんじゃないステータス画面』という文字表示にされていた

分かっていったことだがぼうぎよがいちばん高いな。

次にえんかく攻撃とかする属性攻撃の意味のとくこうという項目が高い。意外にもパワーの力強さを現すこうげきは低い

しめつけてかみついている時はかなりのホールド力なんだがな。

やっぱりこのステータス画面うさんくさいな、信用に値しない

技マシンってこの状態で使つてるところは地元とかで見たことあるが

実際にやったことないのでパソコン横のびよんびよんするグルグル巻きに繋がってまともな読まれてる「つかいかた」の説明のまとも読みながらやった。

まずは『ねつとうの技マシン』をパソコンに読みこませる。

するとパソコン画面に「この技マシンには『ねつとう』の情報が入っています。覚えさせるポケモンを選んでください」と出るので俺はナイトをえらぶ

そしたら「オムナイトにねつとうを覚えさせています。絶対に技マシンを抜き差ししたり、ポケモンを引き出そうとしないでください」と出て、ちよつと僅かに待っていると最後に「オムナイトはねつとうを覚えました」と表示されていた。

ホントに大丈夫なワケ？

俺はしぐにオムナイトをばそこんから引き出し

更にボールからも出して様子見るのだが

当たり前だがおかしなトコない

まんまるおめめばちくりさせて触手伸ばしてきたので

掴んでやりせつせつせーのよいよいとやると楽しそうに笑ってた。

ホントにねつとう覚えてるか試してみたかったが

ポケセン内でやっていいことじゃないので

俺はナイトをボールに戻すと試すのは明日にして

いつもどおりヒールマツシンに預かってもらうのだった。

糞してシャワー浴びて後は寝るだけというところでおれが借りたタコ部屋に電話連絡がきたんだがどうやら俺に客が来ているらしい。

旅の身なのに客というのはおかしい知り合いだったらポケギア電話だろ。

心当たりなかったから面倒だったので知らないかと断ったら乗り込んできた

「お休み中のところ失礼します。

国際警察のアンドリユーと申します。

アイアン・ブロンテさん。ご同行願えますか？」

ポケモン情報のウソツキの詐欺罪で逮捕

……ということではなく、ただ俺から話しききたいだけみたいだった。

ただのお巡りさんクラスの警察じゃないワールドワイドクラスの警察の登場に心底ビビったが「寝る前だったのにゴメンね」と先に謝ってくれたので許してやったおれは優しいからな

タコ部屋だと他の寝る人に迷惑なのでポケセン入り口に広がる待合所に座って話すこととなった。

「いま私はある人物を追っていてね。

順をおって調べていたら、もしかしたらキミが

その人物に会っているかもしれないと分かったんだ」

アンドリユージュって名乗った人は一枚の似顔絵写真を出す

「あつ。ナインじゃん」

「名前を知ってるのかい？」

「聞いたけどナイとか言ってたから俺がアダナつけてやった」

「へえ！ そうなのか！」

ちなみに わたしの ニックネームは せかいの へいわを まもるため

そらを かける いちじんの あおい かぜ —ブルーゲイル— というんだ

きみも そうよんで くれたまえ」

「カツケエ！」

「おお！ わかってくれるか！」

ブルーゲイルというアダナの格好良いオトナの男は「そんなきみにはあめちゃんをあげよう」と飴玉くれたので貰った。サイコソーダ味のベロパチパチしてくる面白いの味わいだった

「じゃあ、そのナインのことを詳しく教えてくれるかな？」

おれは何週間か前にトキワの森でエンカウトしたこと、炎のしっぽポケモンと戦ったこと、対戦結果かなりの実力者であること、その後おつきみやま前のポケセンで見か

けたこと、炎のしっぽポケモンは多分だが進化してたこと、その時名前聞いたこと……それから他になんかあったかなーと振り返り、二日三日おなじおつきみやまポケセンの食堂で見かけたことも後出しに追加すると

「炎のしっぽポケモンというのは最初はヒトカゲ、次にあったときはリザードだった、つてことで良いかな？」

「ヒトカゲとリザードというポケモンが分からない」

「そうなの？ 有名なのに」

「でもその名前はリザードンに似てるな。炎のしっぽポケモンとは似ても似つかないがな」

なんといつても大空を翼がない背中を見た目がぜんえん違うだろうが

「あー……いや、まあそういう子もいるか。」

説明しよう！ ヒトカゲはリザードに、リザードはリザードンに進化するのさ！

そんなはずあるか何かの間違いではないのか？

それが事実だとするとあの炎のしっぽポケモンのスタイリシユ姿からよきによき羽はえてきて体系もゴツくなり後ろに伸びる角の位置も数も変わるじゃん！

俺が納得しないでいるとブルーゲイルさんはポケモン図鑑とりだし「このポケモンだよね？」という画面表示のポケモンでいたいあってた。

しかもわざわざ順番にヒトカゲンリザードンリザードンの並びも見せてくれた

進化つてすごい。おれはあらたまってそう思った(ビツクリ)

にしてもポケモン図鑑うらやましいなー

まあ無くてもいいけど俺にはレポート図鑑あるし

「だがマズイな。もうリザードに進化させているのか……」

俺が感心しきりにしていると独り言呟いたが誰も聞いてなかった。

そしたら神妙の顔つきになり、ブルーゲイルさんはこう言った。

「とても重要なことを確認させてほしい。」

ナインがつれていたリザード尻尾の炎は、青かったかい?」

「二回会ったどっちともずっと青かったぞ?」

「ずっとか。そうか……いや、本当にありがとうアイアンくん! 凄く参考になったよ

!」

ブルーゲイルさんは「よし!」と立ち上がりポケセンからでようとしたが

俺は聞く権利あると思うことがあった

「ワザワザ国際警察クラスが追いかけてるつてことはナインはわるいやつなのかよ?」

「……あの子は悪い子じゃないよ。だけど、保護しなくちゃいけない!」

とんちかよ?」

俺とんち嫌い意味不明。

するとブルーゲイルさんはあらためて「協力ありがとう！ バッジ集めの旅頑張つてね！」と言つてポケセン出てつたトーチの答えだけ知りたかつたので追いかけたところあのリアル伝説と噂に名高いワタルも使つてるカイリユに乗って飛び去つて行つた。

国際警察、すげー。しかもブルーゲイルなんて格好良いニツクネームだよなー。

おれも更なるカツコイイあだなつけて欲しいけど中々大変だぜ。

こういうのは自分で自分につけるのは違ふとおもうし

だつて自分で自分にあだなつけるとかダサくて恥かしいな

いみようというものはスゴさに尊敬して自然につくべき

トキワの森のポケモンマスターというのもよいがやはり次の上のランクにカントー

中に轟くあだが良いナ

その後タコ部屋戻ると「キミ逮捕されたんちゃうん？」とまだ起きてた同室のジョウト弁のヤツからかつてきたが「目撃情報答えただけ」とだけいつてそのまま寝た。

どうでもいいが縁もゆかりもない集まりをタコ部屋というタコの由来はオクタンつてポケモンをボール入れないで詰め込んだタコ壺からきた意味なんだつてよ（トリビアン智識）

でもオクタンがタコというのは意味がわからない（リアル話）

14. ねつとうは流れる水の勢いに炎の熱が合わさるダブル属性といったところかな

おれはナイトを使い手なんだが「さあ明日に向かってねつとう！」と指示すると「なにいきなり話しかけてきてるわけ？」と言われた。

夢かなこれは対戦相手はほのおの尻尾ふりまわして相手をなぎ倒し鋭いツメでズタにひきさいてしまうポケモンことリザードなんだが「お前のねつとう見せてみる！」というところ「おまえ頭だいじょうぶか？」という返事、リザードはハリボテみたいに動いてないが

まさかとは思う俺はおかしくないつもり。

今すぐねつとう見てみたいので「いいからねつとうする！」と叫ぶと「おまえそれでいいのか？」ということ聞かない

ついには呆れが鬼になってこっち向いたナイトは急にひかった。そしたらニヨキニヨキ胴体とか手足はえてきてシエルアーマーのエーリアンナイトに進化

俺より身長でかくなつたナイトはズンズン歩みより、おれの肩に触手おいていさめてきた

「おまえの人生はおねしよするような人生ではないでしょう？」

おいイ？

俺はオトナのオトコの小学生だしおねしよとかするわけ……！

うっわ畜生おれは馬鹿だ！

「オウワツつぶぬえ！」

ガバツつと跳ね起きて布団まくりあげたおまたきゆつとするとギリギリ最悪の事態は免れた。

ここポケセンのタコ部屋なんだが二段ベッドx4の八人部屋なのに大惨事やらかしてたら俺なら恥かしくてそろりと生きるな……いまの必死の声でなんにんかモゾモゾしました

寝タコ起こすな眠らせろという暗幕の了解もある俺はひややせかきながらも静かに急いでもじもじ素早く猛烈な駆け足でトイレに乗り込んだらなんとか間に合った「助かった、終わったかと思つたよ」おれは思わず防いでくれてた夢のナイトに感謝を捧げていた……

なんとか絶望が鬼ならずすんだところだがもう一度おなじとこで寝る勇氣はない

(恐怖)

俺はそろりと手荷物回収してもう出てくことにするとまだたいよう起きてないみたいでしんやの夜。

いつでも受付にいる参勤交代っぽいひとから「おはようございます。目覚めが良いですね」と言われつつポケモン返してもらい、エレベーターでふれあい広場いった。

ふれあい広場はポケセンと同じく夜でも開いてる施設。

しんやなので誰もいないと思っていたが

いがいにも何人かがポケモンと戯れていた

昼とは違い旅のトレーナーっぽいやつらとか

スーツ装備の大人とかなのだった

ま昼間は上昇階級にこの場所支配してるんだろ

シユミレーションしてみたところ当たらずとも遠くないよう思えた

そいつらお互い交流じゃなく、自分のポケモンに構ってリフレッシュなのでおれも空いてるスペースで3びき出してそうしたぞ

リアオスはまだ眠そうでもまばたき多いこしょぐつてるとイヤイヤするこれがまたかわいのだがやりすぎると嫌われるのでほんぽん叩いて「まだ寝てていいぞ」というと素直におねむのポーズ

リアメスはそんなリアオスにぐるりと歩み寄ると接近にミツチャコして寝ようとす

るのだが、自宅でボールフリーに寝かしてたときみたいにしたがったがカラダでかくなつたから難しいみたいだった。

リアメスがもじもじしているリアオスカためであらり見るとフトコロに招き入れ、2匹でミツチャコして二度寝した寄り添うとお互い鳴き声でむにやむにやいつた。

ナイトが入り込むスペース開いてないので俺が相手してやる「おまえもいつか進化するんだな」と声かけながら触手むにむにしてやったが目ン玉ばちくりばかりで良くわかつてなさそう

まあ俺は分かってた（予知夢）

今は頭だけだがいずれ首から下がニヤキつと立ち上がることが判明したので今から楽しみで仕方がない（成人）

流石に夢見すぎカモだがリザードつてやつに羽によきによきによきはえてリザードンならオムナイトも胴体によきによきはえてもおかしくはないはず。

するとナイトはやわかいボールが気になるみたいなので眠くなさそうなのでやわらかのボールでパス回しに遊んでやった。

ふれあい広場に一人だけど独りじやない、
ほけもんいっぱいだけどバトルじやない、

穏やかなの平和時間の経過

安息美

しばらくするとポケモンたちボールに戻してちよこちよこエレベーターで帰るひといるのでポケギア見ると公共の食堂開きそうな時間だった。

おれも腹へったしみんなそうだと思うナイト先にボール戻して「起きろー。いくぞ」と声かけたすると2ひきともぐにーつと伸びして鳴き声なので大丈夫みたいだな、ボールに戻してエレベーター降りていった。

食堂で朝メシ食つてるとなんかたまたま目に付いたんだが、おれより年上っぽい同じテーブル囲んだ連中が朝から対戦しようよとかいいよとかだが楽しそうに話してるのを見かけた。

わざわざ朝のポケセン食堂だからバッチ集め同士のもだちかもな、と思いつつヤマブキのトレーナーがどこで集まって対戦するか見てみるのも悪くはないと思いつつ偶然をよそつて後つけると、もよりの南ゲートから街から出ずだからってジム方面でもなく歩いていく。

街中で対戦は迷惑だから怪しんだがすると『真剣ゼミ』とデカデカと書かれたビルに入っていた。

なんだポケ塾生か。

ポケ塾ってポケモンバトルのこと教えてもらう専門学校

ついついバカかと思ってしまうのは小学校でおれがシャッタアウトしてた塾通いのやつーりいたからだろうな。ま、あんなやつのはどうでもよい興味もない。

ロクでもない塾はきほんが弱いポケモン使わず強いポケモン使いましょうとかだからな……あのときは今にもアイツを殺してしまいそんな殺意を向けてしまったがこの話題ははやくも終了ですぬ。

ここはどうか知らないけどどうせヘリクツの巣くつだろそんな頭でつかちにプライド高そうな強ポケモンがなびくとは思えないがな

ま、塾通いにはポケモンが数字扱いにぬるネット対戦世界がお似合い

俺はリアルが充実してるから関係ないけどおまえら将来はネット番長にでもなるんだな。

おれはストーカーではないのでなくわぬ顔で通りすぎてやった。

そしたら位置的にタمامシ・シテイ側だろう西ゲート見えたのでそこから出ると、タمامシからヤマブキに出退勤サラリーマンの邪魔にならない道路のはしっこでたむろしてた奴らいたのでストリートファイトに連戦。

どいつもこいつもまあまあ強かったが交通のべんでジム巡りの中心地、ヤマブキと住宅街中心のタمامシ間の隣接道路だからだろうな。トッポッターに繰り出してたナイトは最終的にやられてしまったんだがきのう覚えさせたねっとうは、強力な追加効果

を秘めたわざらしい

効果分かったのは対ラッタとのタイマン中のできごと。

「ラッタッタ！ ひっさつまえば！」「ナイト！ ねっとうブレス！」デカイくちいっぱいに開いて飛びかかってきたラッタの口にナイトは見た感じみずでっぽうと同じタイプの勢いぶつける

するとラッタは「ぢゅー！」と熱いのか苦しい鳴き声あげ、それでもおやにちゅうじつなのか噛みついてきたが硬いからで防いでしまうナイト。するとそつからガジガジせずラッタは身悶えした持ち主のミニスカートは「あー火傷してるう！」と言つてたから間違いない。

その後ミニスカートはまえば攻撃させず、からげんきというわざで戦ってきたがナイトの防御りよくには敵わないようだな

ねっとうブレス見た感じみずでっぽうブレスと同じなのだが水なのにほのおタイプという状態異常であるやけどのパワーが宿っているらしい。

ということは流れる水の勢いに炎の熱が合わさるダブル属性といったところかな

ぼこもんのタイプだって複合に二つあるということはわざのタイプも融合属性あるだろーうしな

その証拠にくさタイプだろーうクサイハナという名前らしいポケモンにも

ねっとうブレスあてたら熱くて水から逃げたそうにしていた。

水鉄砲なら勢いにおされるだけでほとんど意味がなく、むしろ気持ち良さそうにしてただろうがな。

まあねっとうで与えたダメージはギガドレインという吸収技で取り返されてしまったがな。

このやけどという状態異常とナイトの組み合わせはぼうぎよの輝きが増すので好相性といえる。何故かというとは火傷したらじわじわ痛くて力込めるともつと痛くなるのでとつさのパワーが半減するのだ！

だからポケモンのやけどには気をつけようって学校の授業で習った。

流石はジムリーダーのオススメといったところかナイトにピツタリだと悟ったよ〜カスミ感謝

こうなるとタケシがオススメにくれた岩石封じにも期待が持てるというもの。残りの連中はリアオスが片付けた。

やはりというか相変わらず額の角の攻撃力がやはり最強なのだが地面をしつかりひみしめでの勢い乗せた突き強攻撃が猛威を振るう。

残念ながらサイドンの進化前っぽいやつのとつしん突きには体重差でパワー負けしそうになってたがパワーで勝てないなら勝てるトコで勝たせてやればよい「れいとう

「ビーム！」よどみなく俺の指示にあわせて角全体から冷距離光線出してるので0か100かで言えば100%パワーの力を引き出せるようになってサイドン進化前やつけた

「氷タイプでもないのに良いれいとうビーム打つじゃねーかよ！

だが悪いな！ ここまでだ！ 頼むぜスリりん！」

ボーイスカウトがラストにくりだしたのは二本足で立つきいろいろいやつ「スリりん！ サイケこうせん！」すると出端からエスパークタイプのビーム攻撃「かわせ！」リアオスはサイドステップじゃない斜め前ジャンプで回避、

「そのまま突っ込んでつのでついてやれ！」「やらせるな！ さいみんじゅつ！」おれは力カツとダッシュさせ角攻撃の指示したところ、そいつ紐とコインくくったのでゆらゆらさせたが

もし闘争心あふれてなかったら気がそれてたかもだが相手倒す気いっばいのリアオスには催眠術すら効きにくい（頑固）

角で突っ込んだ位置がきゆうしよなのかきいろいろいやつ足プルプルさせてスキだらけだったので連続攻撃のさみだれづきでトドメ。

おれはラストに戦った人から賞金もらうとその人「おまえとニドリーノ息ピツタシじゃん。いまバツジ何個？」「二個だけど？」「マジかよオレ三個だぜ!! お前なら今す

ぐでも三つ目すぐ取れるって!」「ほう?」等等対戦後の情報交換に積極的でニビジムとかトキワジムのこと聞かれたので知ってること教えてやった。

おれもヤマブキのオススメ観光ポイントとかジムのこととか教えてもらい、レポートに書き残したのだが

「今年のヤマブキジムはヤバいぜー。

おれヤマブキ地元だからさ、毎年ヤマブキの公認ジム決定戦見てるけど今年のタケノリさんの仕上がりはヤバいよ。

ゴールドバッジも自分に勝った相手にしか渡してないらしいし。勝てそうになかったら後回しにするのもありかもな」

という言葉が印象的だった

15. 対戦が強い上にオトコマエ（ジムリーダー）

なんだかんだ一週間かけてヤマブキ・シティの都会ジャングル探検とか、いろいろあつたが一番のどつきりイベントと叫びたらチート洗濯機だべな

おれは旅人だけあつて着替え着まわして当然洗い物してるんだが

何日まえの夜だったかな……ワンコインのランドリーいくとふよふよしたのがいた。

そいつ洗濯機のなか入るとチートかバグなのか100円いれないまでも

オートで電源オンにゴウンゴウン動き出す不具合が発生した

最初見たときポケモンがせんたくくに巻き込まれた！ と思つてしまい「おいイ！

大丈夫か！」と強制停止にフタあけようとしたところ腕にビリつときてしかもランド

リー急に停電

さつきまで明るかったところがまっ暗くなるのでその心中は察してもらえと思う。

おれは中がぐるぐるで目エ回してそうな、さつきビリツときた洗濯機開けたら……な

かには何もいかなかった（リアルホラー）

俺は力も強いしとっさの機転もきく勇気のゆうかんものなので

悲鳴はあげなかったがものすごく洗濯し辛くなった事実。

この恐怖体験を次の昼間のふれあい広場で話したところは
はっ隠したのだがロトムっていうイタズラぽけもんだったことが判明した
ちなみに数分程度の停電は偶然のたまたまだったらしくロトムとは無関係
会ったのはその後一回だけだが洗濯機入る前だったたので

「あんまイタズラしちゃいけないぞ？」というところ

こっそりしてるつもりだったのか声かけにビクつとして

おくびょうなのかとんずらして逃げていった

カントーナンバーワンの都会には稀にだがよく草むらじやないポケモンがいる

路地裏のニヤースとか夕焼け空のヤミカラスとかだが

ロトムもそのうちのーぴきだったという話です

こいつらおそいかかってよりむしろ人間から逃げてるけどぎんぱんつけねらってる
らしいアワレな生態に見えるが野生本能が選んだ生活のチエなら文句つけようもない
でしょう？

ポケモン保健所の魔の手がのぶてきて人工的に淘汰されるのは目に見えないとこで
やつてるでしようたくましく生きていけば、と他人ごとのようにおもうしかできない

(苦汗の選択)

良いも悪いもあつたが都会のふいんきに慣れてきたのでそろそろジム戦。

おれは満を持してポケセンからヤマブキジム目指して歩いたところが

途中こないだヤドランと座ってたむ気力人が「ナツメさん！ 帰ってきたんですね！」と声かけしてるところに遭遇した。

ナツメと言うと元・ヤマブキジムリーダーの名前。

どんなやつかと思つて見ると旅行カバンのところ引つ張つてるモテカワメイクのお洒落ガンバリストがいた。

なんか聞いてたイメージと違うな

特長的なストレートロングのクールビーツイって聞いたが

外ハネしてるし笑顔に明るくて積極的のキャラクターに見える

ま友達でもないのにじろじろ見るは無い「ポケウツドつてやつ面白かったわー、はいおみやげ」とか言つてる後ろ通り過ぎて俺は現役ヤマブキジムに入つていくのだった。

「おーっすー 未来のチャンピオンー！」

どこにジムにも一人はいるらしい実況属性の人の話によるとかくとうタイプのうんちくだが、けいかいしてる他のトレーナーに散々聞いたので放置。

その後トレーナー手帳でバッチの数見せるとその数に合わせて

まずはジムトレーナー相手に実力をみせることになるのだが

いずれも北斗ばくれつ拳に登場しているポケモンなので

闘争心に合わせたリアオス・リアメスくりだし、読み勝てばわりと楽勝だった

するとあっさりジムリーダーの出番のだが「バッジの数に見合わぬその実力！ オ

又シ、良いトレーナーであるな！」と褒めてくれたその後ごほんとか咳払いしこう言った。

「ヤマブキ ジムリーダー ふっかつツツ！」

ヤマブキ ジムリーダー ふっかつツツ！

ヤマブキ ジムリーダー ふっかつツツ！

.....

.....

..... オスツ！

わしは ヤマブキシティ ジムリーダー カラテだいおう タケノリ である！」

「知ってる。みんなお前をうわき話で称えてるんだよ」

「てれっ……ゴホン！」

わしの つかう ポケモンは みーんな かくとうタイプ！

どつちが つよいか しりたがる バトルずき ばかりだ！

それは わしも おなじきもち！

ごぞう！ おぬしの つよき わしに みせてみよ！

トウリヤー！」

ジムリーダーってよ

みんな始めて挑戦のトレーナーにセリフ決めてるのかよ？

いっしゅん疑問だがさっそくバトルなのでこれ以上考えないでボール投げた

「ゆけい！ バルキー！」「いけっ！ リアメス！」

おれたち同時にポケモンくりだすのだがリアメスにやる気がないのでアイツは♂ということになる。このジムのポケモン♂か♀かでいえば♂ポケモン多く、先発させたがすぐ引つ込めるってこと何回かやってたから体力ありあまつてるこのまま行くか。

このバルキーというポケモンは忍者戦では使ってなかったし使うとも言ってない。

ということは低バツジ数トレーナー相手のポケモンなのは火を煮るより明らか

おれが考えてると「バルキー！ ねこだまし！」と速攻きた開幕にいつぱお見舞いされるとりアメスびっくりしてたぶん今なに指示してもひるんで動けないので落ち着くの待っとく。

するとバルキーは距離をとり、こっちが落ち着くまで攻撃しないみたいだった。

紳士的だな、と思っていたら「バルキー！ ビルドアップ！」ときた。

ビルドアップはパワーアップ系の筋トレわざで、かくとうタイプのサポートわざとして有名。筋トレしているとパワーが溜まってくるのでスキだらけなのだが鍛えれば鍛えるほど瞬発力パワーアップするし筋肉の盾でぼうぎよも硬くなるという（北斗ばくれつ

拳情報)

なるほどパワーアップわざみてトレーナーが焦ってしまい、出したポケモン落ち着いてないうちにあわわの指示でパニックに拍車なので悪循環というやりくちだな？

おれがあわてずリアメスが落ち着くのまつてるとタケノリは「よくみておる」と呟いてた。

コレくらいで慌てるトレーナーは対戦に余裕が無い証拠。

待つてるとリアメスが落ち着いたので俺は「しっぽふりふり作戦2だべー」と指示。リアメスはバルキーにお尻むけてしっぽふりふりするのだが、これはいつものしっぽふりふりより更にパワーアップした技

「むっ！ ただのしっぽをふるわざではない……っ！ これは『メモメロ』！」

流石はジムリーダーといったところか、アツサリ真実は見抜かれてしまったがバルキーのほうは作戦にハマってしまったようだな。

筋トレしてたバルキーはめろめろしてくるリアメスから目が離せなくなってるみたいだった。

ビルドアップは続けられ続けるほどどんどんパワーアップする技なのだがこうも誘いがあつては鍛える時間も作れない「やれ！」と指示するとリアメスあまえた鳴き声あげるのでバルキーはドキツとして硬直してしまう。

これはポケモン好きクラブで愛されキャラだったニドラン時代に培ったテクニク

俺が教えたんじゃない環境がリアメスに自然にメロメロ⇒あまえるコンボを教えてくれたというワケ

「巧みに補助技を使うな小僧！ バルキー！ かわりで攻めよ！」

するとサポート合戦では不利を悟ったのかタケノリはバルキーに攻めさせてくるがリアメスにやる気が無いのでこっちはひっかき攻撃で応戦、泥仕合じみてたが途中バルキーが赤くなり、手ぬるくなってスキが多かったので最終的には勝った。

「次だ！ ゆけいワンリキー！」

出てきたワンリキーはローキックでしつようにリアメスの足を狙う正統派であった。応戦させたがやはりやる気がなく、最後は強力な投げ技（地球攻撃）でトドメをさされるがやる気ないわりにはけっこうダメージ与えたとおもう

「おまえの出番だぞ！ リアオス！」おれはリアオスを繰り出し、ローキックで狙ってる足を活かして逆に顔面ニドキックさせてやるとワンリキーは倒された。

「では最後だ！ ゆけいエビワラー！」

繰り出されたエビワラーは……なんかぎちぎちした拘束アイテムを纏っていたのを見ておれはすかさず「作戦タイム！」という「認める！」と返事なので一旦リアオ

スを招きよせた。

「ちよつと教えて欲しいんだけどエビワラーのそれなに？」

「これか？　これは『きようせいギプス』！」

見ての通りポケモンを更に強力で鍛え上げるアイテムだ！

その代わりに、動きは鈍ってしまうがな！」

ポケモンの装備品アイテムの実在は知ってるがカントー地方では一般的じゃない

何故かというアイテムの有無でトレーナー格差が広がってしまうからという大人の意見。

それでもプロリーグとかになると第一線でどんどん他地方から輸入に取り入れるケド、逆にいうとプロリーグクラスじゃないと入手も簡単じゃない

「うごきにぶるのつけてる、ということとはレベル調整のつもりかよ」

「うむ。かつて育てておったワシのポケモンたちは、かくとうタイプ普及のために道場破りのトレーナーたちにどんどんひきとって貰ったからのう」

そのかいあつてわしはたくさんのエスパータイプ使いのトレーナーと戦えたがな、と続けた言葉は苦々しくもリアル経験値にうらうちされた自慢だった。

「さて、もう良いか？　あまり悠長に回復させておると、わしのエビワラーが勝手にビルドアップを始めてしまうぞ？」

という前座で受けたダメージにキズぐすり使ったのバレてたか。

ま慮急処置なので回復量はそれほどでもないが、とうそうしんみなぎってるしいける
 だろ「行くぞリアオス！」と声かけると気合の鳴き声で攻防地点までびよんびよんして
 いった。

「うむ。ではオヌシが先に指示するが良い！」というタケノリの発言からおれの予想に
 よるとカウンター狙いなのはバレバレなので角攻撃させるのをためらう「れいとうビ
 ム！」「かわせ！」エビワラーは飛び道具なんてなれてるのか簡単に見切って回避してい
 た。

さてどうするかと手を緩めると基本的にはパワーアップわざある相手有利「リアオス
 ！ みだれ突き！」おれはカウンター対策に連続攻撃させるとすかさず「エビワラー！
 れんぞくパンチ！」と応戦してきた。

角とパンチの弱こうげきが相殺しあう、おたがい大してダメージじゃなさそうなので
 次の指示が分かれ道「れいとうビーム！」「メガトンパンチ！」言葉は同時だったおれは
 カウンター読みだったが外れていた

エビワラーはれいとうビームもろに受けたが燃える闘魂なのかほとんど意に介さず
 逆にギブスものすこくギチギチいわせてとんでもないパワーのパンチを打ちはなつて
 くる

顔面モロにくらつたりアオスは盛大にぶつとばされあえなくダウン。

「これがメガトン属性のパンチ……」面と向かつてのメガトン攻撃されるの始めてだったがこれはプレッシャー受けても当然です。ね迫力がすごすぎる。

おれはボールにリアオス戻すとかくとうジムということでボール待機させてたナイトを繰り出した

かくとうタイプっていわタイプのかたさも打ち破るパワーあるからよ

「ほう。このエビワラーの前にオムナイトを繰り出すとはな」

というタケノリは余裕の表情になるそれは油断というものではないか？

強いものが勝つとは限らないのがポケモンバトルだろ「ナイト！ ねつとう！」さかさずダブル属性のねつとうプレスを撃たせると「かわせ！」という指示で避けられた。絶体絶命か勝つのは俺だけだ「ねつとう！」「かわせ！」「ねつとう！」「かわせ！」と応酬でエビワラーはインステツポで右に左にどんどん間合いが詰められていく

「ねつとう！」「かみなりパンチ！」どうやらチャンスの距離らしくどうやら強力な威力のメガトンパンチよりスピード重視なのか使わなみたいだった

エビワラーがねつとう浴びると火傷っぽいしてたがかまわすビリビリと構えながら更に近づいてきた。

思い出せ。タイミング合わせろ。エビワラーの攻撃には致命的な弱点があるんだが

?

ナイトの目の前まで迫ったエビワラーはきょうせいギブスすごくギチギチいわせて拳をふりあげた「今だ！ ころがれ！」ナイトはくるんとエビワラーの股下転がるとパンチ攻撃は外れた「よくぞ見抜いた！」とタケノリ。

ナイトはそのまま転がってくので「ストップ！」というとしよくしゅブレーキに振り返り、再び遠距離の間合いにぬる

「エビワラー！… なんとしてもかみなりパンチを当てよ！」

エビワラーは歩きもパンチもギチギチで合図になってるし、そこまで敏捷じゃなくゆっくりなので落ち着いてタイミングあわせればなんとでもなる……でも、だれだって即ひん死に瞬殺されるだろう一撃を待ち構えるのは怖いしナイトもそうだと思う。

でもナイトはおれを信頼して指示待ってくれてるように見える。

そして分かった。

この人ポケモンとトレーナーのキズナ試してるのか

人とポケモン、2りの絆コンビネーションがなければ勝てない難易度でやってるに違いないまるで実家のオヤジのニドキングみたいなオトコマエを感じた。

見学の時は分からなかったが良いジムリーダーではないか

俺は移動技とねっとうブレスと息切れとかしないようタイミングよく指示しながら

何往復かしているとエビワラーは倒された。

「みごとな チームワークだ！」

わしも くやしいが まけは まけ！

いさぎよく みとめるぞ！

おぬし！ わしに かつた あかしとして

だいじな ゴールドバッジを わたす！」

下馬評では強ジムだったが

終わってみれば今までのジムと比肩する

良ジムだと思ったよ

このヤマブキジムは普段のポケモンとの向き合いとか、

落ち着けばどうでもなる問題を挑戦者になげつけていた。

対策とかすこし頭を使えば解決できる問題を考えもせず

安易にタイプ相性とか定番に頼り切る

知識はあっても指示は半人前というトレーナー弾いてるんだらうな。

そんなジムのある街にポケ塾なんだから

良い大人じゃなくて悪い大人の組織なんだらうなうん良く知らないけど絶対にそ

う

べつに直接覗いたわけじゃないから印象論だけど関わらないほうがいいぞ

その後『かわらわりの技マシン』か『カウンターの技マシン』の二択がきた

「かわらわりは障壁技で身の守りを固める相手を打ち破るのに効果的！」

逆にカウンターは攻めにくる相手を黙らせるのに効果的！

どちらか好きなほうをもってゆけい！」

というのでニドラン族と見事なカウンターという技は切っても切り崩せない間柄だからカウンターのほうもらつといた。俺の技教え能力じゃ手が届きにくい領域だし貰っても損はないはず

『……やっぱり、勝ったのね。

予感がしたのよ。

もし良かったら、ヤマブキジムの隣にある超能力開発センターに来てくれないかしら
?』

意気高揚と帰ろうとしたらなんか直接脳内に会話がきた。

なんだこれは？

16. かなり人気だからさらに凄いことになる（リアル主義）

例えばだがゲームのRPGとかだと

ファンタジーからの勧誘の声で冒険とか普通だが

それがリアルに起きるということは

やはり俺は実は勇者の一味の子孫の末裔で

そのじつリーダー格だったか。

だってブロンテ家だもん

いつかこういうのに呼ばれると思ってた（究極）

でも今は普段はあまりまず読み負けることはない読みあいに後塵したバトル直後

信頼する仲間達は次々とひん死なってるナイトも内心ギリギリだろうので

リフレッシュこそ急務だろうおれは神秘の呼び声のことはあとまわしにポケセン行っ

てきた

「知らない人とかについて行く時は元気なポケモンを連れて行きましょう」という名台詞もあるしなちなみに行かないとう案是策はないぞ？ ちよつとでもヒドい思いをし

たかないのならそもそも守られた環境から旅に出なければ良いからこれも冒険（度胸万点）

だが罪悪感に営まれた俺は心の中でワビ入れてその誘いに絶対乗ってやる事を約束することにしたがこつちから送信ほうほうがわからないのだった

ヒールマツシンの回復後

ノコノコ呼ばれた場所に行ったところ

一週間くらい前はむ気力人だったサイキツカーが

すっかり元気に立っていた

隣のヤドランの顔色も心なしか良好に見える

「来てやったぞ」

「おや、きみは？」

「なんか直接脳内にここ入ってこいって呼ばれた」

「ほう！ それじゃあきみが、この旧ヤマブキジム改築・超能力かいはつセンターのお客

さま第一号だ！ はいってはいって！」

「おじゃまします」

中に入ると広々にひらかれた空間がニビかがくはくぶつかん系で、案内表示から色々なエスパーツタイプのわざ紹介してるらしい情報もたらされた稀にだが実演もすると

いう

で入り口のまん前にあるのはテレポート体感コーナーだったよ。

ワープ床つての踏んだらワープできるらしい。

左右2つあるのでせっかくなので右のワープ床選んで乗ったらなんか回転しながら意識がそらとんだと思つたら違う場所にホントにワープしてた

これはすごいまさに超能力でしょう？ とでもいうと思つたか？

シルフカンパニーの最近の科学技術とかのアイテムなのは噂話でネタバレに知っている

そしたら正面のおとくな掲示板に「右の床を選んだアナタはくなんか占いの結果にありそうな文章」とか書いてあった。ために戻って左のほうのワープ床に行くことやはおとくな掲示板があり「左の床を選んだアナタ系の情報」あるので初見者専用のオタノシミギミツクといったところかな

『……来たわね。

ま、テキトーに楽しんだら三階に来て頂戴。

一階はサイコパワーの紹介で、二階はエスパーポケモンの紹介だから』

すると再びエスパーボイスなのでこれ以上待たせるといふのは良くないと思い、カッツと階段上がって3カイまで行ってやった。

するとイーブイ族の進化体のーびき、エーファイがフタマタのしっほふるふるさせてるのがいたが

まさか野生なワケないだろうがリアオス出すときつと逃げ出すので

歩いてついてくと所長室なる部屋に先導に誘導された

中では赤&黒カラーのふくの上に白衣はおったクールビューティのぎんぶちメガネ女史が椅子に座って待ち構えている様子

いっしゅん誰だか分からなかったがジム挑戦前に見かけたナツメか

プライベートのオシヤレガンバリスト装備とはうって変わって今は博識のおねえさん「ようこそ。超能力開発センターへ」という口調は脳内に直接ボイスと同じだった

ナツメというエスパーレディーのウワサ話は色んな人が喋っていたのをまとめると負けるわけがないバトルに負けてスキヤンダルクラスの扱いが極一部にある。で傷心旅行にイツシュ地方行つてるといふ話だが今ここにいることを合わせると最近帰ってきたといったところか。

本人がポケウツドという単語つかつてたの推理につけたすと将来的な特ダネ情報の可能性もある

「どうやらあなたは私の名前、知っているみたいだけど、礼儀として名乗らせてもらおうわ。」

私、ナツメっていうの。よろしくね」

「俺はアイアンというお名前だけど何か用かな？」

というとなツメは俺が立ちっぱなしなのが気になるのか「まあまあ、椅子に座って」と足組み直したらオートでコロコロついたまんまる椅子が寄ってきた。おれがそれ座るとリアオスは俺をチラ見してきたが大人しく座った

するとナツメから「単純な話。あなたの超能力を調べさせてほしいのよ」と言われたがどうやって俺が超能力者じゃだって証拠だよ？」

「言っとくけど俺はエスパーマンじゃないから」

「そう？ 私には超能力者に見えるけど」

「どのへんなんだべ？」

「んー。ポケモンへの愛情？」

ポケモンへの愛情がエスパーとか意味分かん。

だったらポケモン大好きクラブ会員はぜいりんがサイキカーだろうが

するとナツメは首を振り、その愛情パワーをポケモンバトルに転用できるかどうか

ここで言う超能力の分かれ目なんだと

「私がジムリーダーだったとき、たまにいたのよ。

どうみてもひん死で、今にも倒れそうなのにグツとこらえるポケモンが。

サイケ光線で混乱したはずなのに、心に支えがあるからかすぐさま正気に戻るポケモンが。

おやを勝たせたいと、本来もつ実力以上の力を引き出すことポケモンが。

本当に強い絆で結ばれたポケモンとトレーナーは、いつだって私のみらいよちを打ち破るのよねー」

という声色はさつきからよくようない棒読み属性だが外の人におみやげ手渡しポイスは明るい声だったので今は仕事声である可能性があるな。だからなんだという話だが

「私、そういう才能の片鱗が見えたトレーナーには、勝敗に関わらずバッジをあげてただけど……まあ、それは終わったことだから、もういいわ。ここでは、トレーナーとポケモンの間に突然おこる、超能力としか思えない不思議な現象について調べたり、調べて分かったことを教えてあげたりするところ……にする予定。将来的にね」

「おいイ？ いまの話で気付いたがじつはナツメは現状なんにも分かってない可能性がある」

「ええ。だからまずは調べるところから始めるの。というわけで手伝って頂戴」

「なんか調べるといふ言葉の響きがうさんくさいからヤダ」

「ふだんあなたがポケモンとどんな風に過ごしてるのか聞くだけなのに」

ほう？

普段どんな風にポケモンと過ごしてるか聞く？

ポケモン大好きクラブ会員に？

い い ん だ な ？

「おまえは おれの ポケモン じまんを

きかせて ほしい のかね？」

「子供にしては中々のプレッシャーね。じゃあ、はい。聞かせて頂戴」

ナツメは組んだ足の上にレポートとペン浮かせると一言も聞き漏らさずメモ残す構えであったがメモ用紙の枚数は十分か？

「そうかではさつそくは始めるがあのおれのお気に入りのニドラン族からなんだがな

おれんちニドラン一家だからそれはもう生活の中心がニドランと言ってもよい

ニドキングは第二のオヤジと言えるほどだしニドクインは第二のカーちゃんと言え

るほど！

でさいしよにつかまえてもらったコドモニドランこいつの進化前なんだけど

それはもうかわいくてなどこにいくのも一緒だったのは言うまでもない

もちろん一段階目の進化を果たした今もたまらんのはここにいる

ニドリーノのリアオスを見れば分かってもらえるとおもうが

つれ歩いてると凄くうらやましがられるさらにニドリーナのリアメスという柔術し

た

ペアが並んで歩くと嫉妬がすごいことになった心無い悪口で「リア獣が」という連中に

「どうしました? さわりたいですか?」というとムツとする表情が下から甘えられると陥落していたなあ……(ニドラン族はジョブを選ばない)

実はニドラン族にはさらにもういち段階の進化が残されてるといふ事実。

すぐすぎて言葉を失いのもわかるが進化の条件が特別でな

知らないやつはつきのいしが必要そうだと考えたり思うか?

まあ気付かないやつは一生ニドリーノニドリーナの付き合いも上等だろう一生の思

い出になる

どうしてこんなにニドラン主義なのか疑問がくることもたまにあるが

ポケモンが好きなことに理由があるのかという意見で簡単に迎撃できる

すー! はー!

実家にいた頃は朝昼晩と抱きしめて可愛がったし昼寝するときもだが

旅のみちのりではやりずらいし剥き出しのどくポケモンというのは警戒心を刺激させてしまう

それじゃろこつに常にボールから出して連れ歩くのは断頭の思いでこらえているがおれの気持ちに共鳴してるのかたまに愛らしくさみしがりの鳴き声がすばらしい鳴き声だ素晴らしい！

ニドリーノはこの通りかつこよさとたくましさの両立生物なのだが

ニドリーナはかわいさとうつくしさの両立生物だからもしカントーにコンテストあつたらおれなら2ひきで4冠は確実なのに！

ここまででも十分紹介なのだがまだ自慢は続く最近入った新入りのオムナイト族だがナイトはスキルも性格もいいのでニドラン族からも一目おかれている

だがたよりにできるからナイトをレベル上げしてもダメだと言う事が最近わかったナイトを上げるのは真にナイトの人だからナイトを上げたくてあげるんじゃない上がってしまう者がナイト……………

…………… ありや！

もう こんな じかんか！

ポケギアの時間はなかなかの夜になっていた手短にぜんたいきな話をしたただけなのだが個別の思い出部門がまだまだ喋り足りない「いえ。もう結構」とナツメは鉄仮面

が崩れそうになってるっぽい表情を浮かべていた。

「……ポケモン好きに自由に喋らせると、胸焼けしそうな気分になるのね。

聞きたいことを質問する形式にしたほうが良さそうね」

「ここまででナツメが知りたいことは知れましたか？」

「さっぱりね。まあ、これからも見込みのありそうな子を呼んで、話を聞こうと思うわ」

その情報出回ったらナツメはヤマブキでかなり人気だからさらに凄いことになる（リアル主義）

それなりにうまつたメモ用紙机に置いて代わりに引き出しからなんか出すナツメは「お札にこれをあげましょう」と言つて『じてんしや引き換え券』を差し出してきたがオレはバイク乗ったことないぞ？

まあやったことないことやるのも冒険だしもらつといた明日はハナダの自転車屋さんにいこうと思った。

その後あととはポケセン宿屋で寝ようと思ったが次は実技希望なのか「普段どんな風に可愛がつているか見せて欲しい」と言われた。おれがもう出してるリアオスに対していつもどおり撫でたところ、ナツメはモノマネしてエーフィ撫でようとして避けられていた。

ナツメから深い悲しみに包まれてるっぽい雰囲気か漂ってきた

「なにやってるエーフィは体毛全身びんかんはだだぞ？　いきなり触ろうとしたらビツクリして逃げてしまうに決まってるだろうが」

おもわずおれはイーブイマニアから教わったエーフィの可愛がりかたのうんちく垂れてやるとさっきの自慢話の時とはくらべものにならないほどとてもとても真剣に聞いていた実践してナデナデしにいくとそのうちエーフィが気持ち良さそうに鳴いた。

するとナツメが夢中になっていく……なんだ自分のポケモンと仲良ししたかっただけだったのか。ふつうなら育てていく過程で体感してオートで分かってくることだろうが分かってなかったということはもしかしたらふつうに育てたわけじゃないかもしれない（空想）

エスパーでテレパシーで何考えてるかわかるからこそそのトラブルとか遠慮もあるのかもな俺はテレパシーじゃないから味わ無いでしょう

ミステリーは解けたのでおれはこれ以上いすわるのは無粋におもい、黙ってポケセンに泊まりに部屋から出てったのだった

17. レポートにしっかり書き残した(レア情報)

朝のモーニングのテレビのニュースの内容なんだが

いつもなら毒の薬にのならないしようもない話題ばかりなところ

今日はポケモンのレア情報っぽかったので朝飯食い終わってから

レポート引つ張り出してログ残してやった

食堂のテレビニュースの右上画面端『ピツピ(カントーのすがた) ぜつめつ寸前!?

いま、おつきみやまで何が起こっているのか』だつてよ

解説でぺらぺらめくるやつ横にキヤスター、座つてる椅子エリアにコメンテター3
り映つてる

「そのグラフですけれどもね、見たら分かるんですけれどもね、ええ。ほんの数十年前まで、おつきみやまにせいそくするピツピは皆、携帯獣学分類上はノーマルタイプに属していたんですよ。それがですよ? どんどんフェアリータイプになつてる。ノーマルタイプのピツピなんてもうほとんどいませんですよ。捕まえられてないんです。絶滅危惧種といつても……いや、絶滅したといつてもいい!」

「でもお、ようせいポケモンってよばれるくらいなんですから、フェアリータイプって分

類されてるほうが分かりやすすくないですかあ？」

「まあ言葉の響きはそうなんですけどね？」

「つていうか絶滅つて言い方は違うんですか？ ポケモンつて環境への適応能力つていうか、適応速度がズバ抜けて高いでしょ？ 左の……あーうん、それ、データでも紹介されてますけど、おつきみやまからニビシティ方面に生息するプリンも、どんどんフェアリータイプになってるでしょ？ こっちはノーマル／フェアリータイプなんですけど」

「不思議なんですけど、そんなふうに生き物の分類が急に変わるなんてありえることなんでしょうか？」

「イーブイつていうポケモン、とても人気なんでご存知の方も多いと思うのですがね、え、様々な環境に適応して進化するポケモンなんですけれども、イーブイのような事例を知っていますとですね、ポケットモンスターなら何が起きてもおかしくない、つて思っちゃいますね」

「別のポケモンで近年のうちに分類変わった例をあげるとコイルがいますよね。何年前か前ポケモン人気投票で二位になったコイルが」

「ええ、そうですね。コイルは以前でんきタイプと分類されていましたが、ええ。現在では、はがねタイプも併せ持っているという認識が一般的ですね」

コイルというポケモンは俺はついこないだまで全く知らなかったんだがな……それが人気投票2位はない。どうせネット地方とかのローカル人気投票でしょう雑魚い鯖の情報は参考にならないので放置

「あれもやっぱり、環境にあわせて進化……えーつと、変化したって考えるのが自然ですよね」

「でも、ポケモンがそういう風になつてくつちやうつてことは、なにか理由とかあるんじゃないですかあ？」

「まー具体的なデータ無いのでね。ええ。憶測になつてしまってますがね、ええ、一番ありえそうなのは、カントー地方全体でドラゴンタイプのポケモンが増加傾向にあることになるんですかねえ？」

「その点につきましては、VTRありますので、こちらごらんください」とかレポートが言う画面きり変わるとつかの牧場っぽいエリアでハクリューのちつちやいバージョントか色々いた

『……ポケモンバトルの人气が世界規模で高まりつつある昨今、強大な力をもつドラゴンタイプのポケモンの繁殖、育成を試みる人が増えていきます。ドラゴンタイプのポケモンはとてプライドが高く、また、自身に相応しくない未熟なトレーナーの言うことを聞かないことで有名です』どつかの牧場っぽいエリアで専門のポケモンブリーダーだ

ろう人にインタビューはじまった

「ドラゴンタイプですか？ たしかに預けにくる人、増えてますね。ワタルさんみたいなカイリユウとか、シロナさんみたいなガブリアス使いたい、ってね。で、きつちりこちらで育てたのがいくらかかって教えると「えーっ!？」って。「そんな高いの!？」って。プロリーガーが公式戦でくりだせるように育てるアスリートポケモンが安いわけないでしょ？ まあ、こちらとしてもホンキでワールドチャンプ……世界一目指してるなら出せる額のもりなんですけれども。それでも構わないってことで、もう十件以上予約入ってますよ」またスタジオ画面にもどる

「やっぱリアルですよ。昨年のチャンピオンカップの決勝に登場したワタルさんのカイリユウとシロナさんのガブリアスの激闘の影響でしょコレ？ だってそれ以外考えられないじゃないですか」

「確かにですねえ。ええ。あれはエキサイティングでしたよ。ええ。手に汗握る一戦でした」

「えーつと、ちよつと分からないんですけど、それがおつきみやまのピツピちゃんとう繋がるんですかあ？」

「フェアリータイプはですね。ええ。ドラゴンタイプに無類の強さを誇ります」

「そーなんですよ。もうね。携帯獣学に関わるとね、純物理学とかやめたくくなりますよ。

フェアリータイプのポケモンって、ドラゴンプレス浴びてもドラゴンクローされても無傷なんですよ。あーエネルギー保存の法則壊れるー」

「はっはっは。なにをいませら。いまどきの純物理学なんてどこもかしこも『ただしポケモンに関する影響は考えないものとする』って書いてあるでしょう?」

「まーそうなんですけどねー。重力ヤバイ。電磁浮遊ヤバイ。気象操作ヤバイ」

「ワースゴーイ ナンカスゴーイ」

コメンテーターは1りがとんちんかん要因で2りの専門家かもなのが脇かためる構成か。

ともあれドラゴンタイプという世界有数だろう存在にもこおりタイプは知ってたがフェアリータイプという弱点があったことが新たに分かった。

これはおそらくの予想だがおつきみやまにドラゴンタイプのなんかがいるな。ピッピってタイプ変わるくらい対策しているということは外来種の強襲対策とかしてるに違いない。

まあ俺がわかったところでどうしようもないがなそれが自然のオキテ。

だが良い勉強になった今日のレポートはここまで。

おれは机にひろげたレポート片付けると今日でしばらくはオワカレだろうヤマブキポケセンのふれあい広場いって手持ちポケモンその他クラブ会員等々と交流後、自転車

引換え券使いにハナダにめぎすのだった

五番道路は今日も今日とて爆走してる兄弟かどうか知らん2りの自転車乗りがすごい勢いで往復していた。

おれは途中でわきみち入って育ててやさんに行き、ニユース情報の裏取りにレポト片手にインタビューしてやると「勉強熱心だねえ。感心感心」とほめられた。

するとニユース情報は事実だがここではそういうの、やってないらしい「うちは預かったポケモンを伸び伸び過ごさせている程度だよ。それが功を奏してるのか、たまーにポケモンのタマゴが見つかるんだがね」

「競技用のアスリートポケモンは？」

「プロリーグで通用するくらい本格的に育てる専門家は……少なくとも地方のバッジ、8個コンプリートしてない人は相手にもしないんじゃないかな」

なるほどな俺はせっかくなのでとぼくじょう見学させてもらったところ知ってるポケモンじゃない知らない連中ばかりだがみんなノビノビしてるように見えた

「あの水辺にいるのがカメールのつがい。ハナダシティの依頼で預かってて、もしタマゴが見つかったら届けることになってる。あっちでかけっこしてるのはヨーテリーにイワンコ、ロコンにフォッコ。同じひとから預かったポケモンじゃないけどあの4ひきは仲が良いね。で、あのガルーラはぼくのポケモン。きもったまお母さんってかんじ

で、すごく面倒見が良いんだ」

等等勉強させてもらったレポートにしっかり書き残したすると店の外から「おーい。入るぞー」という呼び声に育てやさんともども小屋にもどると例の自転車乗りのうちの1りが「ロコンとフォッコを引き取りたい」という発生する金のやり取り横目におれはこのひとの背中にいるバタフリーより圧倒的に強く見える六枚羽に目を奪われていた。

「なんだ少年。おれの背中に何かついてるか」

「ポケモン」

「ああ、ウルガモスが珍しいのか。まあカントーちほうには生息していないポケモンだからな」

「おまえはそうとう強いようだな、一度おれとバトルするべき」

「……やる前に言っとくがおれはプロリーガーのサポーターだ。このウルガモスだって半端じゃないんだ。遊び半分ならやめとけ」

「おれはいつだって本気のゼンリョク全開バトルだが？」

と挑発いうと「ならやるかア」と乗ってきた小屋の外でて対戦相手になってくれたがシヤレンならなほど実力者でとても戦闘描写できないくらいぜいぜいんが超風の熱風3連打であつさり即ひん死に瞬殺されたたぶん太陽タイプ（陽術）

するとひょうしぬけの自称サポーターは言った。

「んー。コレオレが言っていることか分からんが、おまえの手持ちポケモン。じめんに一貫性あるどころかもろ刺さってるぞ。せめてひこうタイプかふゆうとくせい入れとけ」

「一貫性ってなに？」

「……あー、つと、少年にも分かるように言ってるやるとだな。みーんなおんなじ弱点持ってるってこった。ニドリーナもニドリーノもオムナイトも、みんなじめんタイプに弱いだろ？」

「そうなのかよ？」

「そうなんだよ。まだ習ってない？　じゃあひとつ勉強になったな。んで将来的にちよつとそれニューアンス違うな、って分かれ」

「貴重な意見の情報どうもありがとうというべきだろうな。ならばやみんなのジャンプ力あげる必要があるな」

いや、ナイトにジャンプはむつかしそうだな・おれがむむむと悩んでいるとそいつ「っは！　いい心がけだ。まずはいまの自分の手持ちで何とかしようって意気込みは重要」という

更に「おまえもしかしたら将来強いトレーナーになれるかもな」とプロチームの後衛だという人はおれをほめるとジュースを奢ってくれたこんなにも強いひとがプロじゃ

ないワールドの壁の格の高さにめまいがしそうになったが俺の目標はプロよりもバツ千集めなのでその更に先はその後に考えようと思った(将来設計)

その後ハナダ・シティに行き折りたたむ自転車トレードにゲットしたこれがまた分かっていったことだが乗るのムツカシク、それほどあまり大きくないから倒れる前にあしつけないんだがせいぜい徒歩の二倍くらいの速度しかだせそうにない。なんならダツシユのが早いくらいだが慣れたらダツシユより速くなるかもナ慣れるのまで要練習

まあそれは良いんだが自転車って結構所持重量あつぱくしてくるなど感じになりつつポケセンにチェックインのため中入ったらナインがブルーゲイルさんに逮捕されたおつと保護のいいまちがえだったな「てめー俺を売りやがったな」ナインは出会いガシラにケンカ販売なので「限られた情報の一部を事情聴取で答えただけ」と買言葉かえすとバトルの空気なった

いま俺には戦えるポケモンがないんだが？

ふと気付いたが背後の常識の人もいかつて拳を上げかけていた「落ち着きたまえ、と」などだめらるとすぐく落ち着いてくる不思議ナインも危険を悟ったのか矛を取めていく

「やあアイアン君。久しぶり。

君の情報から、いろいろなことに話が繋がっていつてね。

こうしてこの子に無事に会うことができたんだ。ありがとう」

謙虚に謙遜してそれほどでもないと言っていた

だっておれ発信の情報って結構日数たつてたと思うんだがそれでも追いついてしま
い捕まえられるのは国家戦力のワクを超えた国際警察のパワーなのだよな……保護し
たのは間違いなくブルーゲイルさんの実力

するとお礼のメシおごってくれることとなった

ヒールマツシンが先だから飯は後にしてほしい（切実）

18. ……なんでお前泣いてんの？（名無しのナイン話）

遅めになる昼飯にはイツシユバーガーの量産店が選ばれた

サツと食べられるハンズバーガー系統はカントー展開した結果

人気は悪くなくまずまずといったところか都市に一つくらいある

ブルーゲイルさんはイツシユバーガーの真の味を知ってるらしいが

同じようできて各地方に合うよう工夫の心がなされたローカル味もおく深いという

セットのやつでドリンクとポテトなのでそれ頼んだところブルーゲイルさんはセツ

トとは別にイツシユナゲット15個のやつも頼んでた

同伴のナインが注文のつたトレイの1つ運ぶ係りに動いてたが逮捕じゃなく保護な

ので拘束とか、そういうのはされてない

でも席ついて自分のバーガーより先にナゲットに手出ししてる様子が意地汚いと

思った

おれが奢ってもらったイツシユ地方の味のカントーアレンジを噛みしめるとプ

ルーゲイルさんが繰り返しに「情報提供ありがとう」とまた言う感謝ループされると

こっちも謙虚ループするしかない

おわりの見えにくい無限ループになってしまふ、これ以上はやめてにして大人の仕事を遂行したブルーゲイルさんがすごいということでも良いということ

ブルーゲイルさんは「ありがとう」とメテ納得にこのわだかい終わった

次はナインの話なのだがどういふ圧倒的問題児なのかはしんぴのベールに隠されたままそのカーテンの幕をわざわざおれから開けに行くことはなかったケド想像力の翼をそらをとぶさせたところ名前無いか、

かなり強烈な背景でネガしか見えないだろうなのでムリに聞くのはマナー違反と思ひ、まあ食後にタイマンしたらさよならバイバイの関係か、絶対に勝ち逃げさせねー俺が勝つておわらせるつもりでいたがそのへんの事情は予想と違った。

「ま、この子には色々事情があるのだが……カントー地方における10歳という年齢は自分の生き方を決める節目となる年齢。しばらくのあいだは私が保護観察することになるが、とくに問題はないと判断すれば、自由にさせてあげるつもりさ。

アイアン君も機会があれば、この子を気にかけてもらえると助かる」

というコイツ10歳だったのか……それであの動きさせられるのだから相当にポケモン強者

ブルーゲイルさんは俺に頭下げてくるが大のオトナが見ためまだガキに頭を下げるというのは簡単じゃない「もちろん将来的に食後のポケモンバトルで倒す手はず」とい

うと「ははは。まあ、そういう関係でもいいさ」という返事。

するとナインは「上等じゃねーか」と結構交戦的でけんのんのまま食事タイムは終わったポケモンバトルのためにゴールデンブリツヂわたった先の24番だか25番だか道路でタイムンすることとなった。

そう、おれはこの瞬間までは間違いなく正堂堂タイムンするつもりだった。

しかし次の瞬間にはとうそうしんが失われてしまった

「いけー ナイト!」「いけDG5585」俺らはほぼ同時にポケモン繰り出したが聞こえた尋常じゃない言葉におれは「は? ちょっと待てよ」と即座に口に出ていた・

「……ニドランじゃねーな、まあ、関係ねえがな!」

「おい、やめろ馬鹿。この試合もう終了いまなんて言った?」

「あアン?」

「この試合は早くも終了ですわねと言ってるのが聞こえませんか?」

いま『でいーじーごーごーはちごー』といったか?

そのふざけたニツクネームに寒気すらする始末」

「意味がわからねえ。なに言ってるんだお前?」

俺がこうしていつしゅんでバトルできない心になったのに

よくのうのうと戦おうとできるもんだな。おめでたいな。

初対戦時に今の言葉聞こえたかというところ聞こえてないが今回は聞こえたし確かに言った。

証拠のログは確保したからな言い逃れはできない。

お前は「恥」というものを全く知らないで生きているのか。

「俺はいま激しい怒りにおそわれてるぞ……」

そんなふうになんか名前されたら誰だつて激怒する

少なくとも今から対戦相手の俺がここまで思うんだから

本人の悲しみは計り知れないでしょう」

「……なんでお前泣いてんの？」

「泣いてねーつよ適当こくのやめろ」

そうやって嘘の情報流して人を陥れるのは犯罪だぞ！」

おまえにおれの悲しみのなにかわかるってんだ？

顔とか結構ひややせかいてて拭いてもピシヨヌレ「それよりなんだそのニツクネーム

は？ニツクネームなのにニツクネームじゃない別のなにかだと思つた」と指摘すると

「……呼びかた一つでなんでそんなキレてんのか知らねーが……こいつの型番に文句が

あるならムシヨにぶちこまれたクソどもに言つてくれ」ときた

かたばんというのはどこの方言か意味がわからない（理解拒否）

想像を絶する悲しみが俺を襲った。

普通に血の通った人間なら、大事に育てるポケモンのニックネームに愛情なのは当然だと思うんだが特にナインの場合は、そこらの一般トレーナーの雑魚いやつじゃなくてタイマンでおれに勝つほどのヤツ

おまえら残酷すぎる

おれは初手こうさんを宣言すると青い炎のしつぽポケモンリザードに歩み寄ったら当然のように狂ったような鳴き声で威嚇してくるが構わずナイトを抱き上げると、しゃがんで目線の高さ合わせてやり、さらに向きあわせてやると、抱える手の位置ずらしてしよくしゆのねっこにある胴体こしよぐるするとナイトは鳴き声あげて笑った。リザードはわけもわからず戸惑ってるのがアワレだった

「……………？ なに、やってんだ？」

「お前の勝ちでもういいよ

バトルとかそれ以前の問題お前もそいつと戯れるべき」

「はあ？」

「お前もやれと言っているマンキーー！

タイムンよりも大切なことがあるこっちかい」

ナインは完全に意味不明状態になってるみたいだったがそれはこっちの状態異常だと言いたいぐらい！

するとへっぴり腰で近づいてきたので「触られたらいやがるところ知ってるのかよ？」と聞くとたぶん全身だという「じゃ寄り添ってるだけでもいい」といい俺とナイトが戯れるさまを見せつけてやった。

「わけわかんねえ。ポケモンバトルするんじゃねーのかよ」

「俺はおまえのことなんか良く知らないし興味もない。」

年下相手にタイムンで負けたのが悔しかった事実もないしな（リアル話）

だがかたばんという響きは圧倒的に負の属性だからお前にはそいつを青い炎よりあたたかな人肌で抱きしめてやる必要がある不可欠」

果たして言葉が不自由そうないつにおれが言いたいことが伝わったかどうか……ナインは沈黙状態だったがそのうちリザードに頭に手エ伸ばしたところビクつとステツプして逃げられてた

逃げ方がナツメのエーフィみたいに懐いてるけど急に触られるのはちよつと、というリアクションじゃない触られるのが怖くておくびようなんだという動きに見える。「上からはダメということは目線の高さは合わせたほうが良い。」

二本足で立ってるし、そいつ手始めに触るなら手とかウデとかにしないと危険」

おれはいったんナイト降ろしてよくしゅムニムニユ弄るアツピールするとナインはわけもわからず行動してるっぽいのが混乱なのだがリザードもだった。

その後しばらくするとナイトがうらやましくなったのかりザードはナインからさわられかけても逃げなくなつたんだが触られるとビビっている

結局、日が暮れるまでの途中リアメスとかりアオスとかと入れ替えたりして戯れてたが、ナインとリザードの関係は更に進展することはなかったのが残念

「今日はこれくらいにしといてやる俺は優しいからな」

「……お、おう」

「俺が初手こうさんしたので賞金はくれてやるが

お前二度とそのニックネームから変えとけ。

所有者登録名変えられる変えれないというような一般常識の話じゃない

オマエがどうよぶかけるのが重要

こつちがいつまでも紳士的な対応してると思うなよクソが」

「……、……………おう、わるかった」

「急用を思い出したからおれ行くけど、ほんとに、いい加減にやめろよそのニックネームとかかく、どうしてそうなったかもしらないけど型番よばわりは絶対許されざる超悪

行

つぎ会ったとき改善されてなかったらマジで顔面ブツとばしてやるから覚悟しとけよな」

「……、……………、……。……、おう」

おれは自転車に乗ったらこけそうだから走ってハナダに戻ったあんなヤツだとは思わなかった。だが反省してみたいなのでもう悪いことは改心してくればよいのだが、と顔の汗を拭うのだった。

大した急用なんか無いのだが急用と言った手前のんきに飯とか食うのはダサくて耻かしいな、と思っておれはレポートだして過去ログさかのぼると急用に相応しいネタが見つかったのでおつきみやま行つたが「夜のおつきみやまは危ないよ!」と道中のやまおとこに呼び止めらるる

「ピツピの満月ダンスというのが見たいと思った」

「今月の満月は過ぎたからまた来月だね」

「お、い、い?」

勘違いだったのか時既に時間切れらしかった

もしかしたら今日はダメの日なのかもな……稀にだがたままたまそういう日も偶然発生することがあるらしい

しやくぜんとしなймаま、やまおとこととタイマンやって速攻で勝って終わらせてハ
ナダ・シテイのポケセンにとぼとぼだった

「それでは、双方合意と見てよろしいですね?」

あ! 食堂で完全オリジナルロボットポケモンアニメ・ジョイメカロットの再放送
やってる! わあい!

◆◆◆ここからナイン側の視点◆◆◆

(予告) ここからはナインというオリキャラの視点ではないが

アイアン・ブロンテというオリキャラの視点ではないが

神の視点の描写でもブロント語なのはもはや決定している (以下省略)

ちなみにナインが魔改造Nとか、そういうBW系のオチはない (宣告)

◆◆◆いまからナイン側の視点◆◆◆

「なあ、オマワリさんよお……なんなんだアイツあ」

リザードと横並びにおいて繋いだまま取り残されたナインは「ニックネーム一つで何

時間もぶち切れやがって。しかもキレてんのにポケモンと遊んでやがったぞ」というと、ここまで二人のやりとりを一步引いた位置で見守っていたアンドリユーは「なんだかんだと言うことはない。彼は本当に、心からポケモンが大好きだという、ただそれだけのことなんだろう」と返事した。

ナインはリザートと手繋いだまま、離そうとせず動かない。

いまはこれが精一杯らしい。

「上から目線でアレコレ言いやがって……だが、まあ、こういうのも、悪くないがな」

「そうだね。私の立場からきみに言っても伝わらない言葉だった」

「あいつのポケモン、アンタとミカントンより仲良いのかもな」

「え？ いやそれはないよ？」

彼と彼のポケモンの絆は素晴らしいものだったが

私とMikannさんは相思相愛の間柄だからね？

ねー、Mikannたんwwwwww

アンドリユーはおもむろにカイリユー繰り出して抱きついた。登場してからここまで一貫して築きあげてきた紳士のジェントルメンの態度がメロメロにとけていたが、腕に抱きつかれたMikannさんというといとあいてるほうの手でほつたポリポリだった。

ちなみにここでいうMikanたんというのはジョウト地方のジムリーダーとは一切関係なく、それにあやかっつけてつけたニックネームでもないとあらかじめ言っとく（疑惑回避）

ナインは色々狙いがあってイワヤマトンネル付近のポケモンセンターから無人発電所ふきんの険しい山道をウロウロしていたところ、追跡調査を着実に進めてきたアンドリュースに追いつかれていた。

その後ナインの保護とともにその手持ちである『青い炎のリザード』を回収しようとしたところバトル勃発、アイアン視点ではポケモン強者と見られているナインとも言えども、圧倒的なレベル差あるカイリユースのMikanたんパワーには敵わず、あえなく御用となった。

そのバトルの最中に『この子とこのポケモンを引き離してしまえばどちらも暴走するだろう』と悟ったアンドリュースは、自身の懸念を上司に報告したところ、紆余曲折の末に被害者にして脱走者、重要参考人でもあるという立場も加味し、あわせわざで保護観察処分することとなった。

その後もよりの都市であるハナダシティで過ごしていたところ、主人公アイアンと出会ったというのがここまでの経緯。

「しかしシャバじゃ型番があることにキレるやつがいるんだな。『欠番』じゃねーだけ上

等なんだが」

「あまり軽率にその話題を出さないほうが良い」

「分かってる。アンタ以外だれも聞いてちやいねーよ」

「でも、きみは常識知らずなところがあるから」

「常識くらい知ってらア。なんなら今からタマムシ大学に飛び級で編入してきてやろうか」

「そういう意味じゃないよ」

「それも分かってる。だが、その、なんだ。あのバカのバカみたいなバカに免じて一つ教えてやる」

「なんだい？」

『DG1415』『DG6251』『DG7823』。ソイツらはDG5585と同じで『成功例』だ。保護してやってほしい……ほかの『なりそこない』はあの施設の隔離ボックスからひき出さねーほうが良いと忠告するぜ」

「……………」

アンドリユーは無言でライブキャスター起動。上司と現地で活動してる同僚に繋いでいまのナインの言葉を伝えた。心の中で「アイアンくんにはまた感謝することが増えてしまったなあ」と思ったが心の中なので聞く相手はいなかった

「情報提供、感謝する」

「……ふん。勘違いするなよ？ おれはただ、もしかしたらアイツらも寂しいかもしんねーなあ、つて、キマグレで思っちゃっただけだ」

「ふっ。わかっているさ。」

さあ、僕らもハナダホテルに戻ろうか。夜風に浴び続ければ体が冷える」

「いや……もうすこし……もうすこしだけ、このままで」

ナインはリザードの手えきゅつと握ってそういった。

「礼儀正しい大人の対応でアンドリユーは「もうすこしだけだよ」と言っただけだよ」と言っただけだよ。自分もカイリユーをぎゅつとしただす。

（ポリゴンという大々的な成功例から始まって……ミユウツ計画に人口ミユウ計画、ポケモンクローン計画、融合ポケモン計画、ゲノセクト計画、タイプ：フル計画にDG計画か……）

まったく、近年の社会の闇に属する科学者・研究者はポケモンを作りたがりすぎる）

国際警察が大変危険な研究を繰り返す非合法施設を摘発し続ける中、きわめて断片的に、おぼろげながら浮かび上がるポケモン業界の闇から闇に伝わる情報にウンザリする

アンドリユー。

既に過去のものとなっている計画から現在進行形で進んでいるかもしれない計画まで……情報の精査すらできていない段階であったが、露骨に天下泰平の世を乱さんとするいやらしい者たちは我々が許さんと、決意を新たにするのだった。

19. どちらかというくとクチバ・シティが良いという意見 （リーダーシップ）

やな感じの気持ちって、軽い症状だったならけつきよく寝て起きたら

たいしてひきづらず回復するというのに今回そうでもない

ひづけまたいで昨日あったことレポートにまとめてたんだが

こうして書いているだけでも本当に気分が悪い。

しかし俺をこうさせたのは他の何者でもないナインだ。

このままでは俺の寿命がストレスでマツハなんだが・

型番という言葉のせいかくの意味をちゃんと公共のパソコンで調べてみたところ

『製品の型番』とつける記号・番号』とでた

ポケモンは数字だと断言するヤツは俺の人生で完全にシャッタアウトされているように記号とか番号扱いたしたナインも、もし全く反省してないなら血も涙もなくなんとも思っていないと言う事だからシャッタアウト対象になる

まあ昨日の様子の見立てによると改心してすぐわれるチャンスもあると思った

だが結局きのうブルーゲイルさんもナインもポケセン内で見かけなかった今日もだ

が

すでにどこかヨソに行ってしまったのかも知らない。

別に会う約束はしてないが反省してるのか確認したかったのにできないのかもな

……

あまりこうして他人中心の考えになると固まって動けなくなる

おれにはおれの冒険のたびがあるからまずは自分の道を考えないで構うと危険（リアル主義）

おれはグレー・ブルー・ゴールドのバッチを入手したカントーポケモンリーグ公認ジムバッチ3所持者なんだが残り集めるのは5つつとということになる

ポケモンリーグ公認ジムどこにあるかというところ、カントーの都市にあるんだからまずはおれの地元の最強のトキワ・シテイのグリーンバッチ、

ヤマブキ南にあるクチバ・シテイのオレンジバッチ、

ヤマブキ西にあるタمامシ・シテイのグリーンバッチ……おいイ？

グリーンバッチが二つになつてゐるんだが……じゃたぶんだがタمامシのはタمامシイロバッチかもな

で忍者で有名なセキチク・シティのピンクバッチ

見事な記憶力だと関心はするがどこかおかしい

あといつこのカラー的にはレッドバッチが入る都市はどこだ？

はてなレッドバッチだったかも怪しくなってきた

ま赤いバッチなのは間違いないと思うバツジの色くらいは学校で習ったつもりだし、

もし化して、正しくはスカーレッドバッチかもだが

そのバッチのジムは都市じゃない場所にある可能性がある。

カントー地方の都会じゃない町レベルの有名どころといえはトキワ南にある、カントー史のすべてはここから始まったと噂に名高い始まりの地のマッサラタウン。

他地方からのカントー開拓民が第一ベースキャンプといえはマッサラという逸話はブロンテ家に残された歴代ログにのつてるたまに先祖返りのスーパーマンも稀にだが誕生してるらしい

ノーマークだったが実はこのマッサラタウンにジムある可能性高い

もしそうならバッチカラーがホワイトバッチになってそうだが、赤いバッチというのは俺の覚え間違いなのかも (不安)

そのマッサラタウンの更に南におよぐと去年までであったがグレンとうの噴火で失われってしまったグレンタウンというところがあったのだが、ない町にジム出せと言っても出

せるわけがないという理由でここにジムがある可能性は始めから0%だろうな

あとはぼけもんタワーで有名なシオンタウン。

このまちはイワヤマ方面で都会に疲れたのんびりの人が多いという

戦いのバトルのジムがあるとは一般的にかんがえられないでしょう？

とこうして候補地ならべるとやはりというかマサラタウンにジムが隠されている確率が圧倒的に高いと見るほうが自然の意見

旅立つ前にちゃんと想像して計画してればじゅんばんからしてマサラジム攻略にマサラタウン行っただろうが

ジムⅡ都会と違ってた以上すぎさった時間は取り戻すことはできないみたいだった
じゃ4つ目のバッチ狙いはどこにするかというところ

今いるハナダから近いのがクチバかタمامシだが

どちらかというとクチバ・シテイが良いという意見

だってポケモンだいきクラブの本部があるし、知り合いも何人もいて更にだが

クチバ北の6番どうろとクチバ東の11番どうろでポケモン自慢が棲み分けに集まる名所なので良い腕比べになる手はず

その上デイグダのあなつていう、クチバ東に危険なダンジョンがあるんだがデイグダのじめん攻撃をサッと回避するつくくんが今のおれのぼーちーにとっても有効である可

能性もある。

今後の予定は決まったあとの問題は自転車スキルだが運転あるのみなのでおれは早速フラフラダンスの自転車でハナダ・シティを飛び出すのだったハナダ・ヤマブキ間のゲート横にひっそりとたたずむ小部屋

ここに都会回避のハナダとクチバを繋ぐちかつうろ入り口があるんだが都会のドまんなかで動きがフラフラ自転車は危ないだろう

せつかくだから俺はこっちの道を走るべ

このつうろ構造欠陥でシオンとタマムシを繋ぐちかつうろと合体して十字路じゃない

カントー地下通路構想がデイグダもんだいで頓挫が原因らしいが

その情報だけでもデイグダ族の地底の支配者っぷりは分かってもらえると思う

おれは建物には入り階段おりてから折り畳む式自転車で走行、

ここあんまり人通らないからかもだが

切れかけた電灯パチパチで放置ゴミだしでロクでもないトコだな、と思いつつ走っていたところ

やけに赤いワンピース少女がたたずんでいた

「おいイ？　　こんなところでどうかしましたか？」

俺が自転車とめて問いかけると背中向けたままうつむいてたので気分が悪いのかと思ひ「大丈夫か？」と肩に手を伸ばしたすると少女は「アナタジャンナイ……」と言つて壁の中に消え去つてしまつた……

……これは興味本位なんだが……ああいうのに狙われるヤツつてどうなるんだろうな？

もちろん俺はビビつてないしそもそも午前中のホラーとか怖くもないが、ああいうの募集してる人の前にだけ現れてほしい俺はそばやく自転車のるとそのまま走り去つた。

で地上あがつたところにいた、いづくも休憩してたつばい人にちかつうろのこと聞いたところ

「赤いワンピースの女の子の幽霊？」

いやあ知らないな。そんなウワサ聞いたこともない」

と言われたじゃあ俺がみたアレはなんだつたんですかねえ……？

するとその人は「どれ、ちよつと覗いてみるか」と地下通路の階段を降りて行つた気になるからちよつと僅かにリアメスだして戯れていたところ「う、うわあああああああ!?」という悲鳴とともに戻つてきた「まさかアレがあんなふうになるなんて!? どうして教えてくれなかつたんだ!?」というリアメスはきよとんとしてた

「どうした何があつた?」

「だからあの子のアレが！」

「アレというのは意味がわからない」

「くそそう！ わからん やつだな！」

もういい！ きみには おしえて あげない！」

とへそまげられてしまい何回か聞いてもなに起こったのかおんなじこと言われるおれはこのホラーミステリーの真実から遠ざけられてしまった。

畜生おまえは馬鹿だ。

俺はリアメスをボールに戻すと「じゃあ俺だってお前なんか知ーらない！」と地下通路小屋から出てってやった（軽率）

で6番道路なんだが結構なトレーナーがやせいのポケモン相手してたりお互い対戦してたり対戦相手待ちなので空いてるとバトルしながらクチバ・シティ目指すこととなった。

こっちは低レベル体向けのエリアだからだろうな。ほとんど進化前つぽそうなポケモン使いが多く、リアオスやリアメスを繰り出すと圧倒してしまいお互いあもり経験にならないのでナイトで戦ってやった。

バトルの経験というのは一方的すぎるとあっさりなので身につきにくい

ところが同じくらいで互角とか、ちよつと強いかも相手だとどうやって勝とうとか

負けたくないとかで考えたり実践が経験になる。

弱いものイジメする気はなかったんだが結果的にそうだった形に近いことが申し訳なく賞金だが「良い経験になった」「そういう感じのやりかたがあったか」とおれが彼らに経験を与えられたようなのでひとまず安心した。

すると草むらで網ふつてたヤツが良くみたら知り合いのバタフリー使いで「お、アイアン。おひさー」ときた「おいノブ。リベンジしにきてやったぞ」と宣言おれは去年クチバに來た時、こいつのバタフリーに痛い目にあわされているのだ。

こいつポケモンだいきくらブにはレアな虫好きの青年ノブユキっていうヤツで進化後のむしポケの良さを語り口は熱いねっけつタイプ

おれの誘いにノブは「受けて立つぜー」というのでさっそくバトル「行け！ バタフリーヤー！」「行け！ リアメス！」おれたちは同時にボールを繰り出す相手のせいべつ知ってるのでどうそうしんあふるるリアメスがバタフリー倒したいみたいに鳴いてた

「おっ！ ニドリーナに進化してるじゃん！ やったなアイアン！」

「見てわかる以上に前回よりかなり強くなってるので本気だしいぞ」

「オツケイ！」

バタフリーはひらひらしているのでそれだけでも攻撃が当たりにくい上にノブのバタフリーはねむりごなで昏睡させにくるので強い。まえはそこからついでぎのサイケ

光線でダメージは更に加速するハメになってしまったが同じオチにはやられないぞ？

しばらくくらみ合わせてたがノブが動いた「バタフライヤー！ ねむりごな！」というとはねパタパタツつとばしくる粉系のやつ

おれは「でんげきハア！」と迎撃させると相殺するんだが予想してたみたいで今度はねむりごなとは違うのを飛ばしてきた攻撃のペース早い「リアメス！ ガードしろ！」と防がせるとうまくいったみたいだった。

先手もつてかれるのは分かっていたこと逆転はパタパタするのに疲れてから「リアメス！ でんげきハア！」だがこつちも待つてる以外できないじゃないイキナリ攻撃させるとバタフライヤーは避けきれず結構ダメージ与えている様子

一気にいきたいが誘いに乗って調子にのる馬鹿には確実なねむりごなが待っていた。こつそり撒いていたねむりごな攻撃をサツとよけさせ、それからつかず離れずにパタパタとぶバタフライヤー追いかけるリアメスは、いつでも爪の射程内で休もうとしたらいつでも倒せるぞとプレシヤー与えていく

たまにくる粉塵回避を優先に攻撃タイミングを計っていると「戻れバタフライヤー！ いけ！ デンチュル！」とノブはおれが見たことのないポケモンと交代させてきた、きいろカラーでどこかリアドスっぽく似てるが別物

「新手的虫ポケモンかよー」「そのとおり！ デンチュル！ いとをはいてやれ！」デン

チュルとよばれたほけもんは糸を吐いてリアメスを拘束しようとするので

ステップで回避させると巢でも作るみたいに糸の結界構築しだした「リアメス！ みだれひつかき！」と妨害に攻撃させると前ジャンプく空中連続ひつかきが決まった。

「しまった！ エレキネットが間にあわねえ！」飛びが通つたのでもう避けようもない近距離戦、お互い前足でひつかきあう乱戦なのだがデンチュルは斬れば斬るほどいりよくがあがるともいわれるれんぞくぎりを使っていた。

おれはリアメスに「どくづき！」と大技使わせてトドメ。

「んー、思ったより噛み合わなかったな。うし、反省。お疲れデンチュル！」ノブは新戦力引つ込めて再びバタフリーが繰り出した

リアメスはさっきのひつかきあい制するのに疲れてしまい、ねむるこなの粉タイプ攻撃に逃げ切れず眠らされてしまったところをサイケ光線で倒された。

「よく頑張ったリアメス！ 行け！ リアオス！」

俺はリアメス引つ込めてリアオスだとバタフリーははねやすめに休憩中だったのですかさずダツシユ角攻撃させたが、リアオスにイマイチやる気がないので一撃で倒すことはできなかった。

だが再び舞い上がった直後にれいとうビームをうちこんだところ強力な追加効果が成功し、バタフリーがカチカチにひえきつて動けなくおちてきたところを何回か角でつ

つくとバタフリーは倒された

「うおお、凍るかー……よし、お疲れ様だバタフリーヤー！ 行け！ ランサーー！」

ノブは強力に突った針をもつランスス三刀流の強者スピアーを繰り出しこうそくいどうしながら繰り出されるヒット&アウエーにリアオスは角一本で対抗しなければならぬのだが

スピアーの突き属性攻撃に抗体なのかりアオスはたくさん突かれてもよく耐えていた。

おかえしのれいとうビーム攻撃はノブのてきかくな指示で結構かわされていたがリアオスが力尽きる前に三回当てられてスピアーは倒された。

「おー。アイアンめっちゃ強くなってんじゃん。おれの負けー」

どうやら更なる新手はいま手持ちに持ってないみたいでノブは俺を褒めてしようきんを渡してくれた

こちも「れいとうビームが先発エースのバタフリーヤーを凍らせなければ負けていた」と時の運の勝ちだったと返し、積もる話はポケセンでしようと会話しながらクチバ・シティに入ることとなった。

20. 汚いな……これがポケモンジムでやることかよ

……

ノブことノブユキのむかしじまん話によくいうものかというと

伝説の元祖レッドキャップ相手にそのころゆいいつの手持ちだった

バタフリーのふくがねむりごな&こんらん付与のねんりきパワー全開に

ハメ負かしたこともあるらしいという内容だがたぶん誇張表現

ケド元祖の本来レッドキャップの彼は成長速度がそこらのトレーナーとは隔絶したかそく状態らしく、つぎの対戦時にはかんぺきに対応されたというこの手の話するヤツ少なくとも上にウソついてまでレッド系ニセ武勇伝語りたがってるほらふきやろうまでもが世の中にはいつてい数いるのだが、おれはノブの話しかたは真剣なのでおれは嘘じゃないと思うな

そんなノブとポケセンでヒールマシンにてもち回復させてるあいだに飯食ってだべだべと駄弁に会話してたが

今はノブはふなのり見習いなのでもう行かなくちゃらしい「バッジ集め頑張れよー」と応援のメールくれて港に向かって行った

おしごとの休憩にポケモンするくらいなんだからアイツもたいがいポケモン大好きなんだなとあらたまて悟ったよ（賢者）

おれもメシ食い終わったあとと預けてたポケモン回収したあと

予定どおりポケモンだいすきクラブの本部行くと

ニヤース派閥とピカチュウ派閥が自慢バトル中のひととか

その他何人かいて会長はというと誰かとしやべってた

おれ平日にここ来るの初めてなんだが普段はこんななのかと感心が鬼なったクチバ来るのってポケモンだいすきクラブのイベントあるときくらいだからな。自慢バトル待ちのピッピ派閥の知り合いが「あらブロンテさんとこの長男くんじゃない。いらつしやい」と挨拶きたので返したが自慢バトルは先に会長に挨拶したいので辞退

さて会長にこんにちわと思ったら机のかけからイワンコが飛び出してきた「わんわんこ！わんわんこ！」思わず声かけるとイワンコ鳴くながら体当たりしにきた

俺は元氣いっぱいにくるそいつをキャッチしたが勢い押し倒されてしまうだがイシツブテの半分ていどの重さなので先祖返りマサラ人タイプでなくともたいしたことない

イワンコのしたでなめる愛情表現が顔に来るのでお返しにナデやったらこのさわりがごこちはズツ友イワンコだべな、おやがだれだかしく分かった尻尾ふりふりブンブン丸

で気持ち良さそうにしてたお前の弱点はもう知ってるぞ

「おまえククイのイワンコだろ？」

というとわんわん鳴いたそしたらイワンコ後ろから持ち上げられてしまうんだが「こら！ ぼく以外の人にたいあたりしちやいけなげいぜ！」としかる声にあてずっぽうでアローラ言つてやつたらびつくりしたみたいだった。

「やあ、アローラ！」

つと、よく見たらきみはアイアンくんじゃないか！

大丈夫かい？ 久しぶりだね！」

やはりというかそのひとミナミのシマのアローラ地方のわざ博士のククイさんっていう地元で新しくポケモンリーグつくりろうと頑張ってる人だった

俺はこの人からいろんなポケモンのわざ情報教えてもらった実績があるだよ（リアル話）

イーブイマニアの人も自分にポケモンのわざ使わせるといふのをこの人から啓蒙らしいわざを体感する実践派の尊敬できるスゴイ人だ

手エ借りて助け起こされた俺は「いまのイワンコ悪くない友だちだから」といっただら笑顔が印象的だったな・ククイさんのイワンコとはねーちゃんにニドラン捕まえてもらう前からのフレなのだよ

「アイアンくん、ここまで一人できたのかい？」

「どうぞ。おれいまバッチ集めてる冒険ちゅうの旅人」

と言うおれの言葉に「すっかり一人前の男の子だね！」ときたニドランたちのことも聞かれたので、進化に成長した2ひきくりだすとイワンコとじゃれあいだす様子に仲が
良い。

「バッチ集めの試練の調子はどうだい？」

「もちろん順調そのものに決まっている。」

そういうククイはスポンサー集め試練どうですかよ？

タライまわしに足踏みばかりとおれは聞いた」

またぎき話で知ってるさいごの情報だとアローラ地方にリーグ級の実力が疑問なので、とオアズケ状態だったその後どうなったか気にならないわけがない

ククイさんは前々からスポンサーというのを集めるためカントーに訪問者でポケモンだいきくらブにもイベの時とかときどきいた

ここバトル中心の集まりじゃないから全面的バックアップはないものポケモンラブの熱意の波動に共鳴した一部メンバーからカントーの有名人紹介とか、てだすけ活動してもらってるらしい大組織だからな

かくゆう俺のオヤジも支援者の1り

「いやー、正直言つてあいかわらずキビシイね！

でも！ きしかいせいの一手をくりだせそんな状況になってきたんだよ！」

「ほう？」

おれが詳しく聞きたがるとヒミツといわれたがここだけの話、

バッチ集めじゃないエキビツションでジムリーダーとか、それに現役のプロリーグに四天王さらにカントーチャンプのワタルとも戦つてアローラがポケモンリーグ保持に圧倒的に相応しい実力行使の機会がもらえるかもしれない情報もたらされた

今回そのチャンスのてだすけなつた会長にお礼に来たらしい流星は我々の会長と
いったところかな

テレビ番組で特番組まれるのかも

放送されるなら絶対見ようと思つた

どうやらククイさんは忙しいらしい次の予定があるというので

本部から出てつたイワンコは名残惜しそうにボールに戻された

その後おれは会長にこんにはに行つてリアメス、リアオス見せびらかしこんなにか
わいくかつこよくなつたと散々教えてやったら会長は相変わらずギャロップ推しでく
る

さらに他のクラブ会員の乱入でポケモン自慢バトルロワイヤルになり、そうこうして

るうちにいつの間にもやら夜なつた。

やはり会長のギャロップ語りが強すぎるな

この俺をして思わずトキメいてしまうほどの破壊力バツ牛ンのアツピール技のかずかずに勿論みんなじぶんのポケモンが一番だけど二番目に会長のギャロップがスゴいとえらぶので総合優勝は会長なのだった

よいこは寝る時間なのでポケセン宿にゆくはくに戻ってつぎの日。

昨日の調子ではおれが本部に入りびたるとあつという間に一日なので自転車のちゃりんこトレーニングに11番道路をフラフラダッシュ

たまにくるポケモンバトルもこだわりのラッタ3匹使いとか、おれほどではないが二ドリーノの使い手とかその他いろいろとやりあつたが一方的にやられることはまずなく、善戦に勝つたり回復してないから負けたりと良い訓練になった昼すぎにジム行つた。

「おつす！ 未来のチャンピオン！」

ちよつと僅かによそとテンション違う実況属性のおつきん情報、ここは雷属性のジムらしいレクレーションなのかバリア解除のナゾ解きしないとリーダーと戦えないだつてよ

「ところでイナズマアメリカンのアメリカつてなに？」

「……おっと、それは俺の口からは言えないかなー」

思わせぶりだったと言いたくないなら別にいいです（余裕）

でナゾときとか言ってたが回答は速攻で特定されていた答えは俺よりさき来てたやつがゴミ箱の中ぼちつとしてバリア解除してたし

ゴミ箱探索ジャマするジムトレーナーとバトルはリアオス、リアメス中心メンバーで戦うんだが、ムキズとはいかないワケだが勝てるレベルだった

しかしでんきのタイプ中心ではナイトの順番がムツカシイ

で後はトラップ解除なのだが、ここでこのジムの不具合が発覚。

「畜生。どうなってんだ開かねー。」

おいイ？ アタリが出ない不具合があるんだがどういことですか？」

「へやが あかないのか？」

マチス　しょうさの　ようじん　ぶかさは

ぐんたいでも　ゆうめい　だったぜ！」

おれは第一スイッチ押した後の第二スイッチでハズレという連敗を繰り返していた

その日おれ以外に三人くらい挑戦者いたんだがそいつら簡単に開けてしまうというのに俺はというと何十連敗したか数えてない

でんきやのオヤジっぽい人がかわいそうな目を向けてきたのがミジメだった

「ちくしよー……こんなの絶対おかしい

さては俺の強さに恐れをなして不正行為しているな？

ボタン押そうとしたときにひみつのボタンとかでアタリ操作してるんだろ」

とでんきやのオヤジっぽい人にいちやもんつけたが

手伝いにメンテしたこともあるらしいそのひとの情報によると

完全ランダムという俺が引きが悪いとでも言いたいのかよ？

よんぶんのいちのとき偶然にも外れるのはまあいい（あまり良くない）

確率2分の1でミス連発するのは納得できない（つまり不正）

するとジムトレーナーの一人が「ハードラックとダンスしちまつてる少年！逆に考え

るんだ！はずれちやつてもいいさと考えるんだ！」と漫画の名台詞で応援してくれたが

今の状況ではほとんど意味がない（空虚）

そのままジム閉まるまで粘ってやったが最後まで開かなかった

汚いな……これがポケモンジムでやることかよ……ゴミ箱カラにしとけよ……がさ

ごそしてもゴミばつかりだろうが

「ちくしよー

わけわかんねえよ

俺が間違った事してるのかよ

ヒキョウわぎも大概にしろ！

覚えてろよ、ばーか！」

すてぜりふにジムから出てくるとちゆう応援してくれた一人が追いかけてきこう言われた。

「あの仕掛けは単純な運試し……トレーナーの運を試すものだ。

ポケモンバトルは、そりや基本はポケモンとトレーナーのチームワーク、ポケモン自体のパワーやテクニクで戦うんだけど、時には運が戦況を左右する局面もある。

……俺も一時期はプロの世界にいたが、怖いのはとにかく運があるやつなんだ。

そういうやつはどんな大きな実力差だってひっくり返す可能性があるからな。

ま、今日のきみはたまたま運が悪かっただけさ。

こういう日もあるってこと。くじけずにまた挑戦しに来てくれよ」

………畜生。

どう見ても俺の負けだな……

あれはインチキでは無いという証拠にポケモンに必要な要素を論理的に説明されていた

俺も言い返そうと必死に回転させたが言い返す言葉が出なかった

これが完敗ってヤツだろうなそんな言われたらいちやもんつけてた俺が馬鹿みたい

なる

やつとでてきた言葉が「もちろん明日には攻略する手はず」と負け惜しみでよわよわしい言葉

ラックなんてレポートにまとめてもどうこうできるワケがない

おれはモヤモヤした気持ちのままポケモンセンターに撤退するしかなかった

21. ピツキーン！ 閃き発動（期待）

運わるい扱いされるとなによってもダメな気になる。やってる本人が言うんだからこれは仕方のない真実を受けとめて認めるべきだろう、ダメだネガの意見しか浮かばないのはよくないシャワーでもスツキリできないみたいなのでさっさとベッドイン。

別方向のこととか考えてみるかと

意見の視点を変えるところでもないことに気付く

俺としたことが港まちで海なのに

川タイプというよりかいようタイプっぽい

ナイトのこと海にくり出してなかった事実（痛恨）

反省したからまたひとつ強くなってしまった

これからどこまで強くなるのか楽しみで仕方がない（極楽）

ベッドの中で反省のつぎのひ、おれはクチバの棧橋に急いだ出ようとしてる船とか戻ってくるも無いのでナイトを繰り返すとそれはもうゴキゲンに泳ぎはじめる

しょくしゅで向きコントロールして自由自在の進行方向決めらるる動きで遊んでたところがそのうち水辺ならどこにでもいるコイキングに寄られたみたいなので絡みつ

かせてやった。

俺はリアオス・リアメスもくりだして並んで座り、海の雄大きとナイトを眺めているとたまにだが背ビレにとがった部分の多い海のポケモンが海面はねたりしていた。

俺はサカナタイプ博士ではないので彼らの名前を知ることがは無かった。

サカナのタイプといえば水中とかどこか関係ないネット空間なら強力なポケモンもいるようだがリアルで育てるのは専門家じゃないと簡単じゃない

陸上だとピチピチはねるくらいしかできない奴多いでしょう？

水中戦系の大会だと良いのだが、どちらかというと陸上競技が多いトレーナーのポケモンバトルでは活かしにくいのだった

水中戦大会といえばカントー地方だとナシマトーナメントやふたごじま杯が勇名だろう

海中フィールドで戦う大会でトリプルバトル並みのマイナー競技だけド

公認大会だからRBP・リーグバトルポイントももらえるらしいな。

おれは海の専門家ではないが競技人口拡大のためいちぢき四天王にもランクインしてたカンナっていう有名トレーナーがポスターになって勧誘活動始めてから人気が上がったらしい

コイキングやつつけた後もサカナタイプにからまれてたりもあつたが勝ったナイト

はすっかり海の満喫したっぽいのでおれは出してたポケモンたちボールに戻すと昨日の不幸にもめげずクチバジムに再挑戦することとなった

ジムは午前中だからといってききのと何が変わった様子も無いゴミ箱ジム

攻略にゴミ箱がさごそとあつちこつち漁るとそのうち第一スイッチを発見

コレほちつとなするとボタン押したゴミ箱の十字の位置に第二のボタンがpop

ふたつめも当たりだとリーダーのへやにロック解除という仕掛け。

おさらいに確認したがこの方法にまちがいはないでしょうおれは誤解してない

それなのにまた今日もハズレばかり「正解が外れた事によつて運がキャリアオーパーに溜まってから次の正解は当る確立が大幅に上がっているはずなのに当たらないのはおかしい」俺は理論的にイカサマを指摘したがやはり運が悪いだけという返事しかないヒト睨みするといいたまれないのかおれから視線をはずした

このジムはもうだめかな中心人物でヌードメーカーが不在では持つわけもないが

ジムリーダーは開業中は奥でひきこもりらしいマジでかなぐり捨てンぞ？

目に見えない運命ポケモンがおれにまだジム攻略するなと囁いているとでも言いたいのかよ

そんな超常現象されとも困る運命ポケモンはゴースト&エスパータイプかも知れないな……

考え事しながらボタン探しているとピッキーン! 閃き発動 (期待)

「昼前だからはらへったから帰るけど」

おれは不敗に負けてないと言うことは証明 (了承要求)

あくまで空腹 (三大欲求)

運命は切り開くものという名台詞を知らないのかよ?

俺は力カツつと自転車ダツシユすると六番道路超えてヤマブキ・シテイにゲート入場いきおいそのまま超能力かいはつセンターに向かうと扉の横に立ちふさがってるサイキツカー気にせず自転車降りて中入ろうとすると「まだ準備中だよ!」と止めらるる「ナツメに用があるだよ」というと「おや君は……また呼ばれたのかな? ならいいよ、入って入って」と招かれた。

あの様子じゃまだ正式オープンしてなさそうな感じかもな

中に入ると三階にいるだろうナツメにじか談判しにいったところ、

かいだんのぼったトコにいた黄色カラーのひげポケモンとナツメがサイキツク・インファイト中だったパントマイムに見えない壁が見えそうになってる「大人しくなさい。すぐすむから」という声にふしゆるしゆるの鳴き声で気が逸れたのかナツメがこつち向くとひげポケモンはテレポートで逃げだしていた

「あらこんにちわ。ちようどいいところ」ときたのでこんにちわ返し「おまえ俺を超能

力開発する」と頼んだところ「その前にちよつと教えて頂戴」ときた

「私のフリーデインが『今更からだを撫でるような仲でもあるまい』って撫でせてくれないの。

どうしたらいいと思う?」

「フリーデインというぽけもんつかいのクラブ会員いないから知りません」

「あらそう。残念ね」

するとさつきひげポケモンが通路の影からこつち見てるのを発見。

ふしゆるふしゆる鳴きながらおれ見てるが隣のナツメになんかしたら酷いぞという
ガーディアンズの眼差しにみえる

「あいつがフリーデイン?」

「そうよ。ふじろーくん、こつち来なさい」

ナツメが手招きするとのしのし歩み寄ってくる。ひげポケモン

そしたらスプーン握るトコ向けられたサイコパワーでオートに持たされたうえに追加でスプーン曲がつて手が上下なのでこれがフリーデイン流の握手なのかもな

「別にフツに良く懐いてるようだが?」

「だから不思議なのよねえ」

じゃどんな風に撫でようとしてるか見せてもらうことにしたらナツメいきなりフー

デイン抱きついて濃厚なボディタッチ始めたビクツとしたフリーデインはテレポートで逃げ出した。

「ちよつと撫でただけなのにテレポートで逃げちゃうのよ」

「逃げ方が反撃じゃないから懐いてないポケモンにトレーナーのだいすき攻撃という様子じゃないな。見た感じイキナリすぎではないのか? だんかい踏んでないからエーフィの時みたいに逃げられてしまう」

二足歩行タイプにみえるのでイキナリのボディタッチじゃない握手からで良いという

ナツメは額にゆびあててテレパシーなのかまた戻ってきたフリーデインはおとなしく手が握られていた

「なんだ、こんなことでよかったのね。」

ありがとう。頼りになるわー。

また何かあつたらときのために電話番号交換しない?」

「別にいいけどそれよりおれのミラクルアイを開発することを要求」

おれがポケギアの番号教えるとナツメも教えてくれたのでお気に入り登録。

すると立ち話もなんだしとしよちよう室に招かれたのでそこで詳しい事情の説明

狙いは正解リーディング的な超能力がほしいここが開発センターと言うからには俺

に隠された潜在能力の潜在外しもできるはず

そしたらナツメは呆れが鬼なつてこう言った。

「……それは単純に、あなたの運が悪いだけなんじゃないの？」

「そんなことない大きな勘違い。むしろ俺は運が良いほうだぞ？」

ビング大会でも9位入賞したこともあるし、最近のだとナイトが封印されていたカイの化石も実力でゲット（リアル話）

俺の過去ログで高ラックを証明したが信用してないのか「ふーん。なら試してみましよう」とナツメは机の引き出しからランプ取り出すとエース一枚、2を三枚だけ手に持った。

で俺から見えないよう並び替えておれがエース当てるというマインド・シーカー・ゲームをしたところ二十回くらいしたうちの七回正解という結果に「じゃあ、次からトリックを使うわね」といってまた二十回くらいやったが今度はまったく当たらなかった。

「あなたの運が特別悪いってことはないみたいね。

じゃ、クチバジムのほうも調べてみましょうか」

ナツメはフリーデインをボールに戻すと俺の手握るんだがそしたらなんか意識が空を

とぶ……

気付いたらクチバ・シテイのポケセン前にワープしていた

これがリアルエスパーのレポートって奴か……(驚愕)

そのまま手え握られたままジムまで連行に進むことになり入場

「おーす。未来のチャンピオ……ん？」

げえっ! な、ナツメ・さん!?!」

「ちよつとマチスに会いに来たわ。入らせてもらおうね」

ナツメはジムをぐるりと見回すとおもむろに人差し指突き出すとカチツと音あつさ

り第一ロック解除。

もひとつゴミ箱に人差し指で第二ロック解除していた

エスパーのちからってすげー

俺は手繋がれたままそう思うしかなかった

そのまま奥のエリア行こうとするナツメだがジムトレーナーの1りが保護者の人がしかけ解除するのは規則的にやめてほしいらしくおれはゴミ箱の片隅で大人しく待つこととなった

別にナツメはおれの保護者じゃないんだが……このジムの不具合を調べに来てくれた超能力探偵というだけ

ちよつとしてからナツメと多分このジムのリーダーだろうマチスってゴツイひと出

てきたそのひとジムトレーナーの1りに歩み寄り、色々言うとうと自白に犯人らしい

おれが理解不能状態のまま展開は進むマチスはピカチュウの進化系ライチュウを繰り出すのだが、ものすごい電気パワーでゴミ箱はちばちするとゴミ箱のひとつからロトムが飛び出してきた

こつちに歩み寄ってきたナツメはいった

「最近、かどうかはともかく、あのポケモンと会ったことはあるかしら？」

「あるぞ。ヤマブキで洗濯物のときに出会った」

「そう。なにか酷いことした？」

「してない」

「そのときのことを思い出してみて」

おれは言われるまま過去ログだがもし仮にひどいことしたと言えることがあるとするなら後ろから注意に驚かした結果となったことくらいか「それであなたを困らせようとしてたのかもね」という

どういうことかと聞くとあのロトムは放浪のロトムでクチバにきたとき電気屋に捕まったらしいメンテに手伝わせたならそのままジムのロックシステムにとりついて離れなくなっただと

「それどこ情報？ いつの間にか知ったのか意味不明」

「テレパシーで読んだのよ」

マチスのライチュウは凄まじい雷属性のパワーでロトム懲らしめてたもちぬしはカントーでは激レアなロトムを虐めないでと嘆いていたがマチスからしつけはちゃんとしろという見事なカウンターで返されていた

その後「おまえはクビだ！」という怒鳴り声にでんきやのオヤジは泣きながらひん死のロトムボールに戻して出て行つたのだった

せこいトレーナーをリーダーは誘うな相手にはだめジムのランクが下がつてしまふ

まあ今回のことでその問題は回避したジムリーダーのマチスは言った。

「ヘーイ！ アンラッキーボーイ！ うちのジムトレーナーがソーリーネ！」

もうマイフェイバリットポケモンがトラブル解決しタカラ問題ナツシン！

でもロック機能はシステムエラーしてしまったネ！

リペアするまでノーロックじやユーのラックは試せません！

それでもジムはいつでもウエルカム！ ミーはチャレンジャー待ってるヨ！」

と謝ってきた許してやろう俺は優しいからなこちも「Hai！」と返事したけど、おひるごはんまでハラペコだから対戦はメシ食つてからだな、と思つてると「じゃあ行きましようか」とナツメがまた手握つてきてクチバの飯屋まで連行された

そこシーフードサラダっていう海の野菜盛りがメインらしくドレッシングと味の融合が美味かったナツメは「ともだちとご飯食べるなんて久しぶりだわー」というおれナツメと友達になってたのか・まあ電話番号交換したし友達かもな、声のトーンも仕事モードじゃなくなってた

気になってたので「ポケモン懐いてるけど仲良くないってどういう育て方したの?」
という長い話が始まった

「なにげに スプーンを なげたら まがつて いらい……」

エスパー しょうじよ なの!

なーんて感じでね。それまで私って、本当に普通の小学三年生だったのだけれど、サイコパワーのことがテレビで取り上げられて一躍有名人になっちゃったのよねー。

ユンゲラーとのスプーン曲げ対決とか、ルージュラとのヨガのポーズ対決とか、エーフィとのみらいよち対決とか、当時は色々やったけど、いまの私の手持ちのポケモンたちって、テレビ番組の共演者だったってこと。

それで10歳のときにバトル初心者エスパー少女VS熟練のベテラン格闘ジムリーダーなんていう企画が立ち上がって、共演者達は私の手持ちって扱いでレンタルさせてもらって……

あんまりにもポコポコに圧勝しちゃったせいなのか『道場破りに敗れたのならば認め

ざるを得まい! 今日からヤマブキのジムリーダーはオヌシだ!」って名指しされたのよ。

それで戦うのは好きじゃないのにホントにジムリーダーになっちゃって、みんなが私のポケモンとしてプレゼントされてから長い付き合いだけど、仲間ではあっても仲良しじゃないってというのは、それが理由かな」

手持ちが実はテレビ番組の対戦相手ポケモンだったという驚きの事実だった

我が家ではテレビはバラエティはノーでナツシングだから初耳情報

家でチャンネルつてアニメかニュースかリーグ戦か、映画のビデオだからな

それならばや同レベル体の実力者として一定の尊敬はあってもナデナデの仲じゃないのも分かる

「なにげにそのときの対戦映像のせいでクールなイメージ根付いちやったしね」

「確かにエーフィへのナデナデシーン見たら誰もクールとは思わないでしょう」

「でしょ? 今回の映画でも……あっ、ネタバレ厳禁だから今のなし」

とひみつと約束言われたから受け入れてやったその後明るく楽しく会話しながら食事だがナツメは昼飯代奢ってくれたうえに「新たな力を望まずとも、あなたはもう超能力に目覚めているはず。その力を信じなさい」というアドバイスを残してレポートしていった。

ナツメのいう超能力はポケモンへの愛情をパワーに変換だったかな・言われるまでもない情報

おれは3匹のボール机に並べて「今日も勝ちに行くぞ」と声かけしてからセットしなおしサラダ屋さんを出てクチバジムリーダーに挑戦行くのだった

2.2. イッシュ語で指示出すのはズルイ意味がわからない

前から気になってたことを一つ

クチバジムというところはゴミ箱だらけで戦いにくいわけだが

これに対して、ジムトレーナーは慣れたものだった

しかしこっちは慣れてないのでヒキョウのかたちになる

たぶん戦ってみて汚かったと感想を言ってる奴はたくさんいるはず

これはだれもが思うようにあくひゆうが大量に出回ってると思っただがそうでもない
不思議

果たしてジムリーダー戦の戦場がどうなってるかと思うと気がひゅんひゅんいく

疑いに電気バリアーにふさがれてた廊下の通路の順路の奥のびた道さきに進んでね
り歩くと

公式戦でしぐさま使えそうな、でも電気タイプ優遇っぽいバトルコートだった（予想
外）

マチスはおくに陣取ってで立ちほだかっていた

「ウエルカム トウ クチバジム！」

さつそく チャレンジに きましたね ボーイ！」

というマチスの肩になんでだか乗ってるピカチュウの姿は
それほど似合っていると全く思わなかったな・

だがこいつはピカチュウ族が好きだ絶対に

おれが一目にわかるくらいなんだから間違いない（断言）

ピカチュウはマチスに負け劣らずの鋭い目線にヒト睨みしてくる例えばだがポケモンだいきくらぶにあまえていられるようなプリチー路線じゃないとつくんに鍛えたバトルタイプのけわしいまなざしであった

するとマチスはうおっほん咳払いして喋り始めた

「ヘーイ！ プア リトル キッド！」

ユーの ハンパな パワーでは

せんじょうじゃ いき のこれないネ

ミーは せんそうで エレクトリック ポケモン

つかって いき のびたネ！」

「リアルファイトで雷属性使おうと足プルプル震えさせて倒れるということか」

「イグザクトリー！」

みんな ビリビリ シビレて うごけナイイ!

ユーも おなじ みち たどる ちがいがい ナーイ!

「ほう、試してみるか? 俺が戦闘をシミュレーションしてみたところ

100%の確率でナイトが勝つと勝率が出たんだがな

ピカチュウは防御力が低からナイトのねつとうブレスには耐えられんよ」

「バトルはシミュレーションのようにはいかないネ!」

さつそくクチバジムリーダー、マチスが勝負を挑んできた!

「行け! ナイト!」「レッツゴー! ピカチュウ!」

俺は予告の宣言どおりナイト繰り出してやった

今日はゴキゲンでコンディション絶好調みたいだから

でんきタイプにも互角以上の動きで勝てるはず

相手は肩にいたピカチュウの様子ジャンプでバトルコートに躍り出ると軽快なステップで距離を詰めてきた「クイックアタック!」するとライトニングスピードに加速したタツクルがナイトを襲う

いきおいつけてきても石のように硬いかいからでくいとめてしまうナイトの防御力はずごい「からみつけ!」おれは自慢のスピード捕らえてやろうとさせたら「N u z z l e !」とワケワカランこといわれた

そしたらしよくしゅ届きにくい貝殻ぶんに抱きついてほっぺすりすりしだした〜
ピカチュウ

イツシユ語で指示出すのはズルイ意味がわからない

わかるのはピカチュウのほっぺはでんきぶくろなのでナイトはびりびり痺れてしま
うことだけ届きかけてたしよくしゅがビクつとして止まった「アイアンテール！」マチ
スの攻撃的な指示はつづく

ピカチュウがバツと空中にジャンプするとなんか回転しながらしゅ叩きつけよう
としてきた「みずでつぼうう！」ナイトはにゆるんと上向いてみずのプレス

ピカチュウは体重が軽いのでねつとうよりいきよいがよく遠くまで届く水属性の
てつぼうに押されて結果、強力そうなしゅ攻撃は失敗していた。

それどころかバランスが崩して頭から落ちる始末ピカピカ痛がつて鳴いてた

「アーハーン。このジムにアクアタイプで挑むとはいいい度胸ネ」

「別に俺は度胸をアツピルなどしてはいない。ナイト！ 続けていくぞ！」

おれはねつとうプレス指示すると出してるプレスの温度がみるみるあがつていくす
ごく湯気がでるくらい！

ピカチュウはステツプで回避したが墓を掘ったな、みずびたしなってるコートに滑つ
て転んだところをナイトは見逃さなかった

キツチリねっとう当てにいくとあちやーと鳴きだすピカチュウに「ノンエスケープ！
フアイト！ スパークで攻めなサーイ！」とマクスが指示。そしたらピカチュウ開き
直って結構攻撃的にくるんだけど

でんきが伝わりやすい水はあちこち散らばったので効果はいまひとつのようだな。
もちろん水源になったナイトにも伝わってしまうんだがビリビリのまひにしびれるの
は気合で克服したのかねっとう出すのやめなかつた（ガッツ）

そつから意地の張り合いだったのが流石にでんきとみずの相性、電気エネルギーに正面
からでは勝ちにくい現実についてに限界なのかナイトはねっとうできなくなつて鳴き声
あげて倒れた

「ナイト、よく頑張った！」俺は健闘したナイトをボールに戻して労つてやった

ピカチュウはというと勝った余韻にやけどで痛いなのか、一息ついた後ダウンしてた
「ピカチュウー！ ナイスフアイト！」マクスもピカチュウねぎらつてボール戻してた

するとマクスはアゴに手で考える者のポーズ「リアリイにいい度胸ネ。フーム……ソ
ウ……タイムアウトねー」悩ましいのかジムリーダーなのに先に長考のタイムとつてた
（意外）

おれはポケモン繰り出す前なので出そうとしたりアメス出さずに待機

そしたらブツブツ眩いたり三回連続で見つめてきたりだが居心地が悪いとか、そうい

うことはちつとも思わず、むしろジムリーダーに予想以上の強さにプレッシャーあたえているかと思うと気分がよい（カタルシス）

どうやら頭の整理してゐるみたいだがナイトが根こそぎ勢い持っていたのでなにもゆるぎない強さを証明

「オーケー！ ユーに必要なレクチャーは決まったネー」といつてボールを手に取った。再会やるかよ？

こっちのが先にダウンしてたと思うからおれからポケモン繰り出す礼儀のルールにリアメス繰り出すとボールからちやんと出てくる前にマチスも投げている

「エレクトロロード！ 『テストしてあげなサーイー！』」

マチスが投げたボールから出てきたのはマルマインイレブンのアニメで知名度全国区になったと噂に名高いマルマインであった。

でかい（驚き）

アニメだとだいぶちつきい足元サイズなのにリアメスよりデカイどうなってる？

それともデフォルメなしがこのサイズなのかよ？

するとリアメスはすぐキックしたそうに鳴き声あげたりアルでマルマイン蹴れる興奮にうち震えているらしい

だがダメだそいつはばくはつする「待て！」という声にリアメスは不満げだが大人し

くだった

するとマルマインは悠々とひかりのかべ張ってたがそんな挑発に軽々と乗っていく馬鹿には確実な死が待っているでしょう

ジムリーダーともあるうが大事に育てた自慢のポケモンばかりはつさせるワケないっておもって近づかせたらボカンのつもりだろ？

ふつうならそんなことしないでだろうがポケモンは色んなことできるから色んな人間がなんかしてきてもおかしくないでしょう。

マルマインはちようはつ的にニヤリ笑ってあまり動かない
リアメスはその顔蹴りたさそうにしてるがイライラしだしたがダメ

しばらくチャンスうかがっている。「カモンボーイ！ かかってきなサーイ！」とマチスまでもが挑発行為しだした最悪だな……負けが恐ろしくて微塵にばくはつで真面目にやってる奴を笑うつもりかよ

「そんなオクテじゃこの先生きのこれないネー！」

「うるさいよ馬鹿。ヨミヨミですよ？ お前の動きは」

するとマチスはなに狙いか当ててみると聞いてくるのでばくはつ狙いだと答えると「オーケー！ テストは合格ネー！」といいつつマルマイン引つ込めた。

おいイ？ おまえそれでいいのか？

俺の真の狙いはでんきタイプなのにしびれを切らしたでんき攻撃よんでの大ダメー
ジコンボだったんだがな・・するとマチスは「ファーストチャレンジでテストに合格し
たのはユーが始めてね!」という

どういうことかと聞くとマチスのマルメインはエキスプロージョンなる超強力なほ
ぼ一撃必殺わざを覚えていているらしい

まあ分かってたが明瞭に明白だよな。

それでも引つかかかってしまう者もいるのがポケモンバトル。

あのマルメインはひかりのかべの他にリフレクター展開も可能らしく、防御的にされ
ていかついたトレーナーが自慢のぼけもんに近接高火力攻撃させたところをみちずれ
にだいたくはつする手はずだったらしい

いきなりだいたくはつされたら途惑って動揺なのでそこからメンタル建て直しどう
するかみるそれがマチスのいうテストの意味だ

仮にだがおれがマルメインがぼくはつすること知らなくてそれされたらマジギレし
てただつたろうな・・まだ体できあがってないのにリアオスに怒りのパワー全開にして
角ドリルさせたりした結果後遺症の末路にさせたかも知らないリアルに想像して恐怖
してしまう

助かったよサンキューマルメインイレブン（名作アニメ）

「ウォーターポケモンでエレクトリックポケモンにチャレンジする度胸！」

エクスポロージョンを知り、トラップをアヴォイドする判断力！

イマジネーションしたビジョンを実行する行動力！

ユーの、そしてユーのポケモンのメンタルのつよさはトウルース！

オレンジバッジやるヨ！」

とマチスはジムリーダーのいさぎよさ見せてきたがまだ見てないものもあるんだが？

俺はさつきロトム懲らしめてたライチュウとのタイマン希望に頼んだがアイツはエースで上級者向けの切り札だからダメらしい

グリーンなら相手してくれたのにな、だけどトラップに引かかった馬鹿相手に繰り出すつもりだったらしい別のライチュウならこのタイマンの延長だから良いらしい

マチスはマルメイン作戦は失敗したということにして残りライチュウだけという扱いに对战のリストार्टだがエースでもないにも関わらずかなり強かった

ふまんのキックをライチュウにぶつけてたりアメスはパワフルなでんきわざで最終的にやられてしまったんだが次に出したりアオスのふいうちニドキックの前にライチュウは倒された

その後マチスはオレンジバッジくれたおまけに『10万ボルトのわざマシン』までも

をくれた

10万ボルトといえぱリアメスってでんげきにも慣れてきてるしカラダも成長なので上級技にパワーアップさしてもいいころだべな

そいえばヤマブキ・シテイでもらったカウンターのわざマシン使ってないし、それを言うならリアオスも角わざの新技に目覚めさせてもいいのかも

残念ながらナイトの内部器官には詳しくないのでなにを教えてやれることもないがクチバわんの海は気にいつてるみたいなので遊べる場所は確保

考えれば考えるほどクチバという場所はおれの手持ちに都合が良い

意気高揚の気分でポケセン戻ったおれは計画のレポートしっかり書き残すとしばらくのあいだクチバでアレコレすることに決めた

23. おめでとう! オムナイトはゴルナイトに進化した! (勘違い)

おれは並大抵じゃない速度でバッチ集めてる自他共に認める熟練者なのだが

あとは寝るだけとなった夜の時間プルールとポケギアに電話かかってきたんで誰かと思つたらねーちゃんが急にポケモン捕まえてくれと言つてきた

どうやらかーちゃんから俺が旅しだしたの聞いたらしく便利使いしようという魂胆なのはミエミエで、どうせ研究目当てだなと踏んでいたんだがどうやらその通りみたいで学校の携帯獣学関係で何を思ったかダグトリオいるらしい

そういうの嫌いだから俺は「いや、そういうので頼んでほしくないから」といったら「ピカチュウは捕まえてくれるって言ったのにダグトリオは嫌なんだ?」という

「アレはねーちゃんが好きごく欲しそうにしてたから言つただけ。ちよつとわずかに言いが多様だっただけで揚げ足取りかよ・・・」

「あんたサンダースとか、ああいうトゲトゲしたポケモン好きでしょ? イーブイフリースクのおっさんがつれてるサンダースのことやたら気にいつてたし」

なんだ急に話題変換してきた〜姉

それとイーブイマニアの人をおっさん呼ばわりしないように

あのひとは繊細なのでおっさん呼ばわりはとても心が苦しいらしい（要注意）

「事実だがいまの話題に関係ないでしょう？」

「色々あつて、いまこっちにあんた好みそうなポケモンがいるのよ。

バツジ集めるなら色んなポケモンいたほうがいいでしょ？」

交換してあげるから二週間以内にダグトリオ捕まえときなさいよ」

ねーちゃんはいいたいことだけ言つて電話切つた唐突すぎるだろ・・

おれに頼むくらいならクラウドとエアリスおともに自分で捕まえていいのにねーちゃんという権力の強権なのでやれやれだべな、仕方がないので捕まえてやることとなつた。

それと俺は俺はねーちゃんオススメのポケモン欲しい訳じゃないから勘違いしないように

ちなみにクラウドというのはねーちゃんのニドリーノでエアリスというのがねーちゃんのニドクイン。

こいつらにも久しぶりに会いたいとも思うチャチャツつと捕まえてタママシ・シテイに行つてやろうと思つたがいま夜だから寝る時間だからやるのは明日からにしてタコ部屋戻つて寝た

次の日から予定してた計画は早くも破じようですね、と崩したくない両対応におれはまだ13日の余裕を思いじゅんばんの最後尾にしてやった

朝にやること済まして計画のスタートだが昨日は何人か使いたがって列だったから触らなかつたこうきようパソコン使用

てもちポケモンみんな預けるとジムリーダーからもらつたわがマシンを起動にリアオス・リアメスの2ひきにカウンターを覚えさせ、さらにリアメスには10万ボルトを覚えさせてやった。

がんせき封じのわがマシンもまだ覚えないだろうが試しに起動したらなんとナイトが覚えられるという予想外の事実があつたので覚えさせることとなつた

ねつとうのとき試しとけばよかつたかな、次から気をつける手はず

今日はこのへんのわざの練習でつぶれるかな・

すぐにボックスからぜいいん引き出し

さつそくだが6番道路を練り歩く

まずはリアメスの10万ボルトから。

最初の犠牲者となつたのはピジョンであつたポツポ相手にしてるトレーナーもいたがピジョンに手出しするやつあまりいなかつたからだが「リアメス! 10万ボルト!」と指示するでんげきハア! よりつおよいパワーのイナズマ放出したピジョンは

倒された

するといままでと違った感触なのかコテンと首かしげてたンリアメス

しかしその後何回か使わせるとすぐ慣れてた「ほう。経験が生きたな」と褒めるとYろこびの鳴き声

そのまま電気パワーのポイントが切れるまで練習させ次はリアオスの番なのだが

見事なカウンターというのは指示のタイミングもキモで一步間違えるとカウンター失敗で大ダメージを受ける上級者むけのわざ

しかしリアオスにはオヤジのニドキングという芸達者な先達の先輩がいた

それはおれにもいえることだがな

常に偶然通りかかってはたいあたりとか、ひっさつのまえばで齧りついてくるコラツタ相手に何回も失敗しながら繰り返し返すとだんだんタイミングあつてきて、お昼になるころには三回に一回は成功するようになる超パワー！

素晴らしいニドリーノだすばらしい（絶賛）

ニドラン族界のイチローですねと呼ばれる日も近い（成長）

リアオスにはカウンター慣れたら更につの使った大技教えてやるつもりなので楽しみにしていると良い。

今日もいい天気だから皆とおそとでランチタイム。

ぜいいんをボールから出してやりポケモンフード振舞っていると途中でいちぶ品切れなつたまた買い足さないと・・と思いつつもいまある分はぜんぶあげてるとおいしいうな匂いに野生のポケモンが何びきかすりよつてきた

しかしニラミを効かせたりアオスの眼光にたじろぐ。

ここは普段はお前らのナワバリかもだが今はリアオス支配の環境だべな、すこしは実力をわきまえるべき(警告)

ご馳走を前にしてうらやましそうなポケモンだがやせいの掟でいうと食べられないものを前にいるストレスらしい諦めて去つていった

その後ナデナデしたりと可愛がったのちクチバ・シテイに戻り、フレンドリイ・シヨツプでフード買い足したり多めにボール買つてると金欠の気配が漂つていた

パシリにしてきたねーちゃんに捕獲代行料金を請求することが決定した

ポケセンにもよつてお昼休みさせ、午後杉からはオムナイトの新技の岩石ふうじを試してもらふこととなつた

どうやらこのわざは岩属性の貝殻からパワー引き出して対空に発射、この世界に満ち溢れる引力という不思議なパワーに地面へ引き寄せられて落ちてくる、というものらしい岩石はポケモンのパワーの産物なのでそのうちスーッと消えていく・・タケシのイワーク使つてたのしかかるタイプののがんせきふうじとは違うやりかたであつた。

対空攻撃を地上タイプポケモンに当てるのは難しいんだろな、なかなか当てられてなかったので使いどころが違うのかもしれない

正面にはブレス、上空には岩石の対空という遠距離攻撃が柔術ということになるから飛んでるポケモンに当てる練習したほうがいいかも

そらをとぶポケモンの回避力はすさまじいから難しいかもだがナイトならきつと使いこなしてくれるでしょうさつきから入りたそうにしていた道路に突出してきてる湾岸に行かせてやった

次はリアメスの午後の部だが10万ポルトうちきつた後のカウンター練習これがまたむつかしく、リアオスとはすばやさが違うのでどうもかみ合いにくい。

もちろんトレーナーのほうから合わせてやるのが一般的に言って常識なので

リアメスがカウンターしやすいタイミングを探っていく・・

もちろん簡単ではないのだがちゃんとリアメスのことを注意深く見守ってればだんだんベストなのがわかっていくことでしょう(当然)

この積み重ねの結果ばたんきゅーとなったコラッタその他が量産されていくが倒れたポケモンたちは光のつぶになって消えていくこれは生存本能にミニマムな回復モードに入ったということ。

ひん死に絶命しそうになったらすぐちゅちゅなくなつて巣に帰るとするのがポケモ

ン共通のせいでボールに入る理屈の原理らしいが大学レベルの話だから細かいところはぜんえもんわからない

リアメスが疲れてきたらリアオスに交代でやはりカウンターだがこの2ひきの素早さのズレに俺がカンペキに合わせられるようになったら実践のバトルで使えるかもな今はまだやめてにしたほうが賢明(賢者)

しばらくそうやって訓練に練習

太陽みてそろそろポケセン戻って休憩かと思ひ、ナイトをボールに戻そうとわんがん見たときその瞬間は見逃してしまったみたいだがナイトがいつのまにやら進化していった。

やはり予想通りといったところかナイトから水色の胴体生えてて、今まで口はそう簡単に見せてなかったが黄色いクチバシが伸びていた手には水かきでアタマの貝殻とか、がんばって引つ張ってた

今まであったしよくしゅはというとクチバシの上の頭っぽい部分にぐるぐる絡み付いている

おめでとう! オムナイトはゴルナイトに進化した!

・・おいイ?

ゴルダック部分がオムナイト部分をひっしに引き剥がそうとしてるようにも見える

んだが？

そしたらナイトはからみつくパワーが限界なのかゴルダックに引き剥がされてポイツと道路に投げられた俺はナイトをボールに戻してやった。

ナイトを投げ捨てたゴルダックはというとわんがんの中に沈んでいく・・・どうやら今のはナイトの進化じゃなかったみたい（残念）

ポケモンがいつどうやって進化なのかは未解明なヤツラが数多い

例をあげるとゴリーキーがとてつもない修行の末カイリキーというかくとう&多腕タイプに進化するかと思われていたが、実は通信交換するとそれだけで簡単に進化するという現象が学会で発表されたというのをねーちゃんから聞いたことある

いままで進化しないと思ってたのが進化前いたり更なる進化がいたりだが、今みたいな合体タイプの進化としか思えないやつもいるというその一つの名前は覚えてないがな

だから学者ハダのやつらがいろんな方向性からポケモン調べてるんだな、それだけポケモンという生態が不思議だということ

現在判明してるポケモンのしゆるいは何百匹いるか覚えてないがかなりの数

いちぢきカントー地方にせいそくするポケモンは150匹くらいという発表ととも今では高額ながら一般販売もされてるポケモン図鑑シリーズの第一弾が出たときは、わりとすぐ訂正のバージョンアップ連発だったという

そのなかにはまだ進化がどうなってるかわからないやつもいるでしょう俺はニドラ
ン族の進化方法知ってるからそれで十分だけどナイトはからだの成長じゃないキミヨ
ウの進化するかも知らない

気になったのでマチスに相談したところ、

ジムリーダー経由で電話にタケシに質問聞いてくれた。

どうやら特別に変わったことはする必要はなく

からだを鍛えてればスクスク成長に進化するという

やはり頼るべきはやはりジムリーダーだな・

今回のことでそれが良くわかったよ〜ジムリーダー感謝

ともあれこんな感じの日程でカウンター・10万ボルト・がんせき封じの練習を四日
くらいかな・一日は本部に寄って戯れていたがやりきった

だががんせきふうじの練習でリアオスの角系のわざ教えるタイミングは逸してし
まったがな

約束の残り日数は9日で良い

おれはいよいよダグトリオもせいそくしていると情報でまわってるデイグダの穴ダ
ンジョンに挑戦しに行ったところ中入ってすぐのところに忍者のシハイがいた「あつ」
「あつ」

おれはそばやくトレーナー手帳見せ付けた「バッチ4つだ。もうすぐ追いつく」というとシヘイは心が醜く顔にまででてきた苦々しい表情

「……へ、へー。

け、けつこうやるじゃねーか。

じゃあ、オレは行くぜ」

と目と目が合ってるのに背中見せようとしてきたそれがヒキョウ者の解かよ

おれは「待てよ。どんだけ追いついてきたか試してやるつもりはないのか」というとしどろもどろ情けないな……それでもポケモントレーナーか？

「おまえ集めはじめて何年でバッチ6個なワケ？」

こないだ調子乗って実力さとか言ってた気がするけど大した実力差じゃなさそうだな・・・」

と挑発してやったが振り向かない「かかってこいよバトル前口上だぞコノヤロウ」更なる追い討ちの追加攻撃したらようやく足が止まった「うるせえな。オレはとつくん中なんだ。また今度にしてくれ」とだけ言ったそのまま逃げていった

汚いな忍者……流石忍者きたない

だがとつくん中ということは心折れて諦めたということとはなさそうだな
逃げられてしまったのではどれだけ追いついたか試すことはできないが

いつかボコボコにしてやる心積もりおまえ覚えてろよ?.

追いかけるつもりなくても進行方向が同じなのでおれも地下洞窟に入ったがもう見えないうちまで進んでいったようだった

ここ整備された順路なら電灯が点在に光ってトキワの森のはずれに繋がってるがライトのところから外れる封印されたワキ道に入ってしまうとデイグダ族がすきかって掘り進めたり埋めたりしたりの入るたび地形変わってるかもと恐れられるダンジョンにながってる(立入禁止)

ブロンテ家の伝承によると最深部にはかつてカントー地方を支配してたという伝説のドラゴンのうちの一匹が長い眠っているらしい

なんでだか社会の授業の歴史ヴァナしには出てこないしポケモン図鑑にも登録してもらえなかったみたいだがな(意味不明)

正直いつ昔からおれがいつか攻略してやると思ってるが流石に準備もなしに出られそうになくなる迷宮をさまようつもりはない

まさかとは思うが入ってきた道がとっぜん埋め立てられてしまったのは穴抜けのヒモなんか何の役にもたないしな

最低でもレポートに脱出手段確保するのは必須でしょう明かりなんかからフラスシユも必須その他必要だろうモノは数多いと予想

ムチャするつもりはないのでおれはおとなしくどこからともなくPOPしてくる
デイグダ族の地面こうげきサツと避ける訓練かねてダグトリオ捕獲のためまずはリア
オス繰り出すのだった

24. リアルに目撃したという意味があった（有意）

ところでデイグダというぽけもんは

おれの地元のトキワとか隣町のマサラの農家のひとにもってる人多い

マサラタウンとトキワ・シテイの間はどうろのわきに畑エリアとかだが

むくむくとじめん耕すジョブのおてつだいやってた偉いやつだ

つまりデイグダは職人タイプということなるな。

職人タイプということはバトルタイプではないはずだがほかの俺の知ってるポケモンと比べて生産という社会的地位とステータスがあるから並大抵じゃない

そいつらがグループ結成に集まったらダグトリオというポケモンだべな。バトルするとこ見る機会はなかったが都会とかのアスファイルトに不遇そうなやつらなのだった

でそいつらの一大生息地、デイグダの穴でさつそくエンカウントした野良バトル、

まずは様子見ということでリアオスにはガード行動優先させてるとひっかくわぎがきた。

どうやってひっかぎツメ出したって証拠だよ？

だがガードしたリアオスの体表の表面にツメアト残ったから間違いない（高速）
更に鳴き声あげての砂かけにドロかけと色々してきた

そういつた攻撃は最初からガードの心でいさせた結果、本能的に長寿タイプなニドラン族にはほとんどノーダメージに近い状態

しかしやはり限りなく完全無敵に近いまもりの構えを維持続けるのはむずかしいんだろうな、じわじわと削られていた

理想は当たらなければ意味がないので避けてしまうことだが

トレーナーのおれこそが後ろから観察に見切るのが仕事

しばらく様子見に徹してその後「そろそろかな・・」とスキをみて攻撃させると倒すだけならリアオスならいとうビームでやっつけられるようだった

一匹倒してぐにやぐにやの一本道ウロウロするとまた次のディグダ

れいとうパワー使いすぎるとだいたいじな時にエネルギー切れかもだから角物理攻撃も活用させていつたでえくるディグダもピンキリなんだろうな、たまにだが一発だけなら耐えるやついた

ツメ攻撃がきそうだな、と読んだらカウンターで倍返しにも挑戦

こうやってディグダのナワバリでディグダたくさん倒せばボス格のダグトリオもでてござるを得ないだろう

トキワの森でもキャタピー倒しまくってるとボス格のバタフリーがでてきて
ちやんとひこうタイプの怖さ分かってなかったあのときは大変な目にあった

あいつらパタパタしてるだけに見えるのに実は攻撃だからな・粉が見切れるまで辛
い戦いだっただけ……おつといまは、デイグダに集中

「よし、一旦戻れリアオス。行けリアメス」

ずっと出ずっぱりだと疲れてしまうのでこうたいでバトルさせてやるリアメスには
まず覚えたての10万ボルトを一発打たせてみた（検証）

しかし本家でんきポケモンでも限りなく無意味に近いという話なのに効くわけがな
いのだがおれ自身がその意味がないしゆんかんをリアルに目撃したという意味があっ
た（有意）

するとデイグダは鳴きながら上下ガタガタ揺れだしたと同時に地面ガタガタ揺れだ
す

ついにじめんわざきたか「飛べっ！」指示に合わせてジャンプしたりアメスは

しかしガタガタ揺れが収まるまで宙にいられなかったみたいで

着地すると内臓シエクで気分悪そうになってる

揺れは着地後少ししたら収まったので一息ついて落ち着いた直後

みだれひっかきアンドどくずきの、れんけつの強コンボさせてやっつけてやった。

地面こうげきってジャンプ力で完全回避は不可能なのかよ？

いやそんなことないハズ（希望）

ここは地下だから最大ジャンプができなかったというだけだろ？

天井って俺の身長の二倍ちよつとくらいありそうだケドきつと『ほんきだせ』と指示すればもつと高く跳べると思うし

まあ本気を出すということは反動ダメージが返ってくるかもくらいの全力全壊ということだからマルマインの自爆技ほどではないがオススメしない

おれは『ほんきだせ』の指示にはどちかという大反対だな

リアメスはいまの一戦だけで一旦引つ込めると次はナイトの番

あらたにpopにわいて出てきたデイグダに速攻でナイトのねつとうプレスさせたら結構有効らしく一息でKOの様子

どうやらデイグダはプレスとかビーム属性に弱いのかもかもしれない（観察結果）

何戦かしたうちの最後で一足はやく穴掘られてしまふと避けられてしまい、更に下からズドンされるとこれが中々強烈みたいナイトの防御りよくでも痛そうだったが耐えられる範囲らしいおかえしのねつとうプレスで倒していった

「まだ行けるはもう危ない」という名台詞はあまりにも有名。

おれはもうちよつと奥に進めるかもなと思つた段階で引き返してやった（英断）

こうして一日に午前中、お昼すぎ、夕方前までの三回アタックにチャレンジおさえとくことでムチャより充実した探索生活が認可されたかにみえたが初日にダグトリオは出なかった

そうやって探索のレポートの証拠のログを確保した翌日

あさのデイグダのあなにアタックしにいったらまたシヘイがいた

「おいイ? また会ったのにまた逃げるのか忍者は逃げるジョブなのか?」

「うっせーな。やーつと修行の意味が、わかりかけてきたんだ、お前の相手してるヒマはねえ」

とまたしても逃げ腰だった今回は目エ伏せてこつちすら見てないので

目と目が合っていないということだから対戦する気持ちともノーでナツシングということ

つーかこいつクチバ・シテイのポケセンに居なかったなワザワザべつで泊まってるのか?

理解不能状態なのだが問いただす前に行ってしまったのでミステリーだった仕方がないのでそのまま俺も地下洞窟にはいる。

すると最初に繰り出したナイトのブレスの調子おかしい

なんでだかブレスが濁ったドロのようになってしまう

ヤバイ病気かと思っておれはすぐさま探索中止、

ポケセンでヒールマッシン利用じゃないちゃんと言察してもらおうが異常はないとい
う

別ルートで岩タイプの専門家のタケシからもたらされた情報はこうだった

『それはマッドショットというわざだよ

オムナイトの体内に秘めたげんしのちからの一部が発現したもの、なんて推察もされてるね。

僕は学者が本業ってわけじゃないからその手の考察は専門外だけど……これだけは
言えるよ

アイアンくんのオムナイトは順調に成長してることさ』

リアルに見たわけじゃないのにこれだけの意見出せるのはすごい。

俺の中でタケシのリーダーランクが上昇した瞬間であった

新技というのであればビル必要は全くないが

ねんのため地上の6番どうろでコラツタとかに試し打ちしたところ

ドロのプレスはネットネットしてて敵の動きを鈍くするという追加効果あるのがわかっ
た

しかしポツポとか鳥タイプには直感でばさばさと羽ばたき簡単に避けられてしまう

その後浮いたところをがんせきふうじで倒したがオムナイト族というのは実は多彩だな、

色んなタイプのわざ使えてしまう覚えたいじやない覚えてしまうものがナイト

そしたら急に腰のボールベルトで暴れてきた〜ボール内リアメス

なんだと思つて振り向くと、ちよつと離れてる先にくさむらに、ながねぎ持った鳥ポケモンのカモネギの姿

アレ『ホウエンわざわざい浪漫るろうにアブソル』で出てきた突き攻撃の達人ポケモンだべ？

この辺じやレアで見かけないハズなんだがな・

どうやら俺より年下トレーナーの手持ちらしく

やせいのポケモンにネギっぽいブレードでズバズバしていた

リアメスはあのカモネギとすぐく対戦したがってる様子

クチバ来てから対戦したことにいトレーナーだべな、

目と目があったので早速挑戦おれはそいつに歩み寄ると

「トレーナーは目と目が合ったらポケモンバトル！」と言うと

対戦始めてなのか「よろしくお願いします」ときた

「よし、行け！ リアメス！」おれがボール繰り出すとそいつはカモネギに「おしょう！

かまいたちだ！」と腰ダメにながねぎ構えさせた

前回マルマイン相手にがまんにくらえるしてたのはフラストレーションだったでしょう俺は「前回あきらめさせたし今回は好きにして良いぞ」というとリアメスはダツシユ速度落ちるというのに二本足と尻尾で立ち上がりどくづきの構え。

その後ほてほて走りだしたタイミングでかまいたちの力を溜めた強エアカタターがきた

リアメスはジャンプしてサツと避けての空中突き攻撃したかったみたいだが前足の踏ん張りがいいからだろうな、後ろ足だけで跳ぼうとしたらズベツと転んだうえ飛燕のかまいたちにも当たって散々の結果だった

こんなはずじゃなかったみたいなき声があつたまだ動けそうだが俺はリアメス引つ込てやつた

今はまだカンペキじゃないがああやって積極的に二本足したがってるといふことは進化後の意識なのでしよう将来を見据えて賢いという証明になる(慰め)

「よしよし、やるならちゃんと練習しような。行くぞ！ リアオス！」

おれはリアメスあやしなながらもつづけてリアオス繰り出すと

あまりやる気がないのか前足で顔とかポリポリしてた

「いいぞおししよう！ すいぞー！ かっこいいぞー！」

年下トレーナーはカモネギを褒めたたえると自慢げだったな・俺はリアオスにカウ
ンターさせる気で待っていると「よーし！ 次はいあいぎりだ！」ときた再び腰溜めにネ
ギブレードだがススツつと踏み込む足運びに熟練の気配「カウンター！」だがおれはた
ぶん攻撃してくるだろう直前に指示すると同時にズバつときたリアオスはきゆうしょ
に痛そうにしながらも見事なカウンターで返すことに成功した試してみるモンだな。
カモネギはというと凄まじい倍返しこうげきに倒された

「あーっ！ じーちゃんのおしようがーっ！」

こいつもし化して、じぶんのポケモンひんしたたどこミルン始めてなんですか？

ボールに引っ込んでいったカモネギ片手に悲しんでおろおろしてたそいつに俺は「そ
ういうときはポケモンセンターに頼ると良い」と教えてやると「ありがとう！」といっ
て走っていった

「賞金・・」と言いかけたがトレーナーの常識も忘れるくらい必死だったのでしょう

おれは焦らずゆっくりにクチバシティに戻り、ポケセンにいた少年に賞金を請求しにい
くのだった

ポケセンついた直後ごめんなさいしてきた初心者トレーナーから60円もらった後
くらいにポケギアに電話かかってきたねーちゃんからだ何のようだ？

「ダグトリオ捕まえた？」

「捕まえてない」

「もう一週間たつただけだ」

「ふつうに考えたら捕まえたなら電話するでしょう？　電話しなかったということは捕まえてないということになる」

「むー。じゃムリだって思ったときも電話しなさいよね」

「わかった」

つまり捕まえるまで電話しなくていいという意味だなこっちはいくらでも無限コンテニュー可能だし諦める必要もない（約束）

「よろしくー」という言葉を最後にブツツと電話きれたが直後にまた電話かかってきたナツメからだった

「大変なことになったの。助けて頂戴」

「どうした？」

「私のバリヤードだったら、握手しようとしたらものすごく嫌がつてヘソ曲げちゃったの。どうしたらいいかしら？」

「さつさとごめんなさいしろ握手以外すればいい」

という「やってみる」というしぐさま電話切れた

俺はバリヤードというポケモンの名前にピンとこなかったが

たまたま握手されるのが嫌いなタイプだったということでしょう。

さて、とねーちゃんの約束とナツメの問題をてんびんしたところ

優先度＋1はナツメのが緊急事態に思える

普通に血の通った人間なら誰だって仲良くしたいポケモンに嫌われるのは辛いつて分かると思うんだがな

ねーちゃんとの約束のほうはというとまだ一週間残つてるといふことだから余裕あるつてことで簡単に論破可能おれは少しだが慣れてきた自転車でヤマブキ・シテイにかつとばすのだった

25. なんだ急に拗ねてきた〜 ナツメ

○月×日 今日もいい天気

実はおれは頼りにされていたナツメのポケリフレ中

おれは自分のクエスト進行中で関係なかったんだがちようどトラブったみたいでt e e ーかかってきたなんとか耐えてるみたいだった

おれはクチバにいたので急いだところがアワレにも関係が崩れそうになってるっぽいのがテレパシー会話で叫んでいた

どうやら本格的にヘソ曲げたらしく『はやくきて〜はやくきて〜』と泣き叫んでいるナツメのために俺は自転車を使ってカカツとダツシュしてはまだまだつかない時間できょうきよ乱入すると

「もうついたのか!」「はやい!」「来た!フレ来た!」「メインフレ来た!」「これで勝てる!」と大歓迎状態だったアワレにもナツメはおやの役目を果たせず嫌われていた近くですばやくなだめるパワー使い橋渡した

テレパシーで『助かった、終わったと思ったわ』ときたがこのバリエードがだれの手持ちだかは一瞬わすれてるみたいでかわいそうだった

おれはよーこびほめられたかったので――

「とても個人的かつ独創的なレポートね。」

でも、すつごく読みづらいわー

その調子で今日までの旅の記録を残しているのかしら?」

「なにイキナリ覗きこんできてるわけ?」

おれがさつきまでの出来事レポートにしているとポケリフレという俺が日常的にやっている好意おわらせたナツメが後ろから不意だまにレポート見てきてた

画面閉じたらそれ以上見る気は無いみたいでコロコロ椅子に座って足組んでいたお肌つやつやかかもしれない

「それにしたって、嘘ばかり書くのは感心しないわね」

「嘘じゃないおれはナツメからの救援要請たしかに受け取ったしな」

「まあ、確かに相談はさせてもらったけれど。」

私、絶対『これで勝つる』なんて言っていないわよ」

「ナツメがエスパー能力で喋ってないところの声が聞こえるように俺には喋ってないナツメからこういう台詞が聞こえてきたということだ」

というナツメは呆れが鬼なっていたおれは借りてたメイン機のポジションから

座ったままの姿勢で床キックにコロコロ椅子移動すると

ナツメもだがサイコパワーがあるのでキックせずともオートでホームポジションに帰っていった。

「それにしても助かったわー。」

まさか『いやよいよやよも好きのうち』じゃなくて『とにかくイヤだ』のほうだったのね」

「普通なら態度で分かりそうなものだが特にナツメはテレパシーなんだし」

「エスパーになってから普通の意見ってよくわからなくなっちゃって。」

それに、心が読めることと心が分かることは別よ」

「お前学校行って国語の勉強しろ」

するとナツメはシニカル表情になってこう言った「あなたは心は読めなくても心が分かるタイプね」

残念だったなおれはクールタイプだから冷静に大人の考えだし

たとい分かるとしても0か100かというのならニドラン族以外は全部0%なのにニドラン族は100%という程度だぞ？

『どちらかというと熱血タイプだと思うけど』

「目の前にいるのに直接脳内に話さなくてもいいと思った」

「あら、ホントだわー」

と
ところでおれは現在地は超能力開発センター三階でなんでレポートしてたかという

と
やること終わった後しぐ帰ろうとしたところ

ナツメがさつきみたくシャレンならんくらいこじれたら助けて欲しいと希望されて
しまい

対応に困ったんだが二回も三回も「まただよ（苦笑）」となりたくないから

仕方ないから帰らず居残りしてレポート書いてたという状況

つまりもう居残りの理由なくなっても同然だからもう行かなくちやと

立ち上がったら「まあ、まちなさい。お礼くらいさせて頂戴」というがキツチリ断つ
といた

「おれはこないだ助けてもらったのにお礼してないから実はお恩を貸していたということになる。お恩を返したというだけのことだからお礼なんかいらなと思うけど？」と
理論的に礼儀正しい大人の対応なのだが「まあそう言わずに」とグイグイくるので押し
が強い

こんな押されてしまつてはナツメの手ぽちポケモンがビククリして困つてしまいた

じたじするのも納得

もし化して、ジムリーダーの重圧から開放された反動かも知らないし他の理由があるかも知らない

「ちよつとくらい困つてることあるでしょう。どれどれ……」

ん？ いまあまりお金が無いの？ スポンサーしてあげよつか？

それともダグトリオ捕まえてほしい？」

するとナツメはテレパシーで読み取つて意見なのでスポンサーは俺よりククイさんだしダグトリオは自分で捕まえなきゃなので折角ですが遠慮します

『……ふーん。まあ、いらぬなら、いいですけど』

「なんだ急に拗ねてきた」ナツメ

じゃなんかくれ俺がほしいのじゃない自転車のチケットのときみたくナツメがあげたいと思つたのがほしい」

というと黙つたおれは「思いついたときでいい。じゃあな」と部屋から出たが自動ドア出てから振り返るともう笑つてないむ表情のナツメ

その目はサイコパワーなミラクルアイであつたオートで自動ドア閉まつた。

……何か言いたそうだったことくらい分かるが言い返す言葉が無かつたのかもな、

だが貰ってばかりで何も返さないヤツは本能的に寄生タイプだからやめといて正解のはず

その後おれはクチバに戻りポケセン休憩後ダグトリオ探検隊やりに入ったが見つけることはできなかつた。

だがチャンスは翌日だったその日は洞窟入ってすぐに忍者いなかっただがおれはデイグダの地下に穴に行きずんと進んでいくと何回かデイグダ倒しているとダグトリオがついに現れた！

「チャンスだリアオス！ どくばり！」 さっそくりアオス繰り出して毒針でよわらせる作戦にでたところリアオスはとまどった「どくばりってなにするんだっけ」みたいなか鬼なつてこつち振り向いた

しまった長いこと指示してないからポカンと忘れてるダグトリオは穴掘って潜った「今のなし！ 下から来るぞ気をつけろ！」 すかさず指示キャンセルに落ちつかせると

下からくるのはタイミングよくジャンプ回避「ひかえめにれいとうビーム！」 ドカンと飛び出たところへ弱めのビームで削らせたおれはリュックの中からモンスターボールだして構える

するとダグトリオはドロかけてきた俺に「ウオアー！」 俺のダメージにリアオスはモノスゴい鳴き声あげた「みだれづき！」 俺はとつさに指示した結果がどうなったかわか

らない

トレーナーにダイレクトアタックしてくるのは野生とのタイマンならではの出来事。

顔面コースだから目え痛いおれは腰のボールからナイト出して今更ながら盾の仕事
任せたスキに腕でこすって視界確保したいが見えにくい！

「リアオス！ ひきつけろ！」

おれはリュックから水系のドリンクだして自分の顔にかけたところ多少マシになっ
た感さらにごしごしするとようやくだが見えるようになった

戦況がどうかというリアオスは鳴き声あげつつ角の先ちよから氷出してた注目
はダグトリオの四つの目を集めていたナイトはというと攻撃はせずにはぼうぎよ中心の
構え

そしたらダグトリオは上下にガタガタゆれだす地面がグラグラした

ヤバイ、地ならし攻撃（アースクエイク）だ！

「飛べー」リアオスはジャンプで逃げたがナイトはジャンプできないので逃げられない
グラグラに内臓シエイクされたのか気持ち悪そうだった。

リアオスは手加減してやりあえる相手じゃないと思っただろうな、空中でビーム
うってた今度はかげんじやない本気の冷凍ビーム「しぬやー！」おれはとっさにモン
スターボール投げたところ

ビーム浴びてる中のダグトリオはぼふんと収まってひん死になるぴんちから脱却

ボールは床に転がったガタガタ暴れてる

あれだけ暴れるということは捕まりたくないみたいに見えた

おれはこのボールにはおさまるぬだろうと逃げ出してくる予想で

第二の空ボール用意してるとやはりというかカチツと収まる前に

ダグトリオはぼふんと逃げ出した

「入ってるー」おれはすかさず出していた二個目のボール投げつけた

ダグトリオはまたぼふんとボール in

あとは逃げる気なくすまで M B 投げて当て続けるだけ

一回二百円の捕獲ガタガタに勝つまでだがダグトリオは脱出からボールいれらえるまでの間隔が長いから遠くまで届くドロかけ俺を狙ってきた

しかしここで頼りになるナイトであった。

なんとプレスで打ち落としてくれたのだ「よくやったナイト！」口を動かしつつ手を出すのをやめない（平行作業）

おれは捕獲しては逃げられるの繰り返し4個目にしてようやく捕まった

買い足してなかったら足りなかったな……いまはもう大人しいキズだらけのダグトリオのボール見るとばってんぎみにジト目の6つから見つめ返された

これが高レベル体のじめんタイプか……偶然にもおれの手持ちたちがニガテの大地属性だけあつてそれなりになかなかかなり強力だったおれも不用意だったがな

さつきおれがトドメさすように言わなかったがリアオスがトドメしにいったということはそれくらいニガテタイプはやる気や気合いだけじゃ厳しいということか

「お前つよいな」と素直な言葉が出たのはおもわずいさぎよい武の心がでてしまった結果だったのだろう

ま、倒す気で戦うのと捕まえる気で戦うという差が大きかったのも認める

おれはダグトリオ入ったボールをベルトにセットした3つ目のときは特にだが4箇所めのボールベルト埋まるのが変な感じだった

洞窟から脱出してクチバのポケセン。

がんばつてくれたみんな回復させてやったら昼前だった

昼飯食う前にポケギアでねーちゃんに電話

「ダグトリオ捕まえたぞ」

「でかした流石我が弟」

「とりあえず今からタマムシ行きだケドどこ行けばいい？」

「タマムシどこか知ってる？」

「ぜんえんしらない」

「あんた今たぶんクチバでしょ？」

クチバからヤマブキ入って、西ゲートから出て、タマムシ入って直進したら右手側にポケモンセンターあるからそこで待ち合わせね。

おねーちゃん夕方過ぎに迎えに行くから」

「わかったそこついたら電話する手はず」

「よろしくー」

後はねーちゃんがどんなポケモンはべらせてるか期待だな、

なにはともあれメシ食ってから待ち合わせ場所行くためにポケセンから出ると

空とんで逃げてる洗濯機とひっしに追いかけてるオッサンの姿「誰かロトムを止めてくれー！」という姿はアワレだった

普通ならこないだのことで無視する人がぜいいんだらうがおれは無視できなかつた走って近づくとロトムは前にイタズラしてたのどどういつ個体なんだろうな、鳴き声あげて襲い掛かってきた！

「もういい加減粘着やめておけよやめておかないとこつちも考えがあるから

そろそろ反撃するかもしれない

仏の顔を三度までという名セリフを知らないのかよー！」

おれはリアメス繰り出しニドキックで撃退させた街中では危ないポケモンバトルが

始
ま
っ
て
し
ま
っ
た

26. 前門のニドラン族前門のオムナイト族状態でなす術なし

ロトムなるポケモンが電気製品にはいれてイタズラできるのは見たことがあったが自由自在にふゆうするほほのポケモンパワーということはかなりの潜在能力

おやを言うこと聞かずかつてに動き回ってる迷惑行為中のロトム戦、先制パンチのニドキック決めたおれはまずとはと6番道路方面にダッシュ

街中でバトルするとかいう危険行為は中立的な第三者的な立場からの視点が無いと犯罪行為なのでその射程外に行こうという考えだがまんまとふよふよ追いかけてきたロトム

ロトムのおやはというとボールに戻したそうに赤いビーム向けようとしてるがサツと避けられていたクセが見抜かれてるぞお前が何とかできるなら何とかするべき

機体してなかったが後ろちらちらみてる洗濯機パカッと開き水のプレスうってきたりアメスが体張って食い止め周辺被害は回避。

すると持ち主はロトムに「やめてくれえ！」というがアワレにもムシされていた。

お前は保健所が怖くないのか？

まロトムは器物破損か傷害罪で逮捕される前におれがひん死にしてやるから逮捕されない

そろりと走りつづけると街の外出れたので反撃開始

おれはさつそうと振り返ると「リアメス！ どくづき！」と指示リアメスは反転に力カツつと四つ足ダツシュ

ふわふわついてきてたロトムは飛行タイプに見えるがどちらかというとふゆうタイプなので大してあまり素早くなかったから簡単に捉えられた毒属性の右が洗濯機に食い込む。

おれはついさつスキの出来事の対策に「ナイト！頼んだ！」と守りのカナメにしとくと予想に想定した通りロトムはリアメスのことスルーして俺めがけて結構な速度で電気タックルにきただがナイトが岩石封じに打ち落とすと簡単にはのげられなくなっていた。

「リアオスも行け！」

恐らくだがこつちのニドラン族とサシで比較の時点ではまあ互角だろうが

3対1という匹数差が決定打となり総合的におれたちの圧勝となる

もはやすでにふくろだたきの射程内

ロトムはとつでんの急展開に逃げ出したそうにしてるが後ろがないので前門のニド

ラン族前門のオムナイト族状態でなす術なしだしな

その後ボコボコに圧勝してやった後にはボコボコに故障した洗濯機が残された

一足先にモンスターボールへと脱出したっぽいロトムはヒキヨウにも籠城を決め込んでいた洗濯機の持ち主のおやがかわいそうだった。

「参ったなあ」というおやに話を聞くと今度は勝手に店売りの洗濯機に入り込んで脱走したらしい

俺が思うにここの彼では躰けられないんじゃないかな？

捕まえられたポケモンがそのしゅんかんなんでも言うこと聞くと思う浅はかさは愚かしい。

人が腰にセットのポケモン選ぶようにポケモンも人を選んできるということ。

どうやらこの人はロトムを捕まえればしたももの従うにあたいする選ばれた人間ではないようで「マチスさんに預けようかな」と言いだした。

そんなだから反抗されると思うぞ？

キチンと向き合わないと懐かないことくらい分かりそうなモノなんだがな

変な空間になったので俺は「じゃ、家族の予定があるのでこれで」といって先を急いだちなみに警察はだいぶ後に来たらしい（後日談）

おれは折り畳んでた自転車の封印を解き、ちゃりんちゃりん走ってヤマブキ南ゲ―

トヤマブキ・シテイヤマブキ西ゲートタmamシ・シテイと移動したがさすがは自転車といったところか、まだ夕方というには時間に余裕のようだった。

とりあえずポケセンでヒールマツシンにポケモン預ける。

今電話しても迷惑かもな、回復後手持ちぶたさになり何をするにも迷うハンパの時間だった

俺の頭ん中の想定ではこういった空白の時間にリアオスの角の次なるパワーを引き出す技を伝授だったが

最近とつくんばかりでポケモンのみんなと戯れる時間がふそくしていると思う（リアル話）

とりあえず近場のポケモン出していいエリア聞いてまわると街から出るかタmamシ公園だという俺はタmamシ公園に行くことにした

公園はタmamシの南にあるそうだが行ってみると公園というより散歩コースであって遊び場というふういんきじゃない様子。

それほどあまり広くない道の左右に木とか花壇のエリアなのだがおやつの時間すぎの散歩タイムみたいでそこそこの人がポケモン引き連れて歩いてた。

もちろんだがここはバトルの場ではないのでタイマン禁止

出入り口近くの掲示板にはマトモに躡けられないヤツは出禁になると書いてあった。

そこでおれの目に付いたのはガーデイの進化ポケモンのウインデイの姿

おやこ連れに先頭を正堂堂と歩くさまはなかなかの風格その周りをガーデイ二匹がちよろちよろしてたが周りの迷惑にならないようにさせていた

どうやら複数出しても良いらしいことがわかり俺も三匹とも出してのんびり散歩当然だがゆっくりして行くとナイトのペースに合わせることもなる

そうなるよりアオスとリアメスは先行に前に並んで歩いてくこととなり、ケド遅れるこつちに振り返ると座って待ったりする

そのうち座る気分じゃないのかこつち戻ってきたりまた行ったりと落ち着かない様子に最近は大バトル中心に行っていた影響だろうな、おれは二匹の近くにしゃがみこんでなでてやり「今はのんびりタイムだぞ」と言つといたナイトも仲間になりたそうな目で歩んでいたのナイトもヨシヨシしてやった

おれは散歩コースから芝生とか木のエリアに移り、花壇には近づかず木を背中に座るとポケモンフードを振舞う道行く人はそういうことやる感じは全くなかったがどうせ自宅で作ってるのでしょう

何匹かからフードに興味がある目がきたが、おやにたしなまられるとおとなしくだった
おれは皆に振舞ったフードからチョコチョコ出し、こつちは食わないように3匹に言

い含めると腰の中身のあるボールを手に取り中を覗く。

捕まえてからまだ一回も出してないダグトリオがこっち見つめ返してた。

「いまからごはんだからよ。大人しくどうぞ」

と声かけしてからカチつとロック解除にボールから出してやった。

だぐだぐいう鳴き声とともに出てきたダグトリオはさつと木陰に移動ダグトリオの

弱点は日光なのだ（生態）

ちやんと日陰に出したつもりだが眩しい位置だったみたいおれはしやがみ状態で試食に小分けしたフード近づけてやり「好きな味だけ食っていいぞ」というとくんくんしだした

そのうちダグトリオがもしやもしやしたのはリアオスと同じメニューであった追加でフード施してやるとγろこびの鳴き声つぼいのと共に食べ始めた。

リアオスはダグトリオの身分わきまえてるみたいで特に文句の鳴き声はないみたいだった俺はダグトリオに言う

「おまえ、俺のねーちゃんとか行きだから」

しかしダグトリオはとうとうともらったフードに夢中みたいで聞いているかどうかは残念がはつきり言つてぜんえんわからない。

あまり感心を持ってたわむれるとねーちゃんに差し出すのを躊躇うからだがもしこ

イツが俺相手にだから捕まってやったという心意気だしたら申し訳ないと思う

まかなりの勢いでレジストだったから俺は「私利私欲とみとめているが「俺が望んだ事ではない」という意見

ねーちゃんのもとでたくましく過ごしてほしいと思った。

食後みんなナイトのペースに合わせてのんびり歩いていこうとしたが、ダグトリオはき陰からでたくない様子なのでボールに戻してやった

気になったのでダグトリオいた芝生見てみたが穴一つない不思議仕様

これがポケモンパワーってやつか・俺はダグトリオではないがこれは明らかに超常現象しすぎているだろ（苦笑）

でもコンクリの上に繰り出してはいけないというお達しはトキワにあるのでわけがわからねえだよ

さて気を取り直して散歩道だがしばらく歩いてると途中で分かれ道になってほとんどぜいいんの人がそこでボールにポケモン戻して街に戻っていく

近くの案内板みるとやじるしマークで三方向のうち、この道の奥がタمامシジムという単語が示されていたが

さすがにジム戦する時間ないだろう時間は夕方の5じ前くらいだったおれはポケモンセンターに戻ってねーちゃんに電話したが出なかつた授業中かよ？

電話鳴らすのやめてトイレにしよんべん行くと手洗い中に折り返しっぽい電話

手洗い洗ってる最中に電話鳴らすのはしないふえ下さい（約束）

すぐさまハンカチで手拭いてから通話

「ついたー?」

「ついたぞ」

「はい。今から行くから表に出てて」

「良いぞ」

まってるということなので外でて待つてるとそのうちねーちゃんが来た。

布装備はミニスカート時代とは違って大学生といった風格だが一目でわかった家族だからかな・髪は一族の遺伝的にもとの銀髪に染め戻してみたいで安心だが前は茶色く染めてたからなー長さはセミロングにしてるようだった

ねーちゃんは目ざとく俺の背中 of 自転車に目が行ったみたいで「おー。折り畳み自転車じゃん」と久しぶりという言葉より先に言ってきた

「どうせクチバで会長さんにおねだりして引き換え券貰ったんでしよう? 意地汚いわね」

「そんなわけないだろケンカうってるのか? 引き換え券はナツメからもらった」

「え? ナツメさん、って、元ジムリーダーのナツメさん?」

「おれは他のナツメという人物に記憶がないが」

「なんで？ どういう経緯？」

隠すほどの事でもない部分の超能力かいはつセンターに協力してると言う事実だけ説明すると感心が鬼なつてたが人に触れ回ることじゃない仲良し行為の失敗学についてはないしょ。

立ち話もそこそこにおれはねーちゃんにタマ大に連れてかれることとなった

さて移動中にねーちゃんの身内話

昔は家族で暮らしてたが10歳から出てた旅でいろいろ触発あったんだろうな、

数あるポケモン博士の1りめざして学業にはげみ、見事タマムシ大学に合格した高I

NTの持ち主

今はタマムシのどつかアパート借りて1り暮らししつつ勉強の日々らしい内容は言うまでもないが携帯獣学系で、

ポケモンどうしの相性について研究してるらしいここでいう相性はタイプでも性格でもなく種族単位で仲良しになりやすいか興味ないねか、それとも絶対許さない敵対関係かという研究

ねーちゃんが例にあげる有名どころではザングースというポケモンとハブネークというポケモンだがコイツらお互い殺意の波動に目覚めてる仲。

だがねーちゃんに言わせると「実に建設的な関係」であるらしい

たまに帰ってきたときとかにちよくちよく聞かされてるがそういったポケモン相性はおれは知りたくないしおれの人生で知る必要もないと思う

ねーちゃんと旅の話題とか雑談だべりながら歩いて回想しているとそのうちタマ大ついた入り口警備室でやりとりし、関係者のカードついたヒモ首にかけられてそのまま入場だが

話題はボール代の請求の話になっていた

「モンスターボール買って金欠が近いから金くれ」

「あ？ アンタおねーちゃんからカツアゲしよーっての？」

「違うぞコレは捕獲代行料だから公平な請求。」

ねーちゃんは俺にクエスト依頼したんだから報酬あるのは当たり前でしょう

これは対等な誓いなので守られなければならない

わかったな」

「そう、残念ね。おねーちゃんもお金に余裕があるわけじゃないの」

「おいイ！ 俺は飢えないが俺のポケモンが美味に飢えるだろうがポケセン食堂のタダ飯食わせろってのかよ！」

「アンタわざわざフード買ってんの？ いーじゃんポケモンセンターのタダ飯で」

「みんなのモチベーション下がるからダメ」

その後かかく交渉が始まったゼミという場所につくまでやってたが終わってみれば『きんのたま』なる50000円で売れるらしいウソくさいアイテム1つだけという約束で終了

畜生ねーちゃんは馬鹿だ。

後で覚えてろよ

でゼミの部屋という室内に入ったが中には3りいて机にノートのぽそこんに向かってなんかやっていた。

汚い部屋だな。ピカピカに掃除してやろうか

おれがもじもじしているとねーちゃんは同志と会話しだしたこっちにも「かわいいー」とか来たがおれはかわいがられるために来たわけではない

さっそくダグトリオ入ったボール見せるとねーちゃんは確認済みだがほかの3りが群がってきたねーちゃんは数ある棚の1つに行ってなんか取り出すときんのたまが差し出された。

更にねーちゃんは誰も座っていないボス格のヤツが座りそうな机のよこにヒールマツシンに似てるけどどこかおかしい未知の装置に指差す。

「そこに3つのモンスターボールがあるでしょ？」

「1つだけ、ダグトリオと入れ替わりに好きな子選んで持ってっていいよ」

27. 鎧が盾なら盾は剣の地位にあるだろ？

どれを選ぶというとは同時に選ばれない存在がでる

という名セリフが浮かんだが元ネタはというと

必死に頭を回転させたが何も出なかった

おれは3匹から1匹選ぶという決断突きつけられビツクリした

てつきりだが1-1の交換だと思っていたから多勢に風情でどれを選ぶか迷う

そういうときは好みで決めると良い

つまり背中に尖った部分が多いやつが圧倒的に誘われやすいですが

偶然にもひらめきに輝くこと思いついた

「ダグトリオはディグダ3匹ぶんにそうとうするユニットの集まりだからこれじゃ3対

1交換

これは対等ではないので3-3の交換することが世界のバランスが取れるというも

の」

「そういうのいいから」

わかっていたことだがダメらしい俺も3匹も渡されては世話に困ってしまう思いつ

いたから言ってみただけ

とりあえず3つ並びのボールに歩み寄って覗き込んだところ、普通なら赤白の透ける赤が透けなくなってる

「おいイ？」

中が見えない不具合があるんだが……」

「不具合じゃなくて仕様ね。」

ボールの台座の下に四色のボタンがあるでしょう？

青か緑のボタンを押してごらんなさい」

というので手始めにいちばん左あつた緑ボタン選んでポチツつとすると装置の背後に佇んでいたモニタ光って喋った

——サンドパン。ねずみポケモン。

——縄張り意識が強く、事あるごとに周囲と張り合います

——なついていないときはツンケンしてきますが、懐くとベツタリくつついてくれます

——メロメロしてる姿も良いですが、バトルのときに見せる凜凜しい姿にきゅんときますね？

——あと、けっこう爪研ぎするのが好きみたいです。しゃきんしゃきんとし始めたら構うのをやめ、見守ってあげましょう

——アローラ地方、ラナキラマウンテンの環境に適応したサンドパンである彼は、カントー地方に見られる同種とは異なり、丸まって転がりはずに雪の斜面を腹這いに滑ります

——また、雪にまぎれこむ特性を持つようで、野性でお目にかかることは極めて稀でしょう

——アローラ携帯獣学会の調査により、サンドからこおりの石で進化するポケモンであることが確認されています。

どうやらモニタには中に入ってるポケモンPVっぽい

どうやって撮影したって方法だよ？

多方面から雪山暮らしのサンドパンなるポケモンの特徴と生態が映されていた
どちらかというと中にいるだろう個体の個人情報が多かったがな

アテレコと思わる声は知らないボイスだがたぶんだがゼミの誰かの声なんでしょう
サンドパンがどんなヤツかというのがよくわかるだった

ねーちゃんが予告した通り頭から背中まで尖った部分が多く、青系カラーにクリスタ

ルなトゲが素晴らしい

どうやら進化後のぼけもんのようだが

進化前のヤツの姿がリアメスが蹴りたがってて

更に仲間に入れて欲しそうにしてたヤツの色違いだった

なるほどな、進化前は丸いポケモンでも進化したら尖った部分の多いポケモンになる

やつもいるんだな

勉強になるがレポート書くふいんきじゃないから後にしとく

関心が鬼なり見てたらそのうちPV終わりらしく

またさいしよからやりなおしてた

次は青ボタンの番なのだ

ポチツつとしたらバトルビデオはじなった

相手は2pカラーっぽい茶色のサンドパンのようだが場所が雪山のままなのでバトルフィールドのステージの点で青のほうが圧倒的有利。

けしきに紛れて見えにくい氷ミサイルを自在に操り鋭いステイル属性のメタルクローズウィフトで勝ってた茶色のも頑張ってたが雪山に馴染めてないみたいで圧倒されてた

素晴らしい動画だすばらしい

どうやら緑ボタンが一般的に生態PVで青ボタンがバトルビデオらしい事が判明
背後からは次に研究したいポケモン捕まえてきてくれた上テスターまでしてもらえ
たというような会話だがあまり聞いてなかったそんなことよりも次が気になるので真
ん中ポケモンの紹介見に緑ボタンポチツつとな

真ん中は紹介はイワンコだった動画では、どつかのはらっぱエリアで他のいぬタイプ
ポケモン複数たちと戯れていた

紹介ボイスも聞こえるが黙って欲しいそんなのよりみんなの息遣いとか鳴き声とか
だかもっとログに残すべき重要こうもくが分からない馬鹿ですか？

俺のそつちよくな感想に誰かーりがパソコン作業に戻ったんだろ？、なんかカタカ
タしだした興味ない

ところでイワンコのことだがコイツ分類がこいぬポケモン
そのままでは背中はそのなみに尖ってないが

おれはククイの先発エースで進化形態のルガルガンっていう
もふもふとトゲトゲが両立に両刀する

サンダー系系の触りごこちに進化することは知ってるぞ？

バトルビデオ切り替えたらさつきまで一緒に戯れてたデルビル相手だったな。

たいあたりしあったりかみつきあったりしたあとに出してた岩っぼい技で勝つてた。

ナイトの岩石封じと似てるたぶん同じ技

サンドパンのかっこよさと比べて愛らしさ重視の動画なのか明瞭に明白であった

最後に右ボタン今度は立派な盾動画が……違った背中だった

どうやら背中に盾を持つポケモンの背中アップからスタートしたPVらしい

背中にトゲトゲと尖った部分が多く敵に致命的な致命傷を与えられるかもしれない結構攻撃的な甲羅の盾に見える

——バクガメス。ばくはつがめポケモン。

——この子のはのんきなのおんぴりやさん。あまり動き回らずにここと決めた場所です、そのままよく寝てます。

——寝そべっているときに構ってもあんまり遊んでくれません。

——背中を揺さぶって起こしたいところですが、触ってはいけませんよ？

——でもこのように、興味がわいたものにはのそのそ歩み寄り、前足でつついたり、持てるものなら抱えたり、あるいは吸い付いたりします。

——今はピッピ人形がお気に入りみたいですね？

——アローラ地方、ホテリ山に生息している彼は、ふだんあまり動きません。岩に擬態し、近づくものに攻撃するため、激しく動きまわる必要が無いのです。

——外見からコータス種との関連性が注目されており、コータスとは別進化の關係にあるのではないかと見られています。残念ながら進化前のポケモンは見つかっていません

そこで動画終わったバトルビデオに切り替えると相手はスピアー三匹がかりという危険な状況から始まるのだが、バクガメスは一步も動かず余裕に全滅させていたすごい稀にだがスピアーって雑魚ポケモンとか言ってる馬鹿がいるが一度でもスピアーの群れに襲われたことがあるなら絶対そんな台詞でない

あまりしつこいと囲んでみだれ突きされる痛さと怖さを教えてやろうか？

偶然にも俺の地元で絶好のポイントがある（教育的指導）

内容だがバクガメスは巧妙にバレバレな擬態で岩になるところをスピアーたちはスリーマンセル行動してたのだが気付かず飛び回るところを次のしゅんかん大爆発 くらっていた

一回目では理解不能状態だったが三回連続で繰り返し見ると

バクガメスはぜいいん射程内にとらえた瞬間しつぽで盾の背中叩いて爆発させる事

によつて

手を出していないのにもかかわらず「お前そこにいたのか・・」と歩み寄るさまは敵に恐怖を与えひん死なつたスピアーは光の粒になつて消えていった

そのうえ大爆発したにも関わらずバクガメスは全くノーダメージみたいでいわゆる点でノーリスクのノーリスクハイリターンポケモンであつた！

ということとは普通の大爆発じゃない別の炎の爆発なのかもなー

バクガメスはというとスピアー消したらまたもとの場所戻つて寝てた（貫禄）

こいつからは大物感ただようオーラが見えそうになつてる

繰り返し何度も見つめていたのでねーちゃんピンときたのか横並んできて話かけてきた。

「バクガメスが気に入つたのかしら？」

「俺が思うに3匹ともいわずれ劣らぬ尖つた背中ばかり

この3匹から1匹選ばせようとするねーちゃんが憎い

あと2匹ねーちゃんがほしいポケモン捕まえてくるからぜいいんキープを要求」

「ダメよ」

「何故？」

「3種類の異なるタイプから1匹だけ選ぶということが重要なよ。」

けつだんは おとなへの だいいっぱい！

あのレッドも オーキドはかせから おなじこと したらしいわよ！

あんたも 12さいの おとこのこ なんだから

しのごの ぬかしてないで ビシツと えらびなさい！」

ちくしようただの伝説の最年少チャンピオンのリスペクトじゃねーか

よのなかの博士タイプはきつとだが二匹目のドジョツコ狙いでみんな同じようなことしてゐるんだろうな

オーキドのパクリのニセモノ行為それが今回の目的かよ俺はぜいんほしいぞ？

……

……

……

おれはもつかい3匹の動画見直したりして必死に頭を回転させた

やはりいづれも偶然だが俺が手持ちに迷うやつらばかりだった

だがあえていうならイワンコは完全にペットの為の生贄だから簡単仕様で

バツチ集めてないときのトキワの森生活ならともかく、今から連れ歩くのはイバラだ

ろうな

残るはサンドパンとバクガメスだが

サンドパンのが一番トゲトゲに見えたのは事実。
だがバクガメスには及ばないな。

あんな氷でできたカラダで炎の爆発に勝てるわけがない

しかも腕力もみた感じバクガメスが圧倒的に上で詩かも炎だから2匹が向き合ったら負ける要素がない

なにより盾といえはぼうぎよの基本であつて鎧が盾なら盾は剣の地位にあるだろ？

俺は赤系トゲ甲羅の爆発盾ポケモン、バクガメス選ぶことにした

「じゃあ一番右のAボタン・・じゃなくって、赤いボタンを押してね」

別に言いなおさなくていいぞスーフアミと同じボタン配色と並びなのは気付いてた

俺は言われたとおり一番右にある赤いボタン押すとモニター切り替わる

『バクガメス を えらびますか？』

A/B

新たにモニタに表示みた俺は赤ボタンもつかい押すとピーピーいう音とともに右のボールだけ赤い部分透けだした。

ねーちゃんに確認するともう触っていいらしいおれはボールを手を取った

中には背中向けて顔だけぐるんところちみてるバクガメスの姿。

動画的にかなりの大サイズみたいだから今ここで出してやれない「よろしくな」とだ

け声かけしとく

とりあげた位置にダグトリオ置いて欲しいそうなのでカチャツとセットしてやった
その後遠隔でなんかやったのかこっちのボタン触ってないがマツシーンがびーびー
鳴って

赤色がひ透明になっていく、かがくのちからってスゲー

それにしてもだがPVはどいつもやたらとアローラのアツピルだったのが気になっ
たから

聞いてみるにどうやらポケモン好きくらぶ経由でククイ博士にコネあるねーちゃ
んが

普通なら手続きで大変なことになるというアローラのポケモンゲットのため

交渉結果みんなでアローラポケモン紹介PV作ったらしい

ククイはアローラ地方のポケモンが世間に広めらるるチャンスので作ってもら
えて情報勝利

ねーちゃんたちはカントーに持ち帰るのムツカシイ、地方限定ポケモン手に入り更に
ゼミ仲間と研究できるので研究勝利

相互に限られたコネでおたがい勝利条件が満たされただけというWIN-WINの
関係になるな

ちなみにP Vの撮影方法聞いたがスーパーコンピューターのパワーで再現されたシユ
ミレーション空間で撮影したんだと。

さてニツクネーム考えて決める時間だべな、

あるのとないとじゃ今後の仲良し度が段違いだし

やいばのたて……はニツクネームって感じじやないな

バクゴー……はアニメのキャラネームだろ

バクメス……リアメスとメス部分被ってるからダメ

スパイク……リアクト……アカメックス……カツパー……カツパ寿司……よし、決め
たぞ

「お前は今日からプレスパと呼ばれる存在になった覚えとくと良い」

その後おれはねーちゃん家いってメシ食わしてもらってお互いのニドラン族戯れさ
せたり風呂入ったりして寝た

プレスパとは明日から交流する手はず

27. トゲ甲羅の炎熱プレスパ

朝起きたらソファなんだか背中じゆう痛い、

カラダ起こしたらバキバキで疲労の証拠に苦笑がでてしまう

おれはねーちゃん家のマンションで一泊なんだが

借り主たるねーちゃんはまだ寝てるらしいもう太陽はおはようなのに遅すぎる、

それとも大学生だからこの時間はまだおねむか？

とりあえず顔洗ったりストレッツチしてでスツキリ目覚めると

昨日のうちに夜干しさせてもらってた洗濯物ペランダから回収、

その後冷蔵庫行つてありあわせの料理やろうとしたら残念がはつきりいつて大した

モン入つてない

ま調理は可能だがな

完全オリジナル食ばんトーストとほうれん草炒めにしてやろうか

まずはテーブルにあった食パンに丸いハムのつけて更にマヨネーズコーティングする
とレンジにいれてやった

ぼちぼち設定してスタートすると次はフライパンの番なのだがオイル引いて加熱に

準備の構え

そのスキに冷蔵庫から出してたベーコンとほうれんそう包丁でズタズタに引き裂いてやったら

フライパンに熱が十分なので、すかさず切ったやつらを投下に投入

ついできのバター投入で炒めが更に加速した

ああ文明開化の匂いがするな食事は良い匂いからという言葉が染み渡る（至福）

そのうちレンジがチンなので完成という合図1分つてところか、

じゆうぶんに炒めたら二皿に分ける

更に朝メシ高品質にするなら非ポケモン存在ニワトリのエッグというものがオススメなのだが

レアアイテムの高級品で冷蔵庫にないのでは作れと言われても無いという理由で始めから調理成功率は0%だった

レンジから食パンだとほかほかマヨねんズの匂いがただようこちらもうまそうのかおり

包丁の切断属性で耳の半分に真つ二つしたら皿に乗せて完成

おれは一晩泊めてくれたねーちゃんのために2枚目のトースト準備してると

ねーちゃんの部屋からがさごそなので「朝メシ作ってるぞ」と声かけしてやった

するとパジャマねーちゃんがウインディのサーティーン横につれて出てきた

実は俺がねーちゃん部屋に侵入してたらオートで撃退のつもりだったらしい余りにも牙を剥きすぎているだろ

こいつと会ったの昨日初めてなんだがおれに牙向くのもねーちゃんが大事という意味だから信用の証明になる

別に俺はお礼を言えと言ったわけではないが通りすがりに「おはよ。用意ありがと」ときた「おはよう男ならこれくらちょロいこと」ねーちゃんはというとそのまま洗面台に行った

すると二枚目のトーストできたので皿に盛ってやり

最後にモーモーミルクグラスに注いで箸も用意したら人間の朝メシ準備は完了に完結した

次はポケモン飯の準備

3枚の皿にリアオス用、リアメス用、ナイト用だがいつもと違い今日はねーちゃんが購入してるポケマメがあるのでそっちくれてやる。

どうやらデパートで特売に売ってるらしいがぜんぶの味のセットしか売ってくれないらしく、あまりがまわってきたというワケ

これもククイ博士のアローラアップील戦略だか便乗した第三者の手口かは分から

ないが美味しいやりかただと思うぞ？

バクガメスのブレスパ用の皿はまだ買ってないが今日買いに行く手はず。

代替にねーちゃんが来客者よしのポケモンに用意してある皿借りてポケマメセット。

おれはまずはじゅんぱんにリアオス出しとくと

自分用の皿みてがつつこうとするのを「待て」といつて待機させ

おれもだが席について待つてるとそのうちねーちゃんが洗面所から出てきた

横にはニドクインのエアリスの姿

ウインデイはボールに戻されたみたい

ねーちゃんまだ眠いのけ目えこすつてたが戸棚の下段から皿だしてエアリス用のメ

シ準備しだす

エアリスはというとテーブル横のちゃぶだいにマイ皿の前で合図も必要とせず待機、

リアオスになんか鳴き声かけてたたぶんだが「おやはよう」とかそういう挨拶でしょう

リアオスもどりの鳴いて返してた

ねーちゃんは冷蔵庫からラップされた大豆系サラダ出して座った

「いただきます」

「まーす」

俺らが片手にトースト、片手に箸でほうれんそうとか食い始めても2匹はまだ食わな

い「よし」俺とねーちゃんが偶然にもハモツてそういったと同時に食い始める

我ながら朝メシは美味くお手軽食なのに感動だった

それにしても食い歩きできるくらい金欲しい(要望)

「ほりや、大豆食え大豆。大豆食べないと大きくなれないよー」

「もちろん食べる手はず」

箸で大豆だと苦戦だがサラダの葉っぱに包むと簡単に捕まえられる

すると俺らより圧倒的に早く食い終わった2匹は鳴き声で合図なのでボールに戻し、次のポケモンを繰り出すと止めてないのですぐメシに食いついた「テレビつけるよー」ねーちゃんは一声かけた後りもこんでTV操作した

チャンネル操作後番組は朝のモーニングショーなるニュース

どうやらいまの話題はクイ博士らしく、バカンス系地方にポケモンリーグはいかかなものかという内容。

2りくらいのコメンテーターが賛成と反対のポジションに分かれ、

「観光に来たのにバトルに挑まれる機会が増えるのでは?」「いや実力さえあればポケモンリーグ本部はどの地方でもウエルカムでしょ」みたいな議論やってた

議論はたいして続かず話題はアローラ特有のポケモンになったところ顔色が黒いニヤース達が戯れていた「自慢じゃないけどあのPV私らが作ったの」とジマンしてき

た昨日みしてもらったのとは別に5匹か10匹分のくらい作ってたらしいすごいや、作った甲斐あったわ。

「マツキーの音声編集で消されてるのが残念だけど」

「それでもカントー中に情報発信されるムービー作れるのはすごいと思う」

「それほどでもないわ」

その後もポケモン入れ替えつつ朝メシ食わせ、こちも食べ終わるとねーちゃん歯磨きに行ったのでおれが皿洗う

最後に出したプレスパは出しっぱなしにしたが特に動き回らずおとなしくだった。

「ポケマメ美味かったかよプレスパ？」

と声かけすると鳴き声が返された美味いという意味なら良いのだが。

皿洗い終わってかんそうきに並べ、やること終えると

座ってるプレスパと向き合う

昨日も思ってたことだがやはりというかサイズでかく、

立ってる俺と同じくらいに位置に顔面の高さ

PVによ通りのんびりさんらしくぼけーとしたか鬼なつてたヤドン族と通じると

ころがあるかも

当然こいつのほうが表情豊かだろうがな

俺はリュックからやわらかボール差し出すと興味深そうに受け取ってむにむにしますので

スキをつけてウデとか熱であつたかいとこ触りコミュニケーションしてると

そのうちねーちゃん歯磨き終わったみたいでそのまま部屋に戻りたぶんだが着替えに行つた

俺はプレスパをボールに戻し、マイ歯ブラシで歯磨きに掃除。

朝の準備終わったので俺は扉越しに「泊めてくれてありがとう」とねーちゃんに言つた
といた「ま、やれるとこまで頑張りな」とエール返された

ニドリーノのクラウドだろう激励の鳴き声にパワー100倍の1.5倍くらいあがる気分

もういなくなちやなので俺は意気揚々とねーちゃん家から出た

エレベーター内でエンカウントしたマンシヨンの住民っぽいしゆふ層の人から誰の若いスバメか聞かれたが

噂に踊らされてるアワレな一般人だと思つたそれは偽情報だぞ

そもそも俺はスバメではない姉の家に泊まつただけと見事なカウンターで返した

とりあえずタマムシとヤマブキの間にある7番道路でみんなの顔合わせさせにいつた

デパートまだ開いてないので後回し

朝だけあつてサラリーマンらしいジョブの人たちがヤマブキ目指していたヤマブキに家が入らないんだろうな、タマムシから通いらしい

隅つこの方にある草むらじやない原っぱに4匹とも出すと注目の的だったが

学校生活では日常の出来事だったから放置にして「こいつ新入りのブレスパだぞ。仲良くしろよ」とみんなに言つてやる

昨日はねーちゃんちはぜいいん同時は出せなかったから顔合わせは今日がはじめてということになる

リアオスはしつぽと後ろ足で立ちあがり背比べしてたが高さ足りないみたいで悔しそうだったな……

リアメスもおんなじように立つて挨拶つぽい鳴き声だがブレスパはというとナイトが気になるらしく抱き抱えていた。

ナイトは触手でブレスパの腕にからみついてたが気にならないのかブレスパはのんきに鳴き声だった

シカトされたリアメスはいつもと違う唸りの鳴き声

「やめとけ」おれが止めるとどりーな鳴き声たぶんだが「なんなのアイツ」とかそういう意味でしょう

これは良くないチームがバラバラになってしまう予兆の兆候

放置してるといつまでも後に響く感

おれはプレスバに「仲良くといってるのが分かりませんか？」と言うと聞いてるんだか無いんだかナイトと戯れてる

まずはリーダーシップに今のおやをわからせる必要性を感じるな……

俺はナイトとリアメスをボールに戻し、近くの草むらざんずん歩み寄った

リアオスにはデイグダの穴で目覚めてたっぽい支援効果のあるポケモン・パワーでプレスバのでだすけさせ、プレスバに何するか見定める構え

何できるかくらひは昨日のうちにねーちゃんから聞いてるがやはり今やりたいことさせるべきだからな

そのうちやせいのシマ荒らされてと思ったんだろうな、ニヤースとかマダツボミとか出てきた

プレスバは敵に背中を見せると戦闘モードみたいで横顔の表情が変わった

さてなにをするのか「やりたいようにやっていいぞ」とだけの指示で見守るとプレスバの動きはにぶくニヤースに先制攻撃されてたが

背中ので防いでまるで効いてないに見えるしかし盾爆発はしなかった。

お返しにニョキツツと尖った口からファイアーブレス吐いて一蹴していた

かなりの高火力で目を見張るほどの威力のあまり草村にも燃えうつったのだが
ポケモンパワーの神秘だからかそのうち自然に消えていく……

プレスパは支援効果の火力あることに気づいたんだろな、ようやくリアオスに視線
やると鳴き声交わしていた

その後何回かバトルするのだが使うのはかえんほうしゃばかり「かえんほうしゃ以外
に何かできるかよ？」と聞くと

次のやせいポケモンには貧弱なじたばた攻撃したり鉄壁のまもり見せてくれた。

終いにはそのゆつくりの動きからは信じられないほど飛び上がり、のしかかりプレス
までする始末

動画で見せてくれた盾の爆発わざは使わなかった切り札はとつとくタイプか？

リアオスも支援の援護パワー付与ばかりではストレスなんだろうな、俺にも一撃入れ
させろというような鳴き声しでした

おれはどうせなら切り札も出させたかったが今日のところはここらへんにしとい
やる

リアオスにも攻撃させると冷凍ビーム出したときにプレスパの表情が変わったのを
俺は見逃さなかった

ねーちゃん情報によるとプレスパはほのおタイプとは別にドラゴンのタイプで、

ドラゴンタイプ最大に有名な弱点である氷タイプにも並のドラゴンより強い
だがドラゴンいんしとでも言うべきか多分だがそういうのに氷の恐怖が刷り込まれ
てるのかビビっていた

ということとは昨日みたサンドパンがわは実は互角にやりあえた可能性あるな
そのときはドラゴンタイプだなんて知らなかったから思いつかなかったがな

俺の狙いは得意わざ出させるだけださせて力量をはかれたらそこから反転パターン
リアオスに本気出させず溜めていた攻撃で信頼ゲットだしそうしたら当然流れは
こっちになるしな

そのうちプレスバはリアオスに一定の実力を認めたらしいのが見てわかるだった。

すると立場逆転なのか攻撃はリアオス、防御はプレスバという役割分担で
戦い始めたプレスバのぼうぎよは固く隙を見せなかった

リアオスはカカツとダツシユしプレスバの陰に隠れたり出てきて攻撃したりする
と早くも呼吸の合致だが

もつと仲良くなつたらもつと良くなる手はず

しばらく戦わせたのち2匹を褒めるとプレスバはまんざらでもなさそうな様子に

おれは狙いの成功を核心したがそろそろポケセンか、といったところでタイマン挑ま
れた。

「やあ！ ダブルバトルの練習かい！ 相手しようか？」

相手は見るからに塾通いといった風貌で

こつちが弱るまで待機してたのかと思うと神経逆なでだが

バトル挑まれたらトレーナーは背を見せにくい（お約束）

すると「行け！ スターミー！ ゴローン！」とまだしてるプレスパとリアオスに強そ

うなポケモンだしてきた

汚いな流石塾通いきたないあもりにもヒキョウすぎるでしょう？

おれダブルバトルのタイマンするの初めてなんだが相手は慣れてるらしく「スター

ミー！ ハイドロポンプ！ ゴローン！ いわおとし！」ときた

どうやら狙いはプレスパのようなのですかさずボールに戻すとリアオスには冷凍

ビーム撃たせ、ダブルするならばやと信頼のリアメス繰り出した「行けリアメス！ 十万

ボルト！」と不意だま攻撃返してやった

もちろんハイドロポンプともいわおとしともぜんえん関係ない位置に出すので無

効に効果がないのだが

するとなんか物言いでズルいとか来たが、本当にズルいのはどつちだかいっしゅんで

は分からないみたいだった

ゴローンとか呼ばれたヤツはビームで半分氷漬けになりスターミーもボルトで弱っ

た

ケドそんなことよりいちやもん優先の態度のトレーナーだがお前のいちやもんはポケモンには効きにくい（無視）

おやに助けてほしそうにしてる2匹にもう一撃づつ同じ技きめると2匹とも倒された。

どうやら手持ちはあと1匹だけみたいで「頼む！レアコイル！」とだけ言って二匹目は出さなかったダブルニドキツクの四回連続攻撃で倒された

さすがニドラン族といったところか見事な連携だと関心はするがどこもおかしくはない

「対戦の結果がこれ一足先に言うべきだったな。お前調子ぶっこきすぎてた結果だよ？」といってやると賞金払ってヤマブキ西ゲートに逃げていったアワレでしかたなかった。

おれはタマムシ側に用なので反対方向だがまずはポケセンで回復休憩、そのあと徒歩でたどりつける位置にあるデパートで

皿とかフードその他補充すると金欠の状態異状に陥った

しようがない切り札を出すきんのため差し出すと

マジで5000円で買ってくれたのには嘘じゃない現実にビビったが

そのおかげで金足りたのは助かった〜姉感謝

ブレスパはピッピ人形好きらしいがもつと懐いてきたら金あつたら買ってあげるつもり

フレンドリイ・シヨップコーナーの他にもデパートは色々なのでウロウロしてると

そのうち特売コーナーについてたポケマメは海外の天然ポケモン食だけあつて値段が桁違いに高く、とても手が出なかつた

ねーちゃん金無いか言つてたけど絶対ウソだろ……

特売コーナーがポケマメなので進化系の石は売つてなかつた

つきのいしも当然だがなかつた

アレは並の石よりさらにレアリテイ高いからな

とりあえず各階ウロウロしてウインドウズシヨップینگだが

ドーピングアイテムは高すぎるし、わざマシンもだがどうやら使い捨ての旧式タイプは安いのなら買えるかもしれない値段。

当たり前だが使えるかどうかも知らないのを買うはずがない

下から順に見てつたので最後に屋上だがヒーローショーの準備がされていた

仮面戦隊ライダージャーやるんだつてよ

気になるものそつちより新入りのブレスパとみんなの仲良しが先なので断頭の思

いで戻りエレベーターで一階に移動

そのままデパートでてタمامシ公園行って交流の散歩に行くのだった